

2022

ALPHA

ALPHA

2023年10月

兵庫県立淡路景観園芸学校

兵庫県立淡路景観園芸学校

Awaji Landscape Planning & Horticulture Academy

はじめに



学長
柴田 昌三

令和5年4月より、淡路景観園芸学校学長に就任いたしました柴田です。よろしくお願いたします。

令和2年度から全国的に対応を余儀なくされてきた新型コロナウイルス感染症も、本年5月8日をもって感染症法における位置付けが5類感染症となりました。これまで約3年超にわたって続いた感染対策の大きな転換であり、行動は基本的に個人や事業者の判断に委ねられ、新たな生活スタイルの創造が求められる時代になりました。

淡路景観園芸学校でも、学生をはじめ教職員が世界的パンデミックの経験を活かし、どんどん外の世界へ出ていこうとしています。

本校は、阪神・淡路大震災を経験し復興を成し遂げた淡路島において、我が国で初めて「景観園芸」という学際的学問分野を掲げて平成11年に開学した教育研究機関です。

これまでに、兵庫県立大学大学院でもある「景観園芸専門課程」を約400名が修了し、兵庫県はもとより全国でまちづくりや環境のエキスパートとして、頑張っています。また、平成14年に開校し、公的機関において初めて設置された園芸療法の指導者を養成する「園芸療法課程」からは約270名が兵庫県園芸療法士として巣立ち、各地の医療、福祉現場などで日々、活躍しています。さらに、広く県民を対象とした生涯学習講座では、これまで7,000名を超える多くの修了者を出し、彼らは地域活動のリーダーとして活躍しています。

本校での学びの経験は、人々の身近な生活の片隅からグローバル化を進める原動力となっていると自負しています。

これまで予想もしなかった自然災害の頻発、感染症への不安など先行き不透明な状況が続きますが、こういった時代にこそ自然と共生し、美しい自然、花や緑が人と豊かに触れ合い、いつくしみながら生き活きと生きていくことができる「まちづくり」、「環境づくり」が必要なことは明らかで、本校の変わることはないテーマとして続くことを願っています。

これからも、より魅力的な学校として発展できるよう、世界レベルで活躍できる緑・景観への高度な知見をもち、そしてそれらを活かした地域経営のプロとなる人材の育成を目指していきます。

世界最先端のランドスケープ技術や日本の伝統技術・文化の習得、また、学校を挙げてのSDGsの推進等に取り組んで参りますので、今後とも、ご支援ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

※この学校報の内容は、令和4年度に行った教育・研究活動等について記載したものであり、
教員の役職名等は当時のものである。

目 次

はじめに

I 学校の概要

- 1 兵庫県立淡路景観園芸学校について 1
- 2 教育・研究部門の紹介 4

II 特集・記事

- 1 ランドスケープの新潮流セミナー —2022年度— 9
 - (1) 農業景観と地域観光 10
 - (2) 生態系サービスの視点から見たランドスケープ 11
 - (3) 農業景観と地域観光II 12
- 2 淡路景観園芸学校 SDGsの取り組みについて 13
- 3 園芸療法課程開講20周年記念事業 15
 - 暮らしの中のセルフ・ヒーリング講座 16
- 4 淡路景観園芸学校図書館(2022年度) 17
- 5 修了生だより
 - (1) 盆栽園に就職 18
 - (2) 淡路での経験や感覚が今の私を育ていく 19
 - (3) 起業しました 20
 - (4) 園芸療法課程(通学制)を終了して 21
- 6 2022年度 NPO法人園芸療法と歩む会 活動報告 22
- 7 受賞
 - 日本造園学会 関西支部賞 23
- 8 出展報告
 - 2022ひょうごまちなみガーデンショーin明石
 - 淡路花祭2022秋・高校生花とみどりのガーデン 26

III 教育・研究活動

- 1 教育活動
 - (1) 実践演習の概要 27
 - (2) まちづくりガーデナー・本科コース 32
 - (3) まちづくりガーデナー・マスターコース 34
 - (4) まちづくりガーデナー・テーマコース 36
 - まちづくりガーデナー・本科コースを修了して 37
 - まちづくりガーデナー・マスターコースを修了して 38
 - まちづくりガーデナー・マスターコースを修了して 39
 - (5) AGNとの協働によるキャラバン事業の推進 40
 - (6) 園芸療法課程 41

2 研究活動

(1) 受託研究等

- ①万博記念公園自然文化園における生物多様性に配慮した森づくり…………… 42
- ②住民団体の持続可能な花緑活動に関する調査
 - 人間サイズのまちづくり賞受賞団体を例として — …………… 43
- ③多井畑西地区交流広場計画策定及び整備に係る支援業務…………… 44
- ④DWファイバーおよびグロウアースの園芸資材としての評価研究について …………… 45
- ⑤IT技術を用いた花と緑のまちづくり 活性化可能性に関する調査2 …………… 46
- ⑥企業オフィス等で働く職員の机上に置く植物による
ストレス軽減効果や業務能率の検証 …………… 47
- ⑦令和4年度慶野松原林床植生適正化事業 …………… 48
- ⑧淡路島百景のPR及びまちづくりへの活用のための調査研究 …………… 49
- ⑨令和4年度慶野松原植生管理計画策定事業 …………… 50
- ⑩農作業を行う障害者の健康改善 …………… 51
- ⑪科研費B(分担研究)農福連携の発展過程
可視化と方向性解明に関する研究…………… 52

3 産学連携研究

- 大阪梅田ツインタワーズ・サウスをフィールドとする産学連携協定 …………… 53

IV 一年のあゆみ

- 1 淡路景観園芸学校入講式 …………… 55
- 2 淡路景観園芸学校修了式 …………… 56
- 3 兵庫県立淡路景観園芸学校祭(ALPHA祭2022) …………… 57
- 4 NPO法人 アルファグリーンネットの一年(2022年度) …………… 58
- 5 客員教員の招聘
 - (1) 白川勝信先生 …………… 60
 - (2) 立田彩菜氏 …………… 61
- 6 客員研究員の受入 …………… 62
 - (1) Margaret Ayer Barnes氏
 - (2) 横田 優子氏
 - (3) 林 まゆみ氏
 - (4) 橘 俊光氏(㈱空間創研 執行役員)

V 教員個人活動記録

- 1 活動報告 …………… 63

VI 資料

- 1 令和4年度 マスコミ等掲載(取材)状況 …………… 83
 - 2 情報発信 …………… 84
 - 3 淡路景観園芸学校の来訪者概要 …………… 85
-

I 学校の概要



1 兵庫県立淡路景観園芸学校について

1. 景観園芸と建学の理念

1) 景観園芸とは

学問的な歴史を俯瞰すると、「造園学」が使用されはじめた1961年の前までは、造庭学、風致園芸学、築庭学、景園学などと称されていたが、その後、経済社会発展に伴う自然環境の保全・創出や都市化に伴う住環境の質的向上などの要求に対し、造園学の対象領域が拡大され、造園という言葉での概念化が困難になってきたこともあり、今では、環境緑地や環境デザイン、環境造園、ランドスケープという呼称を使用する高等教育機関が一般的になってきた。

一方、「園芸」は、時代潮流の変化により、様々な変遷があるものの、現在、国際的にも「果樹園芸」、「蔬菜（野菜）園芸」、「花卉園芸」と3つに分類されている。なお、花卉園芸では、環境園芸、社会園芸、都市園芸など園芸の社会的位置づけの視点から多様な分類が生まれている。

「造園」と「園芸」、大学教育では、共に農学の分野にありながら、教育プログラムや教員・学生の相互交流、共同の調査研究も少なく、また、産業界においても、業態の違いもあり、明確に区分されており顧客の目から極めてわかりにくい状態である。

淡路景観園芸学校は、造園と園芸を融合させ、さらに、建築、土木、環境生態など本来一体となって生活空間を形成するための営為にお互いの関連性を取り戻し、まちづくりを経済性優先、効率性重視でない、自然と風土を見つめ直し、新しい社会における人々の豊かな暮らしのあり方を創造する文化的行為として位置づける新しい学問分野として「景観園芸」を目指すことになった。

2) 建学の理念について

淡路景観園芸学校は、「いきもの」に対する人類共通にもつ畏敬の念と愛情をもとに、常に人と自然の密接な関係の媒体になってきた花と緑を中心に、地域独自の風土や文化の創造、自然環境の保全に資する「景観園芸」を実践する教育研究機関である。

ここでは、先達から受け継がれた知恵を学びながら、新しい知恵を生み出し実践する教育研究の場として、またそれらが人々に広まっていく出発点になることを目標として、社会に役立つ専門技術者や指導者を育て、さらに、地域に有用な情報を育み、発信することとしている。

この学校の教員スタッフや修了生には、大きな使命がある。それは、我々の子供たちに受け継がれていくこの社会に、花と緑を通して本来の自然と共生する生活環境や文化をはぐくむ景観を保全、創造、再生すること。そこに、我々の教育が実学であり、学習歴を重視する由縁がある。

開設計画における建学の理念は次の通りである。

(建学の理念)

こころの豊かさは、自然との関わりのなかで育まれる。

「人と自然の共生」の思想のもと、花と緑に象徴される自然に学び、大地の恵みを知り、安全で、生命に満ちた地域社会を実現することが求められている。

花と緑をすこやかに生かし、あらゆる環境を快いものに創り守っていく、至高のこころと最良の技術を学ぶ景観園芸の実践的学術の府を、ここ「くにうみの地」淡路島にうち建てる。この学府を卒業したるものには、県土に、国土に、そして世界にあって、景観形成のパイオニアとして、こころ豊かな生活環境の創造、ひいては人類全体の共通の課題である地球環境の保全に資することをその使命とする。

2. 学校の5つの機能と目標

淡路景観園芸学校は、学校教育法に基づかない全国初の「景観園芸に関する」教育研究機関として位置づけられており、平成11年4月に開講した。人材育成機能、生涯学習機能、調査研究機能、情報発信機能、産業振興機能の5つの機能を有し、その多様な機能を果たすため充実した施設、教員、教育プログラムを備えるとともに、柔軟で先見性、独自性に富んだ運営を行っている。

組織上、兵庫県まちづくり部の地方機関として位置づけられており、学校運営に関する予算などはまちづくり部を通じて措置している。なお、教員については、2009（平成21）年4月から併設している、兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科（景観園芸専門課程が兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科に改組）の教授、准教授らが兼務として景観園芸学校の講義、演習を担当しており、現在15名の教員が配置されている。

景観園芸教育の構成としては、「景観デザイン」、「景観植物資源」、「園芸文化・生活」、「景観マネジメント」の4つの部門で構成し、さらに部門ごとに2つの専門分野を設け、計8つの専門分野が相互に連携している。

さらに、植物の栽培、庭園や公園などの空間の設計・施工などの実技や生涯学習を担当するインストラクター（6名のうち4名県職員、2名民間業界団体からの派遣）や、社会で活躍中の一流の実務者を招請した兼任教員、海外からの客員教員からなっている。

1) 人材養成機能

大学卒業生対象の景観園芸専門課程をはじめ兵庫県民を対象とした生涯学習教育、園芸療法課程など、花と緑への精通、人とところを豊かにする空間のデザインや快適な環境の創造を担う人材育成、さらに園芸活動を通し人の心と身体をケアする人材育成など地域の課題を解決するため地域性に根ざした実践的で多様な教育プログラムを実践することにより社会が求める有用な人材、何事にも果敢に挑戦し新しい分野を切り開く人材を育てることを目標としている。

〔景観園芸専門課程〕

この課程は、21世紀の景観園芸のプロを育てることを目標としており、大学卒業生を対象に、2年間のカリキュラムで、1学年約20名という少数で高密度な実践的な専門教育を行う。さらに、2年間全寮制というのも大きな特徴である。1999（平成11）年4月開校以来、417名が修了し、兵庫県景観園芸士として、国家公務員、地方公務員、造園・園芸関連企業等全国各地の多方面で活躍している。

〔園芸療法課程〕

農業や園芸が人の精神や身体へ与える効果に注目して、高齢・障害などの理由で支援を必要とする人に対して、健康の増進や生活の質の向上などを目的として行う「園芸療法」を学ぶコースである。

従来の1年間全寮制コースに加え2012年度より2年間の通学制コースを新設した。

本課程は、公共機関では、全国で唯一の本格的な園芸療法の指導者養成コースで、医療・福祉あるいは園芸・造園分野に関心がある人を対象とした、少数精鋭教育である（定員全寮制15名、通学制10名）。

学校内での講義および演習のほか、全国各地の病院や社会福祉施設で通算500時間の園芸療法実習が特徴的である。2002（平成14）年9月開講以来、269名が修了し、兵庫県園芸療法士として全国各地の医療施設、福祉施設で活躍している。

〔景観園芸専門研修〕

課題解決型

恵まれた演習環境を園芸・造園界の社会人や大学生にも開放し、学校の人材や情報との交流を通じて、研修生の課題解決を支える。

修了に際しては、課題解決の報告書作成を課することとしている。

2) 生涯学習機能

全ての県民に開かれた教育を行う一環として、花や緑のまちづくりに関する地域社会のニーズにこたえる多彩なプログラムを広く県民を対象に開設し、花や緑の講義や実技体験を通じて、積極的に地域づくりに、まちづくりに参画していくことを育むことを目標としている。様々な講座を開設しているが、これまでに延べ7,882名の方が修了した。そのうち、まちづくりガーデナー本科コースは、開校以来修了生のうち、1,353名が「まちづくりガーデナー」として県知事認定を受け、兵庫県内各地で活動する花と緑のまちづくりグループのリーダーとして活躍している。また、平成28年度からは、みどりのまちづくりに貢献できる様々な技術や知識を体系的に学べるまちづくりガーデナーマスターコースを開設し、130名が「まちづくりガーデナーマスター」として県知事認

定を受け、兵庫県内各地で花と緑の指導者として活躍している。

また、2010（平成22）年4月から行政とボランティア団体などとの間に立ち、花と緑のまちづくりや地域づくりを参画と協働で進める、地域に根ざした専門家を育成する「緑のまちづくりアドバイザー」コースを開設して、18名が「緑のまちづくりアドバイザー」として県知事認定を受けた。

なお、本科コース修了生を中心にNPO法人「アルファグリーンネット」を設立し、兵庫県各地のまちづくり活動を支援している。

3) 調査研究機能

「調査研究」は、新分野としての景観園芸を確立していくための独創的、先駆的な調査研究の展開を図るとともに、地域の課題を的確に把握し、解決していく地域研究を行っている。

本校教員の景観園芸に関する調査研究が、村尾育英会学術賞や日本造園学会賞などを受賞してきたことからその成果がうかがえる。

4) 情報発信機能

情報発信機能には、情報発信や社会貢献、さらに国際交流が含まれている。

情報発信では、毎年、本校を来訪する多くの人々を対象に、直接、学校を見て頂くと共に景観園芸の重要性を理解して頂くこととしている。学校のキャンパスは、庭園として全面公開しており、観光地としても位置づけられ、来訪者は、年間約14,700名にのぼる。また、学校報、紀要、ニュースレター、パンフレット、ホームページ、新聞など様々な媒体やメディアを通じて情報を公開し、学校で生まれた成果の還元を多くの県民に図っている。

社会貢献では、県民主体による自然共生地域づくりを「参画と協働」により推進するため、人材養成のプログラムにおいて、地域課題を取り上げるほか、兵庫県をはじめ県内の自治体が開催する各種委員会・審議会に教員が参加するなど、積極的な活動を行っている。また、地元自治体の淡路市と地域連携協定を締結し、地域社会への貢献を積極的に行っている。さらに、県内の花と緑のまちづくり団体への様々な支援、さらに、社会福祉施設などへの

園芸療法を活用した協力等を行っている。

国際交流では、ナイアガラ園芸学校（カナダ）との姉妹提携やボゴール農科大学農学部（インドネシア）、ワシントン大学森林資源学部（アメリカ）、北京林業大学（中国）、華東師範大学（中国）、とすでに協定を結んでおり、2013（平成25）年度には、8月にナイアガラ園芸学校と短期研修制の相互派遣制度を追加する調印を実施。また、11月には新たにロングウッドガーデンズ（アメリカ）やナショナルトラスト（イギリス）とも学術協定を結び、2014年度から相互に研修生を交換する制度を実施している。

5) 産業振興機能

産業振興機能は、異業種交流会の一つである「ひょうご環境緑化研究会」との連携を通じて最新緑化技術の開発や普及啓発を行っている。

また、兵庫粘土瓦共同組合連合会と協働して瓦素材を活用した新製品の開発をするなど地域資源を生かした地場産業の活性化に取り組んでいる。

3. 自己点検・自己評価および外部評価

1999（平成11）年4月の開校以来、学校運営は順調に推移してきたが、少子高齢化、地球環境問題の深刻化など当校を取り巻く社会環境の激変を踏まえるとともに、学校の将来展望を明確にするため、2004（平成16）年度に自己点検・自己評価を行い、2005（平成17）年度に外部評価を行った。

また、2018（平成30）年度には公益財団法人日本造園学会による認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」との評価を得た。

4. 新たな取り組み

淡路景観園芸学校は、「景観園芸」という専門分野を活かし、学際的な分野をつなぎ持続可能な社会の構築に向けて教育や研究を行っている。具体的にはさらに学校の存在価値をアピールするため、「世界と交流」「地域と協働」「緑・景観・地域経営」のプロとなる人材育成を目標に掲げた「新展開戦略」をまとめ、新たなカリキュラム実践等の新しいステージに進んでいる。新展開戦略では、プロジェクトの大半が里山や里海保全につながるもので、SDGs達成に向けた取り組みとなっている。

2 教育・研究部門の紹介

園芸文化・生活部門

園芸とは、人間が植物を多方面から理解しようとする行為である。人間が生活を営む身近な場所に植物を植えて育てることは、食用としての利用だけではなく、教育・文化の発展、快適な環境の形成、健康の改善、生活の質の向上を可能にする。

本部門では、このような植物と人間のかかわりに注目し、植物の栽培や暮らしの中での活用、療法としての利用についての幅広い知識と技術を深めることによって、人間における園芸の意味を明らかにし、生活のなかでの効果的な利用を目指す。

◆観賞園芸研究室

地球上の生物の一員であるヒトが同じ生物である植物に親しみを持つのは当然であろう。植物はヒトの生存や文化に大きな影響を与えている。とりわけ、わが国は植物との共存の歴史が長く、種々の行事に植物を敬う気持ちが表れている。科学や技術の進歩が必ずしもヒトに幸せをもたらすものではないことが明らかになった今日、植物に学ぶことはますます多いのではなかろうか。

園芸は植物を多方面から理解しようとする行為である。観賞園芸では、植物を食用だけではなく、やさしさ、美しさで評価する。美しい植物が織り成す優れた景観は、ヒトの文化がつくりだした最高の産物となる。美しい環境での安定した生活こそ、ヒトが求め続ける理想であろう。本研究室では、美しい景観を生み出す材料となる植物の生産と利用を使命としている。

スタッフ

田淵 美也子 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)
札幌 高志 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

◆園芸療法研究室

現代の日本では、国民の健康に関して、ストレス、介護予防、障害者の自立促進などがキーワードとなっている。

園芸療法は、心地よい緑のある環境、五感を刺激する植物、栽培活動、植物を用いた創造活動、園芸活動に参加する人がもたらす相互作用を活用して、人の健康回復や生活の質の向上をめざす療法である。

本研究室では、兵庫県知事認定園芸療法士の養成教育を行うとともに、園芸療法に関する国内外のエビデンス蓄積を行い、園芸がもたらすストレス軽減効果、認知症予防効果などの研究や、障害者農業就労支援の研究に取り組んでいる。

そして、エビデンスや研究結果をもとに、兵庫県園芸療法士と連携して、園芸療法を活用した認知症予防プログラム、子育て支援プログラムなどを地域で行い、園芸療法の普及拡大に努めている。

スタッフ

豊田 正博 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)
剣持 卓也 景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師)
上地 あさひ 景観園芸専門員

景観植物資源部門

景観とは、我われの周辺に存在する自然物や人工物の総和であり、ある一定の空間をもったものとして認知される。視認可能なみどりや建築物のほか、草花のかおり、川のせせらぎなど視覚以外のさまざまな要素が絡み合って捉えられる。みどりは、自然度の高い場所では自立した系として植物群落が成立し、土地利用の進んだ場所では人為的影響によって植生が変化する。本部門では、植物に関する知識と技術を深めることによって、地域の個性を表現する良好な景観を保全・創造し、生活に潤いや愛着を与え、誇りをもてる地域づくりを目指す。

◆造園樹木研究室

景観を形成するさまざまな要素の中に樹木がある。造園樹木における「景観園芸」とは、生態的・造園的手法のもとで樹木の取り扱いに関する知識と技術を駆使して、快適空間を創造することであると考えている。樹木の中には、新緑のみずみずしさ、開花期の可憐さ、そして紅葉の美しさと常に視覚的な楽しみを我々に与えてくれる。この点で生物季節（フェノロジー）を知ることは重要である。また、公園における緑陰効果や森林浴におけるヒーリング（癒しの効果）などの効果をもたらしてくれる。このように樹木は、景観に貢献するばかりではなく、人にとってもかけがえのない生活環境をもたらしてくれる。本研究室では、公園や庭園に植栽される樹木から、都市近郊林の景観を形成するような樹木を対象とし、景観要素としての樹木やその集団の役割や効果を多面的な視点から調査・研究をする。

スタッフ

藤原 道郎 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)
大藪 崇司 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)
栢田 行央 景観園芸専門員

◆プランティングデザイン研究室

自然と人と社会が共生できる豊かな社会を形づくるのが切に望まれている。自然域では自然生態系システムをいかに保全するかが、都市域の公園や庭園、街路などにおいては植栽された樹木や草本の特性解明を通じた適切な植栽計画や維持管理計画をどう作成するかが重要である。都市近郊域や農村域では自然の仕組みを手本としつつ、いかに人為的インパクトを調整しその機能や構造を良好に保つかが重要となってくる。このように都市域から自然域といった広範囲での景観要素としての植物の機能や人間の関与は異なっており、多様である。

本研究室は新たな教育・研究分野としての景観園芸の一分野として、空間を形づくるさまざまな要素、中でも植物を中心として個体から集団までその特性を探求するとともに、それら特性のデザインへの応用・展開手法について研究をしている。

スタッフ

山本 聡 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)
澤田 佳宏 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)
古田 智彦 景観園芸専門員

景観マネジメント部門

当部門は景観を研究対象とし、「みどり」をキーワードに、それをツールとして人と自然の両者の関係性を明らかにし、その望ましい姿をその地域において実現していく方策を具体的・実践的に検証し、提案していくことを目標としている。

そのため、広域レベルで地域景観の現況を正しく把握することから始め、現代社会における環境の状況や役割、それへの期待なども含めた広い視野をもって、目標の設定、目標を実現するための計画、計画を実行するためのシステム、さらに実現されたものをより一層良好な状態に誘導していく運営手法などを明らかにしていく、という手順をとっている。

◆ランドスケーププランニング研究室

ランドスケーププランニング研究室では、都市の緑地（公園、庭園、街路樹など）や農村の緑地（水田、畑、草地、里山など）を対象とし、人々の暮らしを安全で快適なものにすることはもとより、気候緩和、防災、生物多様性保全など幅広い機能を十分に発揮させるべく、いかに緑地を配置し、その管理運営をしていくかについて調査研究している。近年では、それらの緑地は高度経済成長や都市の一方的拡大が終焉し、成熟社会を迎えるなかで、人口減少や高齢化など社会構造の大転換に対応した新たな計画手法を求められており、緑地の実社会でのあり方や管理運営に重点を置いた研究や実践活動を展開している。また、「子どもの発達と環境教育」「ユニバーサルデザイン」といった新たな分野にも取り組み、幅広い層の健康創造を、みどりをツールとして実現していくための調査研究を実施している。

スタッフ

美濃 伸之 主任景観園芸専門員
（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授）

嶽山 洋志 主任景観園芸専門員
（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授）

◆花と緑のまちづくり研究室

安全、快適で美しく生き生きとしたまちを実現していくうえで、花や緑に代表される地域の自然との共生は不可欠なテーマである。しかし、それを実現していくのはその地域に住む人自身でもある。花や緑は美しく快適な環境を形成するだけでなく、人の心を癒し、喜びや活力を与えてくれ、さらには人と人をつなぎコミュニティ形成の媒体としても重要な役割も果たしている。したがって、このような花や緑の機能を最大限に生かすことによって、地域の人々の手による自立的で持続的なまちづくりが実現可能となる。しかし、このとき行政や地域住民、専門家やNPOなど多様な主体の有機的な連携も不可欠である。当研究室ではそのような連携に基づくまちづくりのあり方を探るとともに市民を対象とした講座の運営を通じてその普及・教育にあたっている。

スタッフ

平田富士男 主任景観園芸専門員
（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授）

新保奈穂美 景観園芸専門員
（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師）

蛭田 永規 景観園芸専門員
大中 博文 景観園芸専門員

景観デザイン部門

当部門は、景観形成に関わる空間のデザインとそれを支える技術を研究対象にし、快適環境の創出、美しい景観の形成を実現するために提案を行っている。

研究方針としては、土地固有のポテンシャルを引き出すこと、既存の価値ある自然的資源や社会資源を把握すること、特に身近な生活環境に対する問題の所在をはっきりと把握することに重点においている。そのためには、問題解決に向けた計画の策定や計画に従った具体的な空間設計、さらに設計を実現するためのテクニック及び関連する理論や技術上の裏付を明確すること、そして最後に最善案をまとめていくことが基本的なプロセスとなっている。

◆ランドスケープデザイン研究室

今日、いわゆる環境問題は人類の生存に関わる重大な社会問題として認識され、地球レベルでのアプローチが見られるようになってきている。身近な生活環境に対する取り組みも多様なレベルで推進され、問題の所在を把握し、解決に向けた努力が継続されている。快適な都市環境の創造やランドスケープデザインへの試みもこうした分野の一部である。環境に対する社会的関与は、風景として視覚化される。ランドスケープデザイン研究室では、風景を社会と自然の関係性が視覚化される部分としてとらえつつ、風景に関わる様々な表現を試みている。オープンスペースの計画・設計だけではなく、映像や立体造形を含む美術的な表現、文学的な表現、身体表現など様々な媒体をとおして風景の本質を表現することを目標とする。

スタッフ

沈 悦 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)

竹田 直樹 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

光成 麻美 景観園芸専門員

◆ランドスケープエンジニアリング研究室

人々の快適な暮らしの実現には、生命を内包する緑の景観を保全し、創出し維持していくことが必要である。そのためには、緑の空間を支えている技術や素材の追及が必要である。同時に、緑による効果効用の科学的な裏付けも必要である。このことからランドスケープエンジニアリング研究室では、緑による効果効用について検証していくことと同時に、空間形成に不可欠な緑化技術、空間の重要な要素である樹木をはじめとする植物材料、その生育の基盤となる土壌などの環境要素、空間の構成員である生きものや人との関係などの研究を行うことにより、真に豊かなデザインの本質を見抜く能力を養うことを目的としている。特に、樹木などの植物や昆虫などの生き物が、人々とともに生き生きと輝く景観を重視している。

スタッフ

岩崎 哲也 主任景観園芸専門員
(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授)

Ⅱ 特集・記事



1 ランドスケープの新潮流セミナー —2022年度— 中瀬 勲

多くの教職員の協力のもと、岩崎、澤田、沈、新保、平田、山本の各教員が主担となり、海外とリモートで結んで、令和4年度の新潮流セミナーを三回開催できました。これらの試みそのものが、ポストコロナ社会での、ランドスケープなど専門分野のセミナーなどのモデルを示しているものと考えます。

第一回は、「農業景観と地域観光」がテーマでした。国立宜蘭大学の朱氏から、台湾での水と土の保全を考慮した階段式ため池教育園の整備と活用のお話をいただきました。また、本校からは嶽山氏が淡路島の農業景観の成り立ちと観光への活用について話題提供しました。討論では、農業景観の資源としての捉え方について意見交換が行われました。

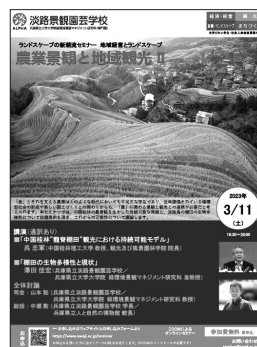
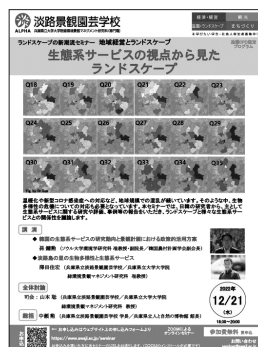
第二回は、「生態系サービスの視点から見たランドスケープ」でした。韓国ソウル大学の孫氏から、生態系サービスの定量的な評価をおこなうことの必要性やベネフィットの評価の必要性について話題提供がありました。本校の澤田氏からは、淡路島の生物多様性や生活文化に関する話題提供がありました。討論では、立地や評価者の違いによる生態系サービスの相違の認識や誰もが評価しやすい指標の必要性が議論されました。

第三回は、「農業景観と地域観光Ⅱ」が

テーマでした。桂林理工大学の呉氏から、世界農業文化遺産となっている桂林の龍背棚田の紹介と単に保全するのではなく、観光資源としての活用方法についての話題提供がありました。本校の澤田氏からは、観光資源となりうる農業資産についての提言がありました。討論では地域内で完結する規模と他との連携が必要な規模とがあるなどの議論がおこなわれました。

また、新潮流セミナーとは異なりますが、国際化推進事業の一環として、「シンガポールの国づくりと淡路島の将来展望」という講演会を、神戸新聞淡路政経懇話会、(公)兵庫県園芸・公園協会、(株)夢舞台との共催によりシンガポール特命全権大使のピータータン氏をお招きし、淡路夢舞台国際会議場で11月14日に行いました。さらに、シンガポール植物園のタン園長が11月21日に来校されるなど交流をはかりました。

コロナ禍ではありましたが、国際的なセミナーをリモートあるいは対面で開催し、それぞれの回に102、77、73、159人の参加者がありました。海外の方の来校など対面での交流もおこなわれてきています。このような流れを今後も続けていき、その成果をアフターコロナの社会に活かしていきたいものです。



セミナー各回のチラシ



シンガポール植物園長の来校

1 ランドスケープの新潮流セミナー

(1) 農業景観と地域観光

山本 聡・札埜 高志

1. 概要

第一次産業として、食料生産を担う農業。水田や茶園など、気候風土や地域の特性に応じた生産形態をとっていることから多様な景観を創出し、地域の特徴を表す景観となっていることも多く見られる。一方で、農業形態の変化などにより昔ながらの景観が変化している場面も見られる。2022年度の初回となる新潮流セミナーランドスケープと地域経営では、農業景観を資源としてとらえ、地域の特性をいかに創出していくかについて、日本と気候の似た台湾の事例や淡路島の事例等を紹介いただきながら考察する公開型のオンラインセミナーとして、『台湾における多様な農業と地域景観』について台湾の国立宜蘭大学園芸学 朱 玉教授、『淡路島における農業景観と観光資源』について本学 緑環境景観マネジメント研究科 嶽山 洋志准教授から講演をいただいた。また、全体討論として『農業の地域貢献の多様性』について本学 緑環境景観マネジメント研究科 山本 聡教授、札埜 高志准教授が参加した。最後に中瀬 勲 兵庫県立淡路景観園芸学校学長から総括いただき盛況な中終了した。

日 時：令和4年11月28日(月)18:30-20:00

会 場：Zoom

参 加 者：102名(兵庫県関係者、民間企業、学生)

基調講演：朱 玉(国立宜蘭大学園芸学系・教授)

台湾における多様な農業と地域景観

講 演：嶽山洋志(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科・准教授
／兵庫県立淡路景観園芸学校・主任
景観園芸専門員)淡路島における農
業景観と観光資源

総 括：中瀬 勲(兵庫県立淡路景観園芸学
校学長兼校長／兵庫県立人と自然の
博物館館長)

主 催：兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県
立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科

*造園 CPD 認定プログラム

2. 講演内容

(1) 台湾における多様な農業と地域景観

三層坪は2018年から2020年にかけて宜蘭県で整備された台湾初の水と土の保全のための階段式ため池教育園である。三層坪は観光スポットとして注目を集めているだけではなく、大礁溪水と湧き水を集めたため池は下流の畑や養殖池等80ヘクタールへの灌漑水の供給源となり、ため池とその周辺の緑地は地域の生物多様性を保全し、園内の蛇行する水の流れは地域の伝統的な農村景観を再現しているなど様々な機能を有していることが紹介された。また、宜蘭大学の学生達は服務学習として三層坪の清掃活動に従事しているとのことであった。



三層坪の階段状のため池

(2) 淡路島における農業景観と観光資源

タマネギの吊り小屋がつくり出す淡路島独特の景観、吊り小屋で収穫したタマネギを乾燥していることが淡路島産タマネギの美味しさと関係していること、農業担い手不足の解消と観光促進とを目指した収穫作業のイベント化などが紹介された。

1 ランドスケープの新潮流セミナー

(2) 生態系サービスの視点から見たランドスケープ

山本 聡・澤田 佳宏

1. 概要

温暖化や新型コロナウイルス感染症対応など、地球規模での混乱が続いている。そのような中、生物多様性の危機についての対応も叫ばれている。生物多様性に関する評価において、その指標として生態系サービスという考え方がこれまでも提唱されてきたが、社会にその概念が広がっていない現状がある。そのような観点から、日韓の研究者から主として生態系サービスに関する報告をいただき、ランドスケープと様々な生態系サービスとの関係性を議論する公開型のオンラインセミナーを、淡路景観園芸学校と兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科との共催により実施した。

講演は、最初に韓国での生態系サービスの研究動向について、ソウル大学の孫鏞勲准教授から事例を交えての紹介があり、続いて本校の澤田佳宏准教授から淡路島の生態系サービスの研究事例について紹介がおこなわれた。その後、総合討論を行い、立地や評価者の属性による生態系サービスの評価の差なども考慮に入れること、評価しやすい方法の検討が重要であることなど活発な議論がおこなわれた。最後に、本校の中瀬勲学長兼校長からの総括によりセミナーを終了した。

日 時：令和4年12月21日(水) 18:30-20:00

会 場：Zoom

参 加 者：77名（兵庫県関係者、民間企業、学生）

講 演 1：孫鏞勲（ソウル大学環境学研究科准教授・副院長／韓国農村計画学会副会長）生態系サービスの観点からみる韓国のランドスケープ研究

講 演 2：澤田佳宏（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科・准教授／兵庫県立淡路景観園芸学校・主任景観園芸専門員）淡路島の里の生物多様性と生態系サービス

全体討論：司会・山本 聡

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科・教授／兵庫県立淡路景観園芸学校・主任景観園芸専門員）

総 括：中瀬 勲

（兵庫県立淡路景観園芸学校学長兼校長／兵庫県立人と自然の博物館館長）

主 催：兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科

* 造園 CPD 認定プログラム

2. 講演内容

(1) 生態系サービスの観点からみる韓国のランドスケープ研究

生態系サービスは人間の生活の質に影響するため、定量的に正しく評価し市民に知らせることが重要であること、韓国では2017年から国レベルでの生態系サービスの評価と周知活動をおこなっていることが報告された。また、生態系サービスの中で人が感じるベネフィットの評価には社会科学的なアプローチが必要であり、評価指標開発が必要であることが述べられた。

今後、韓国では一般市民向けの生態系サービスの満足度調査を続け、緑地が量的または質的に不十分な地域を探すほか、地域のランドスケープ計画の目標設定にも利用していく計画であることが報告された。

(2) 淡路島の里の生物多様性と生態系サービス

淡路島の里のランドスケープの中でも、ため池と半自然草原が生物多様性を確保する上で最も重要な景観要素であることが指摘され、これらの生態系が支えている絶滅危惧種が例示された。また、淡路島の里の生態系サービス、特に、供給サービスについて、ため池の生物や野山の木の実を利用する文化について紹介があり、これらの生態系サービスの今後の活用の方向性が示された。

(3) 農業景観と地域観光Ⅱ

山本 聡・沈 悦

1. 概要

「食」とそれを支える農業はどのような時代においても不可欠な存在であり、近年提唱されている循環型社会の形成や美しい国土づくりの視点からも、「農」に関わる景観と観光との連携が必要だと考えられる。そのような観点から、中国桂林の農景観を生かした持続可能な発展と、淡路島の棚田の生物多様性について日中の研究者から話題提供を頂き、農空間と観光とのこれからの可能性について議論する公開型オンラインセミナーを淡路景観園芸学校と兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科との共催により実施した。

講演では、最初に世界農業文化遺産にもなっている中国の桂林を題材に観光資源として位置づいている農業の形態について呉忠軍教授からの説明があり、次に淡路島の棚田で見られる生物多様性について澤田佳宏准教授からの説明があった。その後、質疑や総合討論では、桂林が成功例であること、入園料の1割は棚田などの保護に、リフト代の4割は村に還元されていることが紹介された。また、桂林では地域内でも観光が発生しているのに対し、日本ではルート上の一部としての棚田であることなど、スケールが違うため対応も異なるのではとの議論がなされた。最後に中瀬勲学長兼校長により総括がおこなわれセミナーを終了した。

日 時：令和5年3月11日(土) 18:30-20:00

会 場：Zoom

参 加 者：73名（兵庫県関係者、民間企業、学生）

講 演 1：呉忠軍（中国桂林理工大学 教授、観光及び風景園林学院 院長）中国桂林”龍脊棚田”観光における持続可能モデル

講 演 2：澤田佳宏（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科・准教授／兵庫県立淡路景観園芸学校・主任景観園芸専門員）棚田の生物多様性と現状

全体討論：司会・山本 聡

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科・教授／兵庫県立淡路景観園芸学校・主任景観園芸専門員）
解説・沈 悦（同上）

総 括：中瀬 勲

（兵庫県立淡路景観園芸学校学長兼校長／兵庫県立人と自然の博物館館長）

主 催：兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科
*造園 CPD 認定プログラム

2. 講演内容

(1) 中国桂林“龍脊棚田”観光における持続可能モデル

桂林の龍脊棚田は中国南西部の農業システムとして評価され、2017年に世界農業文化遺産に認定された。最大1100段の棚田があり、欧米の調査でとられた写真によりその景観が広がり、観光客が来るようになった。観光地として入園料を徴集するとともに、民泊や旅館業などでの観光収入が非常に多くなっている。それらの収益の一部は地域へ還元され、棚田維持や観光施設の補修などに活用されている。また、建物外壁に地域の素材を使用することで景観を守っている。このように、農村振興や景観保全、少数民族や住民参加としての成功例である。

(2) 淡路島における農業景観と観光資源

日本では、重要文化的景観に位置づいている棚田がある。1999年に棚田百選が選定されたが、その見直しとして棚田遺産が2022年に選定された。淡路島100景でも棚田が選定されている場所があるが、これらの棚田は生物多様性の魅力もあり観光資源となりうる。しかし、近年、圃場整備やその他の要因により、これらの資源となるものが減ってきている。その保全に向けて、種子散布の補助による再生可能性についての実験などもおこなわれている。

2 淡路景観園芸学校 SDGsの取り組みについて

栞田 行央・新保 奈穂美

1. はじめに

本校ではSDGs達成に向けた取り組みを推進するため、2019年に「淡路景観園芸学校SDGs推進の基本方針」を策定し、教職員及び学生の有志から成る「淡路景観園芸学校 SDGs推進チーム」を結成し活動を開始した。

学生が中心に身近なこと、やってみたいことから活動を始めヤギ部、海岸清掃部、竹部、土部、薪部、野食部、養蜂部、米部の8つの部活として活動を展開してきた。学生の卒業や入学に伴い、活動メンバーが入れ替るなどで、一部の部活は活動を休止しているものもあるが、ここでは継続して取り組んできた活動について紹介する。

2. 2022年度の活動展開

2.1 ヤギ部【ヤギ除草による循環型緑地管理】

緑の環境や景観保全等による持続可能な暮らしの実現を目指し、2020年5月にヤギ2頭を導入しキャンパス内での循環型草地管理の実践を始めた。さらに学外の施設等においても実証実験を行い、ヤギによる緑地管理の課題や効果の検証を行った。ヤギたちは除草だけではなく、草地景観に彩りを添え、来校者や学生たちに安らぎや癒しを与える存在でもあった。

しかし、2023年3月に一定の成果を収めることができたこと、飼育体制の課題もあることから、ヤギを返還しこの活動を終えることとした。そこで3年間実践してきたヤギによる緑地管理の概要と成果について紹介する。

(1) 飼育環境

実技フィールド内に飼育拠点を設け、小屋、繋牧設備、放牧エリアの柵などの施設を整備した。近隣の牧場や飼育経験者からアドバイスを受け、学生有志や公開講座の演習などを活用し整備し、そのほとんどが手作りによるものであり工作技術の習得の一環ともなった。

当初は不備がある部分もあり、リードの絡まりや脱走などの事故、ヤギによる小屋や柵の破壊な

ども発生したが、経験と試行を繰り返し、概ね完成形と言える飼育施設を整えることができた。

(2) 日常管理

ヤギの飼料は主として草や枝葉と水であるが、繋牧飼育を基本としていたため、草が繁茂する場所に移動させる必要があり、毎日、教職員または学生の当番が繋牧箇所を移動させた。また草が少ない冬期は干草など市販飼料を購入せず、学内の樹木の手入れを兼ねた剪定を行うなど飼料の確保に努めた。飼料は草などの他、栄養補給のため配合飼料、ビタミン剤、鈣塩を定期的に与える必要がある、また伝染病予防のため投薬も必要である。


環境に優しい除草手法ではあるが、飼育に手間が掛かる点は継続していくうえで課題と言える。

(3) 除草効果

除草量は季節によるが、一頭あたり約10㎡/日(年間約3,600㎡)ということが確認できた。

気候変動対策の観点から、機械除草とヤギ飼養に伴う温室効果ガス排出量を算定したが、ヤギ飼養の方が排出量が多いという結果となった。除草速度においても機械除草が有利であるため、機械除草では危険な斜面地で用いたり、循環型の手法であること、動物とのふれあいによる安らぎや癒し効果あることなどを総合的に判断し、ヤギ除草の導入を検討する必要があることが示唆された。

(4) 学外での実証実験

コスト縮減や省力化を図る除草手法としての有用性、飼育未経験者がヤギ除草を
導入する際の課題などを検証することやヤギ除草を広げることで持続可能な地域づくりを推進するために、近隣農家や公共施設等での実証実験を行った。

実験に参加した施設の中にはヤギ導入に向けた検討を始める施設があるなど取り組みの成果が表れている。

■学外での実証実験実績

2020年(4箇所、6回、77日間)
・淡路市内農家(耕作放棄地)

2021年(4箇所、4回、52日間)

- ・有馬富士公園(都市公園)
- ・三田祥雲館高校(教育機関)
- ・丹波並木道中央公園(都市公園)
- ・加古川下流浄化センター(下水処理場)

2022年(6箇所、8回、76日間)

- ・くにうみ太陽光発電所(発電所)
- ・淡路島公園(都市公園)
- ・つどい岩岡(社会福祉施設)
- ・あさぎりの里(社会福祉施設)
- ・国営明石海峡公園(都市公園)
- ・北神戸田園スポーツ公園(都市公園)

(5) 公開講座の実施

この活動により得られたヤギ飼育のノウハウや、ヤギ除草の効果検証などの研究成果は、県民に還元するとともに、ヤギ除草を実践する人材を育成し普及を図ることを目的に公開講座を開催した。

■公開講座

- ・まちづくりガーデナー テーマコース
ヤギ除草実践講座(2021.10、2022.4、2022.10)
- ・兵庫県立大学生涯学習公開講座
ヤギによる環境に配慮した緑地管理手法(2022)

(6) 研究発表

ヤギ除草の実践により得られた知見は活動成果のひとつとして研究論文により発表した。

■論文

- ・菅井暁乃(2021) ヤギ繋牧による放棄棚田畦畔の植生管理と保全の可能性。実践演習論文
- ・守宏美・新保奈穂美・平田富士男(2022) 山羊飼育未経験者が山羊除草導入時に直面する課題。ランドスケープ研究85(5)
- ・守宏美・栢田行央・新保奈穂美・平田富士男(2023) 施設緑地の維持管理組織へのヤギ除草導入促進方策に関する研究。ランドスケープ研究(オンライン論文集)16

2.2 米部【自然との共生 / 持続可能な食料生産の試行】

淡路島北部の中山間地で見られた湿田は圃場整備などでその多くが失われ、これに伴い湿田の耕作技術が失われつつある。湿田の耕作技術の記録とそこに成立する生態系を知るために、湿田での

稲作を実践してきた。

湿田での稲作の実践は、昨年に引き続き2度目の挑戦になる。昨年は夏場に獣害(イノシシ)を被り収穫に至らなかったため、今年は獣害対策をとった。一部機械に頼るところもあったが、昔ながらの人力による手法より稲作に取り組み、稲刈り、天日干しの作業までたどり着いた。しかし、鳥害により籾が食べられ、今年もお米を食べることは叶わず、自然と共生する農業の難しさを知る結果となった。



2.3 土部・薪部【循環型生活の実践】

これまで部活として取り組んできた学生寮で発生する生ゴミの堆肥化、学内の里山管理で生じた薪を燃料とする薪ストーブの活用は、学生寮での生活の一部となり、循環型生活の定着というかたちで成果として表れた。

3. 情報発信

活動内容は学校ホームページに掲載するとともに、Twitter「淡路景観園芸学校SDGs推進チーム」で発信した。各ツイートは「兵庫県立大学 広報チーム」アカウントでもリツイートされ、毎回1,000を超える閲覧数を記録している。

このほか、兵庫県の施策「あわじ環境未来島構想」と連携した太陽光発電所内でのヤギによる除草の取り組みが注目され、ニュース番組(サンテレビ)に取り上げられた。

4. 最後に

研究科11期生が中心に立ち上げた活動は後輩が引き継ぎ、試行錯誤を重ねながら発展させ4年が経過した。そこには本校で学んだ知識や技術が取り入れられており、本校の特色を活かした取り組みとなっている。

また、ヤギ部では学外の施設と連携することで、多様な主体とのパートナーシップを通じたSDGs達成に向けた実践的な取り組みとなり、本校のプレゼンスを示す取り組みであったと言える。

本校のSDGs推進の基本方針に掲げる人材の育成、環境活動への貢献、環境負荷を低減するキャンパス運営に沿った実践的な取り組みとなっており、各部の活動はそれぞれ成果を残してきたと言える。

3 園芸療法課程開講20周年記念事業

豊田 正博

概要

2002年9月に開講し、2022年に開講20周年を迎えた園芸療法課程では、コロナ対策交付金（国庫）により、都市公園を活用した「園芸療法ストレス軽減促進事業」として、一般県民等に対する園芸療法の認知度向上のため、ストレス軽減講座とPR活動を実施した。

I. 公園を活用したストレス軽減講座

1. 事前研修（1回目）@淡路景観園芸学校

ねらい：園芸療法課程修了生への事業の周知
講座講師の募集

日 程：令和4年5月28日(土)

講 師：豊田正博、横田優子

参 加：園芸療法課程修了生 25名

内 容：都市公園におけるマインドフルネス（MF）を取り入れた予防的園芸療法、バイオフィリア、ストレスと疾患予防、自然や植物を使うMF、MF時と園芸時の脳活動、自然の中でのMF演習、公園における講座実施上の注意事項、公園の種類、公園管理、講座開催時の注意事項、禁止行為・要許可行為、有毒植物、コロナ感染予防対策

結 果：あわじグリーン館（講師希望4名、アシスタント希望11名）。舞子公園（講師希望3名、アシスタント希望10名）

2. 事前研修（2回目）@淡路景観園芸学校

ねらい：講座担当者による模擬講座演習

日 程：令和4年9月3日(土)

内 容：あわじグリーン館担当（顕谷、中田、北元）、舞子公園担当（山口、住山）による模擬講義と模擬体験実習。心拍測定器を装着したストレス軽減測定。

参 加：園芸療法課程修了生15名

3. 本講座 あわじグリーン館

日 程：令和4年10月23日(日)

参 加：14名（当日欠席1名）／定員15名

内 容：ストレスマネジメント講義、温室内で

のマインドフルネス、創作活動（ハイ
ドロカルチャー）、ストレス測定

4. 本講座 舞子公園

日 程：令和4年10月30日(日)

参 加：20名／定員20名

内 容：ストレスマネジメント講義、公園内でのマインドフルネス、創作活動（花マ
ンダラ）、ストレス測定

II. 他のPR活動

1. 園芸療法5つの癒しパネル作成

心地よい緑の空間が人を癒す、植物が人を癒す、栽培が人を癒す、創造活動が人を癒す、植物を介して人が人を癒すのパネルを作成。

2. ぼうさいこくたい2022

2022年10月22日(土) - 23日(日)に開催されたぼうさいこくたい2022@HAT神戸にて、園芸療法の癒しに関するパネル展示を実施。（上地インストラクター担当）

3. 県立リハビリテーション西播磨病院企画展

2022年10月3日(月) - 31日(月)開催の「園芸療法の紹介と園芸に関する自助具展」にパネル展示実施。

4. 園芸療法PRパンフレット作成

「園芸療法5つの癒し 人々の健康回復とセルフ・ヒーリングのために」を作成し、HPにも掲載した。



講座の実施状況

1. あわじグリーン館



上左：園芸療法士と館内散策



上右：園芸療法士の指導でマインドフルネス

下：ハイドロカルチャー

2. 舞子公園



上左：講義

上右：園芸療法士の指導でマインドフルネス

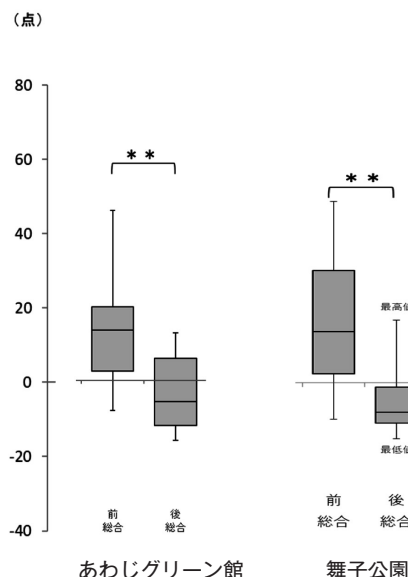
下左・右：花マンダラ作成

3. 講座のPR効果

両講座定員合計35名で申込36名、参加34名。園芸療法課程受験2名、合格2名で、PR効果は十分に認められた。

4. 心理的ストレス軽減

両講座の受講前後における受講者の心理状況について、POMS2を用いて測定した結果、受講後に得点が下がり、統計処理の結果からも大幅なストレス軽減効果が確認された（ウィルコクソンの符号付順位検定、 $p < 0.01$ ）。



5. 生理的ストレス軽減

心拍数の低下は、交感神経活動が抑制された状態であり、ストレス軽減指標となる。両講座とも、自由散策時の心拍数（最高値）とマインドフルネスや創作活動を行っている時の心拍数を比較すると、マインドフルネスや創作活動を行っている時の心拍数は下がり、両者の間には有意な差が認められた（Steelの多重比較、 $p < 0.01$ ）。

6. 今後の展望

園芸療法士が講師となっていく公園を活用したストレス軽減講座は、心理的ストレス、生理的ストレス軽減効果を得られることが示された。

令和5年度は、明石公園を加えた3か所で春と秋に講座を開催することとなった。将来的に多くの公園で同様のプログラムを実践し、園芸療法士活躍の場の拡大を図っていききたい。

4 淡路景観園芸学校図書館(2022年度)

白髪 アンナ

コロナ禍は3年目でしたが、学生は実習や資料利用の研究をのびのび進め園芸療法課程の学生の利用も増えました。

1. 図書館の資料等について

資料は前年より約千冊増で図書は5万1千冊を未製本雑誌は2万3千冊を超えています。ビジュアルライブラリーに保管している研究科修了生の修論は456点になりました。

雑誌製本は「河川」「趣味の園芸」「都市緑化技術」「Landscape architecture」「Gardens Illustrated」を計52冊行ないました。

購読和洋雑誌は、約60誌購入し、各種団体からの寄贈の年報も登録しています。映像教材(Online) 老年看護 援助技術シリーズ(全10巻)を今年度も学校全体で視聴し、約150件のアクセスがありました。外国雑誌は論文単位で利用し、今後J-stageにも論文を掲載する手続きを進めていただいております。

図書は淡路の新ガイドブックや淡路交通出版の「島の電車」の本、日本の岩石信仰の本や植物化石や恐竜の本などを購入しました。淡路市在住の故南光氏の植物観察に関する地域のイベントに当校関係者が参加です。

教職員数名で運営する図書委員会は1回開催し、学校報や紀要委員会も同時開催し学校報のペーパーレス化が決定しました。

2. 図書館のサービスについて

今年度の貸出冊数の合計は1882冊でした。館内で利用された資料を加えると2000冊を越えます。貸出図書では「日本植生誌」「疲れない脳をつくる生活習慣」「1年中押し花で楽しむ手作りのお花こもの」「まちを変える都市型農園」「あるかしら書店」「コッツウォルズ大人留学日記」「ポール・スミザーの『これからの庭』」「花と短歌でめぐる二十四気花のこよみ」「ドライフラワーでつくる大人可愛い季節のリースとアレンジメント」「ひとと植物・環境：療法として園芸を使う」「フィンランドで気づいた小さな幸せ365日」「まんがでわかる土と肥料」「わたしの風景論」「園芸療法：植物とのふ

れあい心身をいやす」「小さな苔ガーデニング」「心を癒す環境デザイン」などが人気でした。

雑誌では「Casa brutus」「My garden」「Gardens Illustrated」「園芸ガイド」「趣味の園芸」「ランドスケープデザイン」「ランドスケープデザイン」「国立公園」「作業療法ジャーナル」「公園緑地」「日経コンストラクション」「バイオシティ」「美術手帖」く「Isabellas」「グリーン情報」「ランドスケープ研究」「環境情報科学」「まち・むら」が多く利用されていました。

全国の大学等1000以上の参加館同志で文献複写の郵送、図書の貸借を行なっていますが受付が167件、依頼が31件、計198件に対応しました。

他館からの複写依頼は「新都市」「日経アーキテクチュア」「公園緑地」「国立公園」「Aroma research」「まち・むら」「都市公園」「ランドスケープ研究」「都市計画」「バイオシティ」などが多く、「淡路洲本城」「ふるさと兵庫の歴史」「奄美群島植物方言集」「公園緑地制度の研究」「東京公園史話」などを貸出し花みどりの専門図書館の役割を果たせました。

5月のトライやるウィークには中学生2名が参加データ入力や製本準備を体験してもらい11月アルファ祭が復活し重複本の提供を行なうことができました。

アルファライブラリー通信を4回発行し特定のトピックのブックリストのお知らせをしました。スタッフが高知県立牧野植物園、兵庫県立人と自然の博物館などを訪れ図書館の活性化のヒントを集めてきました。

桂信太郎氏、佐原氏、吉田泰巳氏、日本野鳥の会など各種団体、卒業生・元インストラクター・在学生・教職員の皆様からも寄贈いただき、有難うございました。

メールtosyo@awaji.ac.jpでお問い合わせや質問に対応しております。



5 修了生だより

(1) 盆栽園に就職

景観園芸専門課程 21 期生（緑環境景観マネジメント研究科 11 期生）

荒巻 友里恵（有限会社 清香園）

私は宮崎大学から教授の勧めで当校に進学することを決めました。オープンキャンパスで来た際に、その景色の良さと学ぶ環境が恵まれていることに惹かれ、入学を決意しました。在学中は活用デザイン領域にて、景観デザインのことを学んでおりました。樹木の基礎的な知識から、草花の栽培方法、専門的なソフトを使った設計やデザインのやり方などを教えていただき、私はその中で頭の中のデザインを形にできるソフトに興味を持ち、植物や景観を使った表現のやり方について研究をしておりました。その経験を活かし、今は埼玉県盆栽町にて盆栽の講師の仕事をしております。就職してからの仕事内容は多岐にわたります。広報、営業、接客、講師業等々当校で学んだことを活かしながら、仕事をおこなっております。例えば、広報の仕事では、イラストレーターを使い、チラシ・パンフレット作成と、イベント時のポスター作成などを引き受けております。講師業では、樹木の知識を活かし生徒様に盆栽の育て方や作り方を教えさせていただいております。盆栽教室の生徒様在籍数は計 3,000 名を突破し私自身も 20 名ほどの生徒様を教えるようになりました。外部からも盆栽教室の依頼があり、企業様の福利厚生として盆栽教室を開催したり、百貨店の上顧客向けに開催されるイベントに販売に向いたりと様々な経験をさせていただいております。樹齢 300 年を超える盆栽たちを身近に感じながら身が引き締まる思いで業務をしております。

在学時に盆栽の仕事に就きたいと考えていたわけではなく、今のパソコンのスキルを活かせる、樹木に関わる仕事ができればいいなと思っておりました。また、卒業制作のテーマが芸術に関わることであった為、芸術にも興味がありました。卒業制作では芸術という概念的なものとは一度しっかり向き合う機会を経て、芸術との向き合い方が自

分なりに確立され、盆栽と向き合う際も自分なりの解釈で考えることができています。それらの経験が活かせる今の仕事は大変なことも多くありますが、自分の得意なことや好きなことができるいい環境だと考えております。

盆栽の面白いところは、鉢の中で景色を創造できることです。在学中も私は景観をデザインすることを学んでおりましたが、造園施工実習などで景観を作るのには多大なる労力とお金・時間が必要であると身に染みてわかりました。また、生態系保全の関係から、土地の規模が広いと様々なことに考慮する必要があり、それを実際に形にすることはとても難しいとも学びました。しかし盆栽は、樹木や草花を使って小さな空間で鉢の中で壮大な景色を自分の手で作り上げていくことができます。枝の広がり、根の張り方、植物の持つ風格の力を利用して空間を作り上げていきます。小さな鉢の中で大自然を表現することができるのです。当然、生きている植物を扱うので、思い通りにいかないこともあります。そういったところも趣があり楽しめる要素の一つとなっております。

BONSAI は日本特有の文化として広く世界中の人々を魅了しています。日本の伝統的な文化を守り、広めることができるお手伝いができるといった面でもとてもやりがいのある仕事です。盆栽をたくさんの人たちに触れていただけるように、盆栽の楽しみ方を 1 人でも多くの人に知っていただけるようにと考えております。

今後も植物の芸術である盆栽の普及活動が続けていき、私自身の盆栽の技術の向上を目標に仕事に励んでいきたいと思っております。



(2) 淡路での経験や感覚が今の私を育ていく

景観園芸専門課程21期生（緑環境景観マネジメント研究科11期生）

上田 和子（ネスタリゾート神戸株式会社）

私が淡路の兵庫県立大学大学院に入学したのは48歳の時でした。私はそれまでに園芸店で勤めたことがあり、園芸植物の名前はそこそこ知っていましたが、樹木や雑草と呼ばれる草花の名前、自然植生や植物学について、知識はありませんでした。また、ネスタリゾート神戸で植栽管理の経験がありましたが、植物の育て方、見せ方・デザイン・景観づくり、あるいはそのような制作を進めるために必要なプレゼン力、マネジメント力などは皆無で、広い視野での知見がなく、自分のやりたい事やアイデアを実現することができず、狭い世界の中で虚しさを感じていました。

転機となったのは、「人生は50歳からだ。」という児玉清さんの言葉を聞いたからです。私はお花や植物が好きだけど、知らないことが多い。専門的に学んでみたい。遅すぎることはない。そう一念発起し、淡路景観園芸学校にたどり着いたのです。門戸を広く開けて下さり、学びの機会を与えて下さった貴校に本当に感謝しております。

現在、私はネスタリゾート神戸に復職し、ランドスケープ課の植栽管理の責任者として、『大自然の冒険テーマパーク』の‘大自然’の部分を維持管理しています。自然と言っても人が手を入れないと雑草まみれで藪のようになり、枯れ木は増えていきます。パーク内での安全上、伐採も剪定も不可欠です。ゲストの皆様が心地よいと感じる自然景観を演出できるよう、努めています。

修論で取り組んできた宿根草やグラスでつくる景観づくりについては、パーク内の各エリアで様々なチャレンジを試みています。乾燥が強い所、手入れがなかなか行けない所、水はけが悪い所、日当たりが悪い所、異なる環境や条件の中で、植栽植物を選択することの重要性は学校で学んだことです。この春、少し開けたエリアに野の花ガーデンを制作しました。自然植生

をお手本にランダムに草花を配置し、自然の中にいるような心地よい感覚と空間を創る試みです。このような施設では華やかさももちろん必要で、よりゲストに楽しんで頂ける要素を増やす為にフォトスポットなども制作していますが、自然を感じることができる‘自然風の風景’の出現は自然に対する親しみと興味への誘いです。原っぱに転がり、風や土の香りを感じて、小さな発見や驚き、美しさに触れる体験こそ、心の豊かさと未来の自然環境への保全に繋がると考えています。この思考の軸は淡路景観園芸学校で培った広い視野や感覚が私の中に芽生え育ちつつあるからだと思います。

これからも学びを継続し、経験を積み重ね、50歳を過ぎてもまだ成長をあきらめません。冬の間地上部が枯れてしまっても、厳しい寒さに耐え、春にまた力強い息吹を見せてくれる宿根草に自分を投影しています。もう一つの心の支えは淡路で出会えた仲間たちの存在です。一緒に過ごした日々は今も走馬灯のように蘇ります。仲間たちが楽しく前向きに植物や自然に向き合う姿を今もふと思い起こし、私の心の肥料となっているのです。



(3) 起業しました

景観園芸専門課程 17 期生（緑環境景観マネジメント研究科 7 期生）

王 慶平

景観園芸専門課程 17 期生（研究科 7 期生）の王慶平です。入学前は美術系の教員でした。屋外彫刻の仕事をしているうち、彫刻を含んだ屋外空間に注目しはじめ、公共緑地や庭園の空間に興味が湧きました。その後、日本庭園やまちの伝統美にも魅了され、日本への留学を決意しました。在学中はデザイン研究室の沈先生の指導で「草庵と茶庭」の卒業設計をまとめ、その成果が大阪府の日本民家集落博物館に展示されるようになり、多くの国の来訪者と一堂に、草庵の美をテーマにしたワークショップまでしました。この経験から庭づくりに関して少し自信をもつようになり、帰国して1年経った頃に起業をしました。

最初に故郷の山東省で「山東如和設計有限公司」という会社を立ち上げ、百貨店の和風装飾からはじまり、お寺の庭づくりまで展開しました。在学中に苦手だった CAD 製図や CG 作成などに再挑戦し、市販の植物の習性や様々な造園素材について短期間で覚えることに苦労しました。一昨年、仕事の主な拠点を上海周辺に移行し、「上海阿弥空間設計有限公司」という二

つ目の会社をつくりました。ところが、予想も至らないコロナ感染症が広がり、会社は潰れる寸前まで堕ちました。幸いなことに、あるお寺の住職がお寺の一部の部屋を無料で貸していただき、事務所や所員の住む場所はノーコストで解決し、会社を維持することができました。この予想外の難関を乗り越えた後、会社は順風満帆で進むようになりました。

現在は、お寺の屋外空間の設計を主な仕事としています。私は「ガーデン寺」という考えで、緊張感のある寺空間を「ガーデン」という来訪者にとって親近感のある要素を用いてやわらげるように計画をしています。このような考えは複数のお寺で賛同を得られ、実現に向けて工事が進んでいます。もう一つの仕事は個人邸の庭づくりです。在学中の指導教官のご紹介と指導を受けながら、質の高い庭も完成し、多方面から好評もいただきました。今振り返ってみると、やはり大学院で受けた実践教育が生きたなあと思いに、感謝の気持ちもいっぱいです。（下図は、沈教授のフォローを受けながら施工した和風の庭園です）



はじめに

私が園芸療法と出会うきっかけは、結婚を機に田舎生活が始まったことです。それまで都会で看護師をしており、植物とは無縁の生活を送っていました。都会では見かけなかった土が田舎には目の前にあります。何かを育ててみよう、苗を買って植えると大きく育ち、嬉しいという感情が芽生えたこと。知り合いもない環境での生活でしたが、ご近所からお声がけをいただく様になったこと。何よりいつも感じている肩こりが、植物に触れているとスーッと楽になっていることなど、心と体、そして交流が生まれる変化に気がつきました。この変化は植物の力なのかなどが気になり調べると園芸療法というものがあることを知り、学ぶことに決めました。

淡路景観園芸学校での2年間

入講当初の植物の知識は、苗を買って植えるという程度で、植物の名前も多く知りませんでした。植物を用いた療法ですので、やっていけるのかが心配でしたが、植物の活用方法について丁寧に教わり、2年目の臨床実習でとても役立ちました。うまく作れるかなと作りはじめは躊躇する私ですが、フラワーアレンジメント等の創造活動の授業で作っているうちに慣れてきて体が勝手に動き、作り終えた時には、「やったー」という達成感が芽生えていました。これが人の心に与える良い影響なのかと効果を実感しました。また、実習では対象者に応じた工夫が必要となり、種まきで言うと、土も種もともに茶色だと種を置いた位置が見えにくい。その工夫として使うのがティッシュペーパーで、土の上に置き、霧吹きで湿らせた上に種を置くと、どこに置いたかが見えます。高齢者は、今まで出来ていたことが日に日にできなくなっているという自覚があるそうで、その方々に「できた」という達成感が得られ自信に

つなげる関り方など、多くのことを学びました。2年目の臨床実習では、家庭や仕事との両立で、慣れない実習の初めの頃は特に大変でした。しかし、登校日に同期と会うことで気分転換になり、実習では徐々に対象者と関係性の構築ができ会話が楽しく、対象者の良い変化が目に見え嬉しいと思う瞬間を味わうことが出来ました。授業で、人が人を癒すと習いますが、人とのつながりはプラスになる面が多いことを対象者や同期から学ぶことが出来ました。

修了後の活動

看護師として地域にお住まいの方々の健康管理の仕事を行いながら、空き地を活用した地域住民の居場所づくり、介護をしている方の心身のリフレッシュ等の目的で園芸療法に携わり、そして、同期と園芸療法士の会「ソーシャルガーデナーズちょこ」を立ち上げ、園芸療法の視点から認知症に関する講座開催など、試行錯誤しながら活動しております。

これから

コロナ禍は、人とのつながりが難しい時でありました。園芸療法を通して多くの方々と出会い、疾患や障害の有無に関わらず、どなたも人との繋がりや癒しを求め、そして、いくつになってもワクワクしたいという思いが伝わってきました。この思いを大切にしながら、地域の方々が健康で過ごせるよう園芸療法士として精進を行い、地域貢献に努めていきたいと考えております。

6 2022年度 NPO法人園芸療法と歩む会 活動報告

理事長 岡野 裕

【はじめに】

兵庫県立淡路景観園芸学校の教職員の皆様、NPO 法人アルファグリーンネットの皆様、園芸療法をお引き立ていただいております行政・企業の皆様におかれましては、私たちの活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。無事に2022年度を通じて活動を行うことができました。

【2022年度活動概要】

- ・ 総会、理事会、運営委員会の開催
- ・ 会報誌の作成、発行（1回）
- ・ ホームページの運営
- ・ Facebookでのイベントの情報発信、会員の活躍の報告ほか
- ・ 令和4年度園芸療法定着促進助成事業プログラムについて、統一テンプレートを用いた集約作業
- ・ HT studies vol. 3
令和4年8月7日(日) オンライン開催
共催：NPO 法人園芸療法研究会西日本
講師：豊田正博先生
内容：
講演「園芸療法プログラムの科学的根拠」
交流会
- ・ 人間・植物関係学会、日本園芸療法学会
2022年度合同大会に向けての動画制作・上映
- ・ 人間・植物関係学会、日本園芸療法学会
2022年度合同大会
令和4年11月12日(土)、13日(日)
兵庫県立淡路景観園芸学校
内容：大会運営協力
グループ発信ブース出展
- ・ 花と緑のワークショップ
令和4年10月10日(月・祝)
国営明石海峡公園
内容：ラムズイヤーを使った人形作り

【2023年度方針】

新型コロナウイルス感染症を乗り越え、徐々に以前の社会と同じような状況に戻りつつあり、まちは多くの外国人が来日し、飲食店も賑わっています

約3年間、人と人が触れ合うことを大きく制限されたことによって、当会の活動も大きく制限された一方で、オンラインが普及し、遠方の会員とも交流が図られるなど、ある意味では距離を縮めることができました。ようやくリアルで会員と園芸療法について学べるようになり、リアルとオンラインの両方の良さを生かしながら、それぞれの現場で活動する会員を支援できるように取り組んで参ります。

次年度も当会の活動にご支援・ご鞭撻を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

【2023年度主な活動予定】

- ・ HT studies vol. 4
共催：NPO 法人園芸療法研究会西日本
- ・ 交流会（関東圏／関西圏）
- ・ 法人ロゴを用いたグッズ制作
- ・ 講師紹介事業
登録希望・検討者向け勉強会
一般向けワークショップ ほか



人間・植物関係学会 日本園芸療法学会
2022年度合同大会
当会のグループ発信ブースの様子

7 受賞

日本造園学会 関西支部賞

2022年10月22-23日

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

●タイトル：自閉症スペクトラム障害のある子どもとその親が公園で出会うトラブルや困難について（口頭発表）

●発表者：川尻 優（研究科13期生）・嶽山 洋志（准教授）

●概要：本研究は、自閉症スペクトラム障害（ASD）児とその親が実際に公園で出会うトラブルや困難の把握を目的としてアンケート調査を行った。結果、突出して多かったものは「順番が守れない／待てない」、「他児の玩具を取る」などルールに関するもの、「他児とのやり取り／交流が苦手」など交流に関するもの、「遊びを終われず帰れない」など遊びから切り替えに関するものであり、それらを苦として ASD 児とその親の足が公園から遠のいている様子すらうかがえた。

●タイトル：明石市東部地区における低地集水域に着目した浸水危険区域の可視化研究（研究発表）

●発表者：蘇 圓圓（研究科13期生）・沈 悦（教授）・光成 麻美（インストラクター）

●概要：日本の地方都市のインフラ老朽化、気候変動に伴う豪雨の頻発・激甚化により、防災機能の向上が必要を背景に明石市の低地域に注目、浸水危険区域を GIS の手段で可視化にすることを目的とした。分析の結果、対象地の排水能力以上の降雨時に形成される集水エリアを推定したことで、降雨強度の各段階ごとの地域治水対策を重点的に導入する区域を明らかにした。それによって、各段階の導入ニーズがより高い場所も判明でき、実現性の高い段階的な手法でグリーンインフラの導入が図れることを提案した。

7 受 賞

日本造園学会 関西支部賞

2022年10月22-23日

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

- タイトル：明石公園におけるデジタルオリエンテーリングの実践
(ポスター発表)
- 発表者：石 佳 (研究科 13 期生)・嶽山 洋志 (准教授)
- 概要：明石公園では、ポストコロナに対応した取り組みとして「公園内の生き物の観察等を支援するセルフ学習アプリの作成」が課題となっている。本研究では、そのような課題に対応した自然体験プログラム「デジタルオリエンテーリング」を制作することとした。
- タイトル：淡路島における岩石景観の特徴と
その観光利用のあり方について (ポスター発表)
- 発表者：續 佳瑄 (研究科 13 期生)・嶽山 洋志 (准教授)
- 概要：淡路島には弥生時代からの巨石信仰が残っており、巨石や奇岩などの岩石を有する集落や施設が多い。2021年に策定された淡路市文化財保存活用地域計画の中でも巨石信仰を1つの特徴として打ち出しており、岩石の保存と積極的な活用が期待されている。本研究では淡路島における岩石景観の特徴を把握するとともに、その観光利用のあり方について検討することとした。

7 受賞

日本造園学会 関西支部賞

2022年10月22-23日

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

- タイトル：福岡市のコミュニティパーク事業による公園緑地を活用した見守り・交流創出の効果の検証（ポスター発表）

- 発表者：浅尾 菜月（研究科13期生）・新保 奈穂美（講師）
- 概要：斜面住宅地のニュータウンでは閉じこもり等のリスクのため、地域住民同士で見守りが重要である。福岡市は「コミュニティパーク事業」として、地域住民による公園の自律的な管理運営を促し、公園施設「パークハウス」の設置を通じて地域コミュニティの活性化を試みている。本研究では当該事業による見守り・交流の促進効果や課題を調査し、改善するための企画を地域住民と実施した。本発表ではその調査・実践結果と課題を示した。

- タイトル：小規模オフィスにおける職場環境改善のための苔利用の提案（ポスター発表）
- 発表者：松本 祐季（研究科13期生）・岩崎 哲也（准教授）
- 概要：負担が少なく継続可能なオフィス緑化として9種類の苔を用いた可能性について検討を行い、以下の点を確認した。
 - 1) 管理の負担が少なく継続しやすい。
 - 2) 土がこぼれる心配がなく、オフィスが汚れない。
 - 3) サイズを調節することで個人の机の上に置くことができ、従業員が緑に主体的に関わる機会を創出できる。
 - 4) 一般的なオフィス緑化と比較し、すっきりとした緑化が行える。
 - 5) 種類や器で管理の頻度が変わるため、関わり方を調節できる。

8 出展報告

2022ひょうごまちなみガーデンショーin明石

淡路花祭2022秋・高校生花とみどりのガーデン

田淵 美也子・山本 聡・札埜 高志
古田 智彦・柘田 行央

【ひょうごまちなみガーデンショー in 明石】

9月18日(日)から9月25日(日)の期間に県民主体のイベントとして開催された「2022ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」(主催:ひょうごまちなみガーデンショー実行委員会)に主催者からの依頼により、デモンストレーションガーデンを出展しました。

今年度の開催テーマである「花と緑に出逢えるまちづくり」のもと、本校からは、ガーデンデザイン演習の一環として、景観園芸専門課程24期(研究科14期)の尼崎達也さんデザインの「一人一人の時間」をテーマに出展しました。それぞれの人が歩んできた軌跡と懸命に生きている今この瞬間を大切にできるよう、時計のインデックスにある靴と多様な植物で軌跡と時間をあらわしました。

期間中、のべ10万人の来場者があり、多くの方に出演庭園を楽しんで頂きました。

【淡路花祭 2022 秋・

高校生花とみどりのガーデン (特別出展)】

9月17日(土)から10月30日(日)にあわじ花さじきで開催された「淡路花祭 2022 秋・高校生花とみどりのガーデン (主催:一般財団法人淡路島くにうみ協会)」に主催者からの依頼によりデモンストレーションガーデンを特別出展しました。景観園芸専門課程24期(研究科14期)の授業であるガーデンデザイン演習においてデザインされた上原俊樹さんの作品「水と陸」を造営しました。

作品は、淡路瓦を使用して鳴門の渦を表現し、手水鉢からあふれる水を砂利で表現したシンプルな庭です。手水鉢は、空や枝垂れモミジの写りこみを想定して鏡状に施工しました。

全期間に渡り展示をおこない、多くの来園者に楽しんでいただけました。



ガーデンショー in 明石 (左) 及び花と緑のガーデン (右) での展示 (施工の様子と完成後)

Ⅲ 教育・研究活動



1 教育活動

(1)実践演習の概要

「景観園芸演習」は、学生が施策マネジメント実践演習、保全管理実践演習、活用デザイン実践演習の各領域に属して行う「修了演習」を総称したものであり、学生が一年をかけて2年間の学習の集大成として取り組むものである。

2期生の学生は、指導教員の指導のもと、自ら課題を発掘して設定し、その解決方法の提案やその有効性の検証などの作業を行い、その成果を論文あるいは作品、プロジェクト報告の形式でまとめあげるとともに、最終的にその内容を一般公開の発表会にて発表し、評価を受けることによって単位認定、成績評価を受ける。その成果の内容および発表の態度等は、「取り組んだテーマに社会性があるか、また、それが明確になっているか」「導き出した結論がきちんとしたデータにもとづいた客観的かつ論理的なもので妥当性があるか、論理に飛躍がないか」「取り組んだ内容が独創的であり、チャレンジ精神が感じられるか」「当校から発信する成果として、それにふさわしい高い質があるか」「プレゼンの資料や態度が魅力的で訴求力があり、適切か（時間を守っているか、質疑に適切に対応しているか、など）」といった観点から審査が行われ、最終的に一点の「景観園芸賞」が決定される。

今年度の実践演習も、4月にテーマ発表、7月に中間発表を経て2023年2月14日の最終発表に至った。最終発表会は、コロナ禍のため一般公開とはしなかったが、例年通り外部からの兼任教員を中心とした審査委員会による審査が行われ、「景観園芸賞」には續 佳瑄の「淡路島における岩石景観の特徴とその観光利用のあり方について」が選ばれた。

以下に、本年度の各学生の演習の成果概要を示す。

福岡市のコミュニティパーク事業による公園緑地を活用した見守り・交流創出効果の検証

浅尾 菜月

福岡市は公園の使いづらさや見守り・支え合い機能の低下などの課題の解決に向け、コミュニティパーク事業を展開し、一定条件を満たす場合、公園施設の休養・教養施設である「パークハウス」の設置を認めている。本研究では見守りを「顔見知り以上の関係性で互いを気に掛け合う」、交流を「挨拶以上の関わり」とし、パークハウスの見守り・交流創出効果を検証することを目的に、パークハウスを設置する公園で和風カフェや園芸教室といった企画を3回開催した。結果、地域住民に企画者になってもらい、孤立の兆しのあるその知人を巻き込むことで、見守り効果を創出できた。また閉じこもりや会話欠如型孤立傾向のある地域住民を含め参加者に対し、新たな顔見知りをつくったり、顔見知りとも関係性を深めたりといった、交流の機会を創出した。今後は継続的な開催による長期的

な検証が望まれる。

児童発達支援の園庭における環境整備のあり方について

—自閉症スペクトラム障害のある子どもたちが好む遊びに着目して— 川尻 優

自閉症スペクトラム障害（ASD）は発達障害のひとつである。就学前のASDのある子ども（ASD児）への支援には、児童福祉法に基づく「児童発達支援」がある。その提供施設における環境のあり方について昨今議論が進められつつあるが、それらは主に施設内部の検討が多く、園庭についての議論は不十分である。さらに、ASD児の生活における快適性などが重視されており、ASD児が好んでとる遊び行動に着目した議論は少ない。よって本研究では、児童発達支援の提供施設に対してアンケート調査を通じて、ASD児が好む遊びと園庭環境の整備状況を把握、ASD児が好む遊びを支える

園庭環境のあり方および今後求められる環境整備について検討することとした。そのうえで現地ヒアリング調査を行い、導入可能な具体事例の収集も行った。

明石公園におけるデジタルオリエンテーリングの実践

石 佳

2021年3月に施行された兵庫県の都市公園リノベーション計画では、園内の生き物の観察等を支援するセルフ学習アプリを作成するなど、個人や少人数で楽しめるレクリエーションの重要性が指摘されている。そこで本プロジェクトでは、明石公園を対象地に、管理者へのヒアリングとフィールドワーク、名風景調査の結果を踏まえ、デジタルツールを用いた自然・風景・歴史が遊びながら学習できるデジタルオリエンテーリング（園内に設置したQRコードをiPadやスマートフォンで読み取ると、クイズが表示され、回答すると次のポイントが示されるプログラム）に取り組むこととした。一般来園者と明石小学校の3年生を対象に実践した結果、実体験がより豊かになったり主体的な気づきを促すことに繋がったりすること、また利用頻度の低いエリアをより有効に活用できることが確認できた。

淡路島における岩石景観の特徴とその観光利用のあり方について

續 佳瑠

淡路島には弥生時代からの巨石信仰が今もなお残っている地域があり、巨石や奇石など岩石を有する集落や施設が多い。さらに2021年に策定された淡路市文化財保存活用地域計画の中でも、巨石信仰は一つの特徴として打ち出されており、巨石や奇石の保存と積極的な活用が期待されている。そこで本プロジェクトでは、淡路島における岩石景観の特徴を把握するとともに、その観光利用のあり方としてパンフレットや映像制作に取り組んだ。調査の結果、淡路島には岩石がある地点が35ヶ所存在すること、またそれらの71.4%は花崗岩でできているこ

と、海岸沿いから山頂まで4つの景観タイプが存在することなどを確認した。さらにこれらの結果を生かして、観光客を海から山へ誘うパンフレットや動画を作成した。

身近な公園において地域コミュニティレベルでの国際交流機会を作るプログラム開発

陳 倩

近年、日本に在住する外国人はますます増加している。それに伴い、日本人住民と外国人住民の間にトラブルが発生することが多くなってきている。それを解消するために、相互に文化などを理解していく環境づくりが不可欠である。そこで、本研究では、身近な公園の機能に着目し、コミュニティ内で外国人と日本人がそこに集まって、いっしょに何かに参加することをつうじて、互いの文化などを相互に理解し、国際交流機会を作る取り組みのあり方を考えた。具体的には、神戸市灘区の公園でひまわりの生長から料理までのプログラムや地域内の落ち葉の堆肥づくりを行うことで、日本人と外国人の交流の機会を創り出した。このようなプログラムは多くの外国人の友達を作り、外国人との交流に対する抵抗感を減少させる効果があることがわかった。

高齢化社会におけるコミュニティガーデンの持続的運営に向けた支援

一神戸市のすずらんコミュニティガーデンを事例に
バインタナ

日本の郊外住宅地では高齢化が進んでいるとともに、コミュニティガーデンでも参加者が高齢化し、参加者人数の減少により長期的な運営が困難になっている。そこで本プロジェクトでは神戸市泉台にあるすずらんコミュニティガーデンを事例に、ガーデンの宣伝方法、活動内容企画、ボランティアシステムの構築について支援し、持続的な運営を目指すこととした。具体的には、2022年9月にパンフレット3500枚分を地域住民のポストに投函、近隣福祉センター、

集会所等の公共エリアに置いた。10月、11月に草花を用いたコースターDIYワークショップを3回開催、12月にボランティアシステムの構築を提案した。結果、新規会員4名、多年齢層のイベント新規参加者22名が増え、ボランティアシステム構築に対する提案も採用になった。本プロジェクトは、コミュニティガーデンの今後の持続的な運営に貢献したと考えられる。

農のあるライフスタイルデザインの提案 —トランジションタウン藤野のケーススタディ およびパーマカルチャーガーデンの実践—

萩原 美和

日本の農業は後継者不足や高齢化に伴い、存続が難しくなっている。そこで本プロジェクトでは、農業経営ではなく、環境や健康に配慮した農のある暮らしのデザインとしてパーマカルチャー（以下PC）を選び、PCを取り入れたコミュニティであるトランジション藤野の暮らしの実態とデザインの要素を解明し、コミュニティが地域にもたらす、人と自然が共存できる方法を明らかにした。これを参考に、ガーデン施工、ワークショップを開催し、農のある暮らしの提案を行った。結果、トランジション藤野では、自発性にもとづき組織される多様なテーマのワーキンググループや自然資源を活用した住まいのデザインがみられた。それらの要素を取り入れたPCガーデンの実践では、参加者の6割が循環型の暮らしに興味をもち、PCデザインが持続可能な農のある循環型の暮らしを実現させるきっかけになると言える。

あわじ石の寝屋緑地に眠る里山資源の記録と活用の試行

—自然と人との関わりをたどれる公園をめざして—

栗井 久仁子

あわじ石の寝屋緑地は、敷地内に里地里山の自然環境を取り込んでいるが、開園以降、それを活かした集客が十分にはできていない。そこ

で、緑地内の里山資源の把握と活用の方向性の検討を目的として、現地調査・聞き取り調査およびSNSでの情報発信とイベントの試行を行った。全76回のフロラ・フェノロジー調査の結果、7種のRL掲載種を含む256種の分布と緑地内での開花・結実期を把握した。聞き取り調査では、緑地に取り込まれる以前の水田で耕作していた農家から、当時の農作業等について情報を得た。これらの里山資源情報をSNS（Twitter）で毎日発信したところ、各地の植物好きユーザーからの支持を得た。イベント試行では、安全な緑地内で里山の自然に触れられる点が好評を得た。一方、当緑地の知名度の低さが判明した。今後は、近隣府県の自然好きを対象とした広報が重要である。

大阪梅田ツインタワーズ・サウス開設1年目の緑化施設利用と認知に関する研究

洲上 楓

本研究は大阪梅田ツインタワーズ・サウスの緑化施設の利用と認知度の変化を明らかにすること、今後梅田の再開発において資する知見とすることを目的とした。

その結果、緑化施設利用に関しては、屋上庭園の通行利用人数は平日と休日で差が大きかった。屋上庭園とエレベーター、オフィス棟の位置関係からオフィスワーカーが屋上庭園の緑を無意識に享受している可能性が示唆された。屋上庭園が見える場所において苔テラリウムを作成する講座を行ったところ、本調査地への好感が得られた。その成果品の苔テラリウムは場所と連想される物のため枯れないよう定期的に手直しすることが重要と推測された。

緑化施設の認知度に関しては開設1年では向上が認められなかった。しかし訪れた人からは好印象を持たれており、今後の広報活動が期待される。

茅葺き民家を構成する植物素材と明治期以降の土地利用の変遷

一山に近い八重地集落の暮らしに着目して一

吉武 佳穂

本研究の目的は地域の植生 / 土地利用と民家の植物素材に利用する山林資源との対応を明らかにすることである。調査地は身近に山林資源がある徳島県勝浦郡上勝町八重地集落で、地図資料、空中写真、現地調査、聞き取り調査からGISを用いて1907年および1976年の植生 / 土地利用図を作成した。明治期と江戸期に普請された民家2軒を調査した。1907年は落葉広葉樹林が68%と優占し、ツガ・モミ林は尾根部や急傾斜地、草地は緩やかな広い斜面に分布していた。1976年はスギ植林地が74%と優占していた。主な構造材は江戸期民家はツガ、明治期民家はスギであった。植林と用材生産が一般化した明治期後期から植生 / 土地利用方法が変化し始め、1960年代以降資源の自家利用は減退し商業用が主になった。木材を人力で運搬するための「木馬道」の経路など地形や植生に対応した資源利用が明らかになった。

芸術系博物館におけるランドスケープデザイン

一東洋造園芸術博物館を対象地として一

王 滋蘭

本制作は美術館・博物館施設の集客力を高める方法の一つとしたランドスケープによる施設の新たな魅力の創出を試みた。2024年度に開館予定の東洋造園芸術博物館の屋外空間を対象地とし、北宋時代に郭熙が中国画論の『林泉高致』で論じた「三遠法」の山の「平遠」「高遠」「深遠」と言った「三遠」の手法を再整理し、その表現手法を用いてランドスケープデザインに活用した。山水画の山脈をモチーフした建築物の造型を含めた山水景観をデザインし、「三遠法」による「遠」の効果を備えた空間を作り出した。この景観づくりの手法により、絵的なシーン景観を創出することができた。また、「三遠法」の表現手法から、「平遠」を用いた空間の開放感、「高遠」と「深遠」を用いた空間の距離感の形成、

豊富な景観体験をもたらした。

中国の農村地区における小学校の環境デザイン

蔡 昊峰

中国では少子高齢化と急速な都市化により、農村地区の小学校は大規模に減少し、農村部の退学率が増え、農村文化の凋落、人口の減少を招いている。これらの背景から農村小学校の存続は、農村地域の活性化にとって重要だと考える。本制作は中国の陳宅鎮農村小学校を対象地とし、地域の特色を反映した小学校の活用を考え、自然教育と地域交流ができる校庭デザイン提案することを目的とした。進め方は、文献と現地調査の結果を分析し、試案を作成し、全体プランを作成した。その特色は以下である。

- 1) 児童が自由に改造できるスペースを設置したことにより、児童は校庭・地域に対する愛着が向上するきっかけを与えた。
- 2) 田畑を設置したことで、都市部の自然教育を体験したい児童を誘致し、都市と農村の交流を促進することが期待できる。
- 3) 小学校は地域住民に開放され、地域住民の交流の活発化が期待できる拠点の形成する。

地方都市における低地集水エリアのグリーンインフラの導入に関する研究

一明石市を対象として一

蘇 圓圓

本研究は、グリーンインフラの社会実装に向けた課題解決にあたり、浸水被害が発生しやすい低地集水エリアに着目し、グリーンインフラ導入のニーズがより高いエリアを明らかにし、グリーンインフラを重点的に導入する可能性及びその効果を定量的に検証することを目的とした。方法としては、まず、GISを用いて5段階の降雨で形成された低地集水域を可視化し、グリーンインフラ重点導入区域として抽出した。次に、各段階の降雨強度によって形成された低地集水エリアの影響範囲、分布特性及び土地利用状況を判明し、その特徴に応じた段階ごとの

グリーンインフラ導入計画と導入モデルを設定した。それに基づき、重点的にグリーンインフラを導入した場合の各降雨レベルの累積雨水量と抑制量を定量的に算出した。その結果、本研究で示したグリーンインフラの導入手法は、40-100mm/hrの浸水を解消する目標に対しては有効性があることを明らかになった。

淡路景観園芸学校における人と生物が共存するビオトープの提案

馮 子謙

生物多様性ひょうご戦略の現状の課題の一つは、生物多様性の保全等に関わる人材不足である。戦略の実現には各方面の協力が必要である。淡路景観園芸学校は、成人期の環境学習や教育を推進するのに役立つと考えられる。このため、本提案では、淡路景観園芸学校の敷地を対象地として取り上げ、生物多様性ひょうご戦略の人と自然が共生する理念を組み合わせることにした。現地調査と文献調査の結果を分析し、既存の生物と植生に基づいて、具体的な計画を提案した。本提案には以下の特徴がある。

- 1) 学校の敷地を活用し、学生や来訪者に自然知識を学ぶ場を提供し、自然とふれあう機会を提供する。
- 2) 対象地の観賞性と興味を高め、学校の魅力を高める。
- 3) 生物を観察しやすい施設を設置するとともに、生物に良好な生息環境を提供する。

職場環境改善のためのコケ利用の提案

松本 祐季

労働者はおおよそ生活の1/3を職場で過ごし、職場環境を快適な空間とすることは、労働者の心身の健康につながると考えられる。近年、職場環境の改善の手法の一つとして「オフィス緑化」が注目されている。しかし、オフィスへ緑を導入するためにはスペースや管理の負担、オフィス環境など課題も多い。そこで、本研究では、これら課題を解決し、企業・従業員

双方にとって負担が少なく継続できる提案を行うことを目的としてコケに注目した。手のひらサイズのコケ作品を自席に配置する「小さな緑化」を提案することで、職場の癒しを提供する。また、研究を進める中で、単に緑を導入するだけでは継続につながらず緑を活用した職場環境改善につながらないとの考えに至り、コケを中心とした「仕組み」も合わせた提案をすることとした。

草刈機のスマート化に関する調査研究

山下 光二

農家にとっての草刈は農業生産での価値を産まないにもかかわらず負荷が非常に大きい作業となっている。特に中山間地では、急傾斜の法面が多く、そこでの作業は重労働で、また、夏の暑い時期には手作業で短時間しかできないなど、農家の負担は非常に大きく、農業従事者の大きな障害になっている。一方、スマート農業が衰退していく農業を救うと言われているが、現在のスマート草刈機と呼ばれる機種は、現場のニーズにマッチングしておらず、現場のニーズに対応した草刈機が開発されれば、農家の負担を大きく軽減し、農業生産により注力でき、日本のスマート農業を推進する大きな力になると考えている。本研究報告では、農家のニーズにマッチングした草刈機のあるべき姿を明確にすることを目的にした調査結果の報告と、今後の草刈のあり方として草刈に専念した地域企業のビジネスモデルについて検討する。

(2)まちづくりガーデナー・本科コース

大中 博文 蛭田 永規

1. 本科コースの概要

・本科コースの位置づけ

「まちづくりガーデナー・本科コース」は、「まちづくりガーデナー・テーマコース」とともに構成される本校の生涯学習コースの中心をなすコースであり、地域における「花と緑のまちづくり活動」のリーダーを掘り起こし、支援、活発化させる「花と緑のまちづくり指導者」の育成を目的としている。

これに対して、「テーマコース」は「本科コース」修了生あるいは一年に及ぶ通学時間が取りにくい人を受講対象とし、1～4日間本科コースで学ぶテーマのなかの特定の分野をさらに深く掘り下げて学ぶコースである。

・教育目標

本科コースの修了者は、県知事より「まちづくりガーデナー」として認定され、各地域においてその学習成果を具体のまちづくり活動に生かすことが期待されている。そのために必要な知識、技術を総合的に身につけることを目指しており、園芸知識の習得のみならず、修了後に地域でのまちづくり活動の中核となる実践者を育成することを目標としている。

・講座の経緯

本講座は、アメリカ、カナダで制度化されている「マスターガーデナー」を参考に設定されたものであり、本校の開講と同時にスタートし、今年度で24年目を迎える。

・カリキュラム構成

年間カリキュラムは、月1回3日間の講義、実習×10か月間で構成されており、さらに、前期（4月～9月）「花とみどりのまちづくりコース」および後期（10月～3月）「花とみどりの地域づくりコース」に大きく分かれる。

前期は、日常生活の身近な環境を花や緑、そして自然を活用して豊かなものにしていくことを、後期は、都市や地域をとりまく自然環境に目を向け、少し広い視点で自然と共生する地域づくり活動のあり方を考えていくものである。（カリキュラム下表参照）

表 まちづくりガーデナー・本科コースのカリキュラム

(●: 講義 ○: 実習)

期	回	月	テーマ	主な内容	期	回	月	テーマ	主な内容
前 期	1	4	植物・デザインの基礎を学ぶ	●あなたもまちづくりガーデナー ●景観デザインの植物の活かし方 ○校内見学・種まき実習	後 期	6	10	花とみどりのまちづくりから地域づくりへ	●兵庫県土の環境を考える ○日本の植生と地域性、里山の維持管理実習 ○学内フィールドを活かすワークショップ
	2	5	花とまちづくりへの第1歩	●花と緑のまちづくりの進め方 ○緑地デザイン・設計・現地整備 ○花壇の管理、花苗のポット上げ		7	11	花とみどりの地域づくりへの第1歩	●まちづくりガーデナーの役割 ○農業視察、体験実習 ○花壇の管理・準備
	3	6	花とみどりのまちづくりヘトライ	●施工計画をつくろう ○緑地施工実習 ○里山の草原再生と観察会		8	12	花とみどりの地域づくりへのトライ	○園芸療法の福祉への活用実践実習 ○インタープリター入門と実践 ○里山の利活用（飾り炭づくり）
	4	7	花とみどりのまちづくりリーダーを目指して	●ワークショップによる緑地づくり ○市民活動の実践地見学 ○植物の増やし方（挿し木）		9	2	花とみどりの地域づくりリーダーを目指して	●ボランティアの意義とNPO ○林業地見学 ○庭木管理実習
	5	9	花とみどりのまちづくりの輪を広げよう	●園芸療法の入門 ○秋冬野菜栽培実習（植付け） ○課題発表会		10	3	花とみどりの地域づくりの輪を広げよう	●子どもの発達と自然体験 ○里山づくりの見学、体験 ○課題発表会、1年のふりかえり

2. 今年度の教育成果

今年度は、昨年度後期からの受講生3名が9月修了時点で、また、今年度の受講生25名が3月修了時点で、それぞれ「まちづくりガーデナー」に認定された。

・前期の授業実習内容

例年前期では、花とみどりのまちづくりを実践するための知識・技術に関する授業、体験学習と併せて、ワークショップ体験やまちづくりの輪を広げるための手法等住民のリーダーとして活動するための知識・技術に関するカリキュラムを準備している。

草花の播種やポット上げ、花壇と緑地の準備と施工、修了生の実践状況を視察し、ガーデナーとしての取り組み等を学んだ。



緑地の施工（6月）



修了生の実践地見学（7月）

・後期の授業実習内容

後期は、県土全域の視野から、各局面で自然と人間の共生を実現するために必要な知識・技術に関する授業・実習を行った。具体的には、県土に広がる農地や森林、里山など様々な自然環境の様相とそれらをよりよい状態で次代に継承していくために必要な営みと技術について学んだ。

花とみどりのまちづくりの知識技術の習得と

して冬春花壇のデザインに関する授業と花壇作り実習と植栽後のメンテナンス、樹木の剪定技術についての授業実習を行った。

里山の管理では実習林での下刈りや除伐、川西市黒川地区の炭生産地での下刈りなどの維持管理作業を行ったほか、里山の身近な利用として松ぼっくり等を用いた飾り炭を製作した。

また、丹波市の特産物である丹波大納言小豆、多可町の棚田や宍粟市山崎町にある木材市場や岡山県美作市にある堆肥工場の視察を行い、兵庫県の農業、森林林業への理解を深めるとともに、堆肥製造の仕組みや資源循環の意義について学んだ。



木材市場の見学（2月）

さらに、地域で市民農園が開園できるように菜園等の栽培や運営も取り入れている。このような環境に関する幅広い視点を養うことは、受講生にとっても大きな刺激となり、学習内容の理解を深め、修了後の実践場面においても実際の環境に配慮した「真に自然と共生する」活動の展開につながっていくことが期待される。

後期は班別に校内外のフィールドの選定、課題を設定し、班毎に検討を行い、3月に各班がまとめた本校の資源や周辺を含むフィールドを活用する実践活動の提案について報告会を行った。

なお、前後期を通じて授業、実習の実施に当たっては、受講前の検温、マスク装着、換気、十分な席間隔の確保と受講座席の指定、バス利用場面では乗車定員を半数にして十分な席間隔を確保するなど新型コロナ感染予防対策を講じたうえで実施した。

(3) まちづくりガーデナー・マスターコース

大中 博文 蛭田 永規

1. マスターコースの概要

・マスターコースの位置づけ

「まちづくりガーデナー・マスターコース」は、「まちづくりガーデナー・本科コース」修了生や同等以上の講習を修了された方を対象に、みどりのまちづくりに貢献できる様々な技術・知識を専門領域ごとに体系的に学べるコースであり、よりレベルの高い「花と緑のまちづくり指導者」の育成を目的としている。

・教育目標

マスターコースの修了者は、県知事より「まちづくりガーデナー・マスター」として認定され、各地域においてその学習成果を具体のまちづくり活動のレベルアップと拡大に生かすことが期待されている。そのために必要な知識、技術をより専門的に幅広く身につけることを目指しており、修了後は地域でのまちづくり活動を牽引できるリーダーの育成を目標としている。

・講座の経緯

本講座は、本校開校以来「まちづくりガーデナー・本科コース」を修了した多くの修了生や、近年各地で実施されている同等の生涯学習の修了生を対象に、そのステップアップコースとして、本科コースの総合的な学習内容からより専門的に各領域の学習ができるよう平成 29 年度

から設定されたものであり、今年度で 6 年目を迎える。

・カリキュラム構成

1 年にわたるカリキュラムは、月 1 回 3 日間の講義、実習×10 か月間で、本科コースと並行する形で構成されており、さらに、前期（4 月～9 月）及び後期（10 月～3 月）に分かれる。

1 か月ごとの課題やプログラムに応じて、各専門領域の教員がそれぞれのプログラムを監修し、本科コースよりさらに深めた講義・実習等が行われ、ステップアップを図る内容となっている。

前期では「花壇づくりの基礎とまちづくり」「園芸福祉を深める」「小さな空間のデザイン設計を学ぶ」「里山の保全と管理」等の基本的な考え方や調査・設計方法を学び、後期ではこれらの具体的な設計やプログラムづくり、現地での実践を行う。また、1 年を通じての「花と緑の栽培実習」や「園芸の科学」について学ぶカリキュラムも設定されている。これは毎月部門別の月替わりの講座だけでなく、植物栽培の一連の作業を継続的に行うことにより、植物への愛着や生き物としての認識を養うためであり、大学らしい科学的なアプローチにより、一般のカルチャースクールとの差別化を図っている。（カリキュラム下表参照）

表 まちづくりガーデナー・マスターコースのカリキュラム

(●：講義 ○：実習)

期	回	月	テーマ	主な内容	期	回	月	テーマ	主な内容
前 期	1	4	持続可能なまちづくりと緑地づくり	●ガーデンコーディネーターの心得 ●花壇管理のガイダンス ○園芸の科学（花の交配）	後 期	6	10	園芸生活のノウハウ、世界の庭園	●植栽デザイン ○ミニガーデンの楽しみ方 ●世界の庭園
	2	5	花壇管理を学ぶ、園芸福祉を深める	○宿根草花壇の管理 ●園芸と健康づくり ○園芸福祉プログラム体験		7	11	バリアフリーのまちづくり、里山の保全と管理	○バリアフリーのまちづくり ●里山管理の実践 ○里山管理の実践（除伐等の森林整備）
	3	6	花と緑の栽培、自然観察や公園で実施するプログラムづくり	○一年草花壇の管理（夏秋花壇） ○魅せる花壇をつくる ○昆虫を用いた自然観察		8	12	花壇の栽培実習、公園の利活用プログラムづくり	○一年草花壇の管理（冬春花壇） ○公園を地域の元気拠点に ○里山の利活用（竹を利用したクラフト）
	4	7	空間デザイン設計を学ぶ	○庭園デザイン演習 ●環境学習としての樹木や昆虫の識別法と実践 ○花と緑の先進地見学		9	2	地域活動と情報発信について学ぶ	●パソコンを用いた情報の入手や発信 ○園芸の科学（花の色） ●動植物を利用した地域おこし、地域学入門
	5	9	里山の自然と保全の意義を学ぶ	○里山植物の同定 ○里山林の現況調査 ○里山管理の実践（里山林の遷移を調べる）		10	3	花とみどりのまちづくりのレベルアップとリーダーとしての心得	○園芸の科学（カラーリーフとハーブ） ○花と緑の先進地見学 ○1 年を通じた成果発表・意見交換

2. 今年度の教育成果

今年度は、昨年度後期からの受講生14名が、9月修了時点で、また今年度当初からの受講生16名のうち受講を中止した1名を除く15名が3月修了時点でそれぞれガーデナー・マスターに認定された。

・前期の授業実習内容

本科コースのステップアップを図るため、基礎知識の習得と演習を中心とする内容となっている。植物栽培の基礎と実践から、庭園の原理や庭の設計のための現地調査と基本計画の策定、園芸療法の園芸福祉活動プログラムの作成体験、「魅せる花壇をつくる」では、県立公園あわじ花さじきの“歓びの庭”のデザインに初めて取り組んだ。さらにプロットを設置して里山林の現況調査と管理方針の策定等を本校のフィールドを活用し実施した。

また、通年の花と緑の栽培実習と園芸の科学では、一年草や宿根草の花壇管理を学びながら、花壇への植栽等を時期に応じて行うとともに、

花の交配や組織培養、花色と色素などの科学的な観察や演習を実施した。さらに、公園管理の先進地視察として、約350品種にもものぼる多種多様なアジサイを有する神戸市立森林植物園の見学を行った。

・後期の授業実習内容

前期の学習内容を踏まえ、より専門的かつ具体的に実践するための授業・実習を中心に実施した。通年の花と緑の栽培実習や園芸の科学に加え、バリアフリーのまちづくりをめざすための座学と体験実習、パソコンを用いた情報発信と入手の実習等も行った。

また里山林管理実習では、現地調査、里山林の管理計画策定を行い、実際に除伐を主とした管理作業を実践した。整備前後による環境変化を調べるため、照度の測定も併せて行った。

なお、前期・後期を通じ新型コロナウイルス感染症（COVID-19）予防対策として、検温、マスク着用、手指消毒、座席間隔の確保、机・椅子等の消毒、換気等に努めた。



花壇の管理実習（通年）



花と緑の先進地見学（7月）



魅せる花壇 デザイン実習（6月）



里山管理実習（11月）

(4)まちづくりガーデナー・テーマコース

1. 概要

・位置づけ

この「まちづくりガーデナー・テーマコース」は、生涯学習講座である「まちづくりガーデナーコース」の一つで、「まちづくりガーデナー・本科コース」修了生のスキルアップや、本科コースなどへの通学の時間的余裕のない方あるいは花と緑のまちづくりをすでに行っておられる方などを主対象に、ある特定のテーマに絞って集中的に学ぶ1～4日のコース。

このコースは、「本科コース」修了生が誕生した翌年の平成12年度から始まったもので、令和4年度にあっては、9のテーマで実施した。

・教育目標

「本科コース」の中で学ぶある特定のテーマについて、さらに深く掘り下げて学んでもらおうというもの。そのため、本科コースなど他の「まちづくりガーデナーコース」より専門的な内容で、

まちづくり活動の実践者のスキルアップに寄与することを目標としている。

・カリキュラム構成

特定のテーマに絞って短期間で、かつ集中的に学習することを目的としているために、長いものでも4日間としている。



外来植物ナルトサワギクを駆除して、草木染め！ ヤギ除草実践講座（中級編）

2. 教育成果

令和4年度にあっては、9のテーマに対して、延べ92名の受講があり、延べ84名の方が所定の課程を修了している。

テーマ名	日程	講座概要	受講料
ひょうご在来作物の栽培(春夏期)	4/21(休) 5/26(休) 6/16(休) 7/21(休)	兵庫県下で古くから栽培・利用されてきたひょうご在来作物の栽培や繁殖について学ぶ。	6,700円
ヤギ除草実践講座(中級編)	4/26(火) 5/24(火)	具体的にヤギ除草導入を検討している人に対し、ヤギ除草導入にあたって必要となる作業等を実際に経験することにより、導入への後押しを行う。	6,700円
淡路島の里の植物相調査	5/31(火) 9/27(火) 11/14(月)	淡路島の農村を散歩しながら野生植物を観察し、出現種の種名を記録して、植物相リストを作成します。また、植物の同定や標本作成法について学ぶ	6,700円
園芸療法基礎講座 緑を用いたストレス・ケア入門	8/27(土) 9/18(日)	園芸療法の基礎となるみどりの景観や植物を用いた癒しを体験する	4,900円
ヤギ除草実践講座(導入編)	10/17(月)	ヤギ除草を導入するにあたって必要となるヤギの飼育方法や必要な飼育環境などを学ぶ。	5,800円
特定外来植物ナルトサワギクを駆除して草木染め!	11/20(日)	特定外来植物ナルトサワギクの防除活動を行い、摘み取った花で草木染めを行い、オリジナル作品を作る	4,900円
里山の「やっかいもの」を「役立つもの」にクラフトする(ツル編)	12/20(火) 12/21(水)	里山保全に重要な「つる」の除去作業をクラフト材料の調達作業として捉える。	5,800円
里山の「やっかいもの」を「役立つもの」にクラフトする(竹編)	1/12(休) 1/13(金)	里山保全に重要な「竹」の除去作業をクラフト材料の調達作業として捉える。	5,800円
身近な材料で肥料と土づくり	1/19(休)	肥料の基礎的な知識と、身近にある材料を使用して、ほかし肥料や堆肥づくりについて学ぶ。	4,900円

まちづくりガーデナー・本科コースを修了して

本科コース24期 松本 知子

幼いころより草花への思いが強かったのは、信州生まれの祖母の影響だと思えます。祖母が丹精込めて作ったトマトやキュウリ、ピーマンなどは畑でそのままかぶりつき、みずみずしいけれども、なにか青臭いあの味は、舌の記憶に残っています。種や球根から育てたのは、キンセンカ、マリーゴールド、マツバボタンやグラジオラス等々。祖母が間引いたものを拾ってきては自分の花壇に植え、一生懸命に育てたりしていたものです。はじめてムスカリを見たとき、おねだりして苗を買ってもらい、珍しい名前を忘れぬよう、呪文のように唱えながら持ち帰ったことを覚えています。

大人になり、仕事のひとつとして装花やフラワーデザイン（アレンジメント）教室などをする中でずっと、きちんと「園芸」について勉強したいと思っていましたが、町の「園芸教室」「バラ育ての講座」など単発に行われる教室へ通うのがやっとな。草木の育て方は、自己流（祖母流）のままやっていました。

さて、結婚を機に兵庫県（宝塚）へ住み、淡路島を知りました。（橋を渡って島に入るときは、いまだにワクワクします。）兵庫県立公園あわじ花さじきは、すぐに“大好きな場所”となり、またそこで目にするようになった「淡路景観園芸学校」の看板はかなり気になるものでした。

学校を調べてみると、とても専門的なところで、仕事も、家庭もある身では無理だとあきらめるしかありません。生涯学習課程にしても、なかなか通学は無理だろうなと思っていました。

子育ても仕事もひと段落した2021年暮れ、たまたま開いた県広報誌（県民だより）で、「まちづくりガーデナーコース受講生募集」の記事を見たのは偶然でした。すぐに申し込みをし、なんとか入ることができたものの、なんの予備知識もなく、かなりの緊張で橋を渡った去年の4月のことが、とても遠いことのように思えます。

植物に関する基本的な知識、景観デザインの基礎、園芸療法や、地域コミュニティについてなど、多岐にわたる授業。そして、沿道の緑地づくりを現地調査から施工まで行ったり、里山での間伐、種まき

や挿し木、野菜の植え付けと収穫、花壇整備、クラフト工作、縄の結び方といった様々な実習がありました。前期では主に花と緑のまちづくり、後期では里山の在り方を軸に学習を進められたように思えます。

校外学習（遠足）では、“日本の縮図”ともいわれる兵庫県の東西南北を他県との境界まで行って見学し、我が県の広さに驚き、農業や林業の現状、高齢化による後継者不足のなかでの取り組みを知りました。有機堆肥の製造工場を訪問した時は、食品会社からの残渣に衝撃を受けながらも、しっかりとそれを循環させてくれていることに感謝の気持ちになりました。

丹波小豆の収穫体験や、川西黒川の里山では、下草刈り、間伐で椎の木も切らせていただいたり、クヌギの原木にシイタケの種駒を植菌したりと実習もし、ハードながらも忘れられない経験となっています。

それぞれ期の終わりに発表する課題では、後期は班で集まり話し合いながらまとめられ、絆が深まりました。前期課題をきっかけに、自分の地域で活動をはじめてみたゴミステーションの植栽は、地域にも大きく関わることとなり、花緑を通じたコミュニティが続くようになりました。このことは、大学院の演習発表会でも発表させていただく機会に恵まれ、これからも活動をしっかりと続けていこうという励みにもなっています。

堆肥ネストを作ったり、プラグトレイで種まきして苗を育てたり、挿し木したり、教えていただいたことはきちんと役立てています。

「景観園芸」や「まちづくりガーデナー」。はじめて聞くような言葉でしたが、先輩たちの活動を見聞き、最近では、自分のためだけでなく、誰かのため、地域のため、環境のため、など、常にこの先、この体験をどう活かせるか？ということを考えられるようになりました。

このあと、マスターコースでの学びも真面目にたのしく取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

まちづくりガーデナー・マスターコースを修了して

マスターコース6期 鈴鹿 伸枝

「こんな学校に通いたい」と何もわからず始めた本科コースを修了し、

マスターコースでは、地域で活動している「みどりの会（主に公園内の整備）」に関連して

- ①栽培実習を通じ植栽デザインや花壇作り
- ②地域活動と情報発信
- ③園芸福祉
- ④里山の保全と管理

についてさらに学びを深めたいと思っていました。「1年後、思った以上に変わった自分がある、周りの景色を見る目が変わっているはず」という先生の言葉通り、本当に変わった自分があることに驚いています。

マスターコースで教えて頂いたすべてのことが、繋がりあい、今の私の活動にヒントを与えてくれています。

「栽培実習とミニガーデン作り」では、みんなで作業することの楽しさ、植え込み作業や草



木についての知識、丁寧な水遣りの仕方、「計画は立てるが、作業は臨機応変にすることも大切」などの気持ちの持ち方まで学びました。「みどりの会」の活動では、公園の池を花壇に作り替えて3年目、「とりあえずやってみよう」と試行錯誤しながら花壇づくりにチャレンジできるようになりました。花壇整備をしていると、虫取りに来る子どもたち、リハビリをするお年寄り、散歩をする方などたくさんの方が笑顔で声掛けしてくださり、花と緑が人と人をつないでくれる力を改めて感じます。地域の方や仲間と一緒に活動でき、見てくれる人も楽しめる花壇、人と人をつなぐふれあい花壇、そんな花壇に育てていきたいなと願っています。

「動植物を活用した地域おこし」では地域のフジバカマ育成活動を知るきっかけになりました。その後、地域の方々に教えていただきながらフジバカマを栽培育成し、公園にアサギマダラをよぶことができました。この活動を通じて、たくさんの方々

と繋がりができ、種の保全・生物の多様性、地域活動への熱意など、多くのことを学びました。今後も、地域の特性を生かし、フジバカマの育成・繁殖を継続していきたいです。

「園芸福祉」では、自分と「緑との繋がり」を改めて意識でき、他の受講者も子どもの頃に豊かな自然や緑との思い出がたくさんあることに気づきました。そのことから、地域の子どもたちにも緑の中で楽しい体験をたくさんしてほしいと思うようになり、「みどりの会」を通じて積極的にかかわるようになりました。花や緑の心地よさや必要性を自分をもっと体験・実感し、広めていきたいなと思います。小学校や支援学校の子どもたちと授業を通じ交流できるようになったことは、その大きなチャンスで、私の大きな楽しみになっています。

「校外学習」では、知らないことをたくさん教えてもらい、花と緑がもっと「好き」になりました。この「好き」は私にとってとても重要な気づきでした。先生方の講義からは動植物への愛（好き）が伝わり、楽しく興味深く学ぶことができました。「好き」なことが、活動の原動力になり、人に伝えやすくしてくれると感じました。これからも、花と緑の好きなこと、楽しいこと、不思議なことを、まず自分が感じ、それをたくさんの人に伝えられたらいいなと思います。

四季を通じて、動植物の中にいることが楽しく、癒される時間になりました。

学びや気づきの遅い私には、知る喜びを刺激されながらマスターコースまで受講し、たくさんを経験をし、深めることができ、本当によかったと思います。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

そして何より、本科コース・マスターコースで共に学んだ同期の皆さんと知り合え、夢を語り合い、活動できたことが、私の宝物です。本当にありがとうございました。

地域活動にはまだまだたくさん課題がありますが、学んだことを生かし、とりあえずやってみて、楽しんでいきたいなと思っています。

まちづくりガーデナー・マスターコースを修了して

マスターコース7期 阿部 晃三

私は65歳で会社を定年退職するまで、景観園芸学校のような植物や野菜、樹木等の関係分野は、ほぼ無縁な人間でした。もちろん、その分野の勉強をしたこともなければ、土を触ることもほとんどありませんでした。唯一縁があるとしたら、淡路に田舎（当時の名称は三原郡南淡町の父の実家）があり、小さい時からおばあちゃんやおばちゃんに大変かわいがってもらったという記憶があることぐらいでした。実際には、まだ小さくて記憶に無い部分もありますが、残っている当時の写真を見る限り、セミ取りや海で遊んだ楽しい時間を過ごした場所であり、当時の田舎の匂い（たまねぎ小屋、牛小屋等）が身体内にしみついていることは間違いありません。



少し大きくなり、記憶の残る年頃では大変だったことも思い出されます。その頃は、神戸から洲本まで船に乗り、洲本からは当時電車で福良まで行きそこからバスに乗るということで、1日ばかりで家族で大移動をしていました。朝早くから家族揃ってなので、子供心には心ウキウキする時間でした。当時まだ電車や車（バス）に乗ることも少ない時代で、乗り物酔いをして大変しんどい思いをしながら田舎に帰ったものです。今では笑い話のような話かもしれませんが、60年くらい前はそれが当たり前でした。淡路に電車が走っていたことも知らない世代が増えていることも、時代の流れを感じます。子供心に大きくなったら、おばちゃんの農業の手伝いをしてあげると言っていた思いもむなしく、私が会社を退職した時には、体力的にたまねぎ農家はしんどく辞めていました。私にとって大切な思いが果たせなくなってしまったことに、すごく悔いが残っていました。

3年ほど前に、たまたま車で家族と犬の散歩をしに淡路に来た時に足を伸ばして訪れたのが景観園芸学校でした。自然の中で木々や花が咲き誇り、のびやかな空間が何よりも心を動かされました。子供の頃感じていた素晴らしい時間を、

ここで過ごせたらいいなと感じました。そして、子供心に話した田舎の手伝いをすると言いながらできていないことが思い出され、この場所（学校）を通じて、少しでも淡路に恩返しができるくらいいいなど感じるようになりました。

私にはそれと同時に、淡路の歴史と南淡町（阿万吹上の本家）と私に、どういうルーツがあるのかにも興味を持っていました。私は神戸生まれの神戸育ちですが、それを見つける旅がこれからの私のささやかな目標と考えています。

学生時代はろくに勉強もせず、漠然と過ごしたことが悔やまれ、自分の時間を持てるようになった今こそ、できていないことを取り戻す時間になりたいと考えています。それからは時間を見つけて学校のテーマコースを受講し、本科・マスターコースも修了しました。それと学校の図書館に行けば、植物の資料だけでなく、淡路の歴史資料もたくさんあり、それは私にとっては宝の山のような学校だと感じています。

各受講コースでは、自然の営みのすばらしさや人間と自然の関わり方、そして時代の経過で自然との接触の仕方が変化してきていることを、先生からたくさん学びました。そして、マスターコースでは、本科で学んだ以上に実践的な講義が多くありました。「花さじき」のガーデンのデザインを各チームに分かれコンペ形式で発表したり、山に入り光環境の調査・改善や間伐をしたり、年輪からその当手を推測したり、それは座学だけでは学べないような興味深い内容ばかりでした。

そして、それ以上に私を虜にしたのは子供のような好奇心を持たれた先生や豊富な知識を持たれた先生がたくさんおられたことでした。その先生の生身の姿に直に接することができることは最高です。勉強嫌いな私には、先生は大の苦手と感じていましたが、花や虫や自然が大好きな先生が、たくさんおられるこの場所・この学校に、これからもずっと関わり続けていきたいと考えています。



(5)AGNとの協働によるキャラバン事業の推進

1. キャラバン事業とは

キャラバン事業とは、本校教員が県内各地に出向き、本校生涯学習課程修了者の方々やその関係者で本校課程への入講を考えている方々との交流を図り、修了生の活動を支援・促進するとともに、本校教育課程の広報を行う出前講座である。本事業は、まちづくりガーデナー本科コースへの入講促進のため出前で行っていた「まちづくりガーデナー・体験コース」が県内市町をほぼ周りつくし、また、修了生も各地に増えてきたことから、このコースに代わるものとして平成18年より開始したものである。また、この事業は企画段階から全面的に本校生涯学習課程の修了生の会「NPO法人アルファ・グリーンネット（以下「AGN」）」との協働により実施しており、毎年4～5カ所で開催している。

プログラムは、おおむね本校教員からの講話（最近の花と緑のまちづくりのに関する話題）、修了生からの活動報告、活動の現場見学や意見交換などから構成されている。

2. 令和4年度の実施内容

令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響が心配されたが、感染対策に十分な配慮を行いながら、当初の計画どおり下表に示す県内4カ所で開催することができた。各回ともAGNとの協働によって企画・実施がなされ、活動報告、見学の実施にあたっては、本校修了後開催地の近くで活躍される修了生の全面的な協力のもと多彩なプログラムが展開された。

また、修了生が来場の誘いをかけてくださった新たな参加者もあり、本校の教育内容を知り、次年度の講座参加のきっかけとなった。

特に、修了生の活動をその現場で直に紹介いただくことは、本校教員にとっても教育活動の成果を再認識することになるとともに、参加者の皆さんにとってもさらなる学習に向けての意欲を高めるものになっている。

3. 令和5年度の予定

令和5年度もAGNとの協働によりこれまでどおりの規模、内容で県内各地に出向く計画を進めており、引き続き修了生の活動現場での支援と本校教育のPRに努めていく。



神戸地区キャラバンのようす



阪神地区キャラバンのようす

令和4年度キャラバンの実施概要

回	対象地区	月日	場所	出講教員	プログラム概要	参加者
1	淡路地区	R4. 6.10	ハイウェイオアシス	大中 博文	講話、活動紹介、研究発表	41名
2	阪神地区	R4.10.28	東灘区文化センター	平田 富士男	講話、活動報告、研究発表、園芸教室	42名
3	神戸地区	R4.12.12	長田区文化センター	新保 奈穂美	講話、活動紹介、活動報告、園芸教室	44名
4	東播磨地区	R5. 2.24	花と緑のまちづくりセンター	蛭田 永規	講話、活動紹介、研究発表	33名

(6)園芸療法課程

豊田 正博

1. 全寮制の進路状況

全寮制 20 期生 8 名の進路は、常勤園芸療法士 2 名 [社会福祉法人北斗介護老人保健施設かけはし (北海道)、社会福祉法人成相山青嵐荘 (兵庫県)]、非常勤園芸療法士 2 名 [医療法人社団西宮回生病院、特例医療法人一輝会 荻原みさき病院]、NPO 法人国際交流フラワー 21 (島根県花ふれあい公園しまね花の郷指定管理 常勤)、園芸療法起業計画 (園芸療法関連講座講師等) 1 名、未定 2 名となった。

2. 通学制の進路状況

通学制 9 期生は 3 名が修了した。進路は、現在の職場・職業で園芸療法を活かす人が 2 名 (大学 1 名、福祉施設 1 名)、園芸療法起業計画 (園芸療法関連講座講師等) 1 名であった。

3. 園芸療法実習Ⅲ報告会より

この報告会は、全寮制及び通学制学生が学んだ知識・技術を園芸療法実習として行った成果の集大成である。いくつか事例を紹介する。

1) 重症心身障害者デイサービスに通う脳性小児麻痺の女性に対する園芸療法

重症心身障害者デイサービスに通所する知的障害がある女性 (50 歳代、痙直型脳性麻痺で将来的に施設入所検討中) に、「他者との交流を広げ、新たな環境に慣れること」を目標として園芸療法プログラムを行った。本人が取り組める 2 工程までの作業にしてリース作りなど植物を用いた創作活動や栽培活動を提供した結果、活動参加に拒否的な反応を示さなくなり園芸療法学生 (以下、HTS) との関係構築につながった。新しく出会う他者との関わりにおいて、植物を介した共感的関わりを用いることが、本人と他者との関係構築を早める可能性が示された。

2) 心原性脳塞栓症による左上下肢不全麻痺、 デイサービス利用の高齢女性への園芸療法 心原性脳塞栓症により左上下肢に不全麻痺

のある 70 歳代女性に対し、「園芸活動によって楽しみのある生活を送ることができる」こと、「生活場面で、左手の使用頻度増加を自覚でき、自己肯定感、自己有用感が高まる」ことを目標として園芸療法プログラムを実施した。

パンジー・ビオラの栽培活動には高い関心を示し、発芽を喜び、意欲や未来展望の改善につながった。植物材料を用いた創作活動では自然に麻痺側の手を用いる機会となった。麻痺側の使用に関しては、Motor Activity Log (MAL-14) を用いて評価を行った。MAL-14 得点は使用頻度 (Amount of Use; AOU) が前期と後期の比較において 0.2 点、動作の質 (Quality of Movement; QOM) では、臨床的に意味のある最小変化量である + 0.5 点に達した。具体的には服の前ボタンを留める動作が可能となり、本人の自信となった。

3) デイサービスに通所する身寄りのない軽度

認知障害 (MCI) の女性に対する園芸療法

軽度認知障害 (MCI: Mild Cognitive Impairment) があり、デイサービスに通所する 70 歳代一人暮らしの女性に対し、「楽しみや役割の確保により通所が安定し、他者交流や残存機能発揮機会が得られる」ことを目標として栽培活動、植物材料を用いた創作活動を行った。知的好奇心の高い方で、馴染みのある材料だけでなく、新奇性のあるものを持参したことが関心向上につながった。活動前は不安そうな様子が見られたが、栽培したものが順調に育つ様子を観察し、作成した作品に対して繰り返し賞賛を受けたことが、本人の満足感、達成感につながった。QOL-D では「周囲との生き生きとした交流」の点数が 20.5 点 → 33.0 点に大きく向上した。特に「微笑みや笑いがあり、明るく楽しそうにして見える」という項目の変化が大きかった。一人暮らしであり、引きこもりがちであったが、園芸療法を通じて自己有用感が高まり、他者交流の機会となったことが本人の変化につながったと考えられる。

2 研究活動

(1)受託研究等

①万博記念公園自然文化園における生物多様性に配慮した森づくり

大藪 崇司

1. 研究目的

万博記念公園自然文化園（98.5ha）において菌類の発生活長とその多様性に関する基礎的調査を目的とした。菌類の発生活長の把握は、食べるなどの直接利用以外に、自然観察会における環境教育のアイテムや自然文化園の自然性の回復の指標となるなど、その活用方法が期待され、今年度月1回の頻度で生態調査を行った。

2. 研究方法

公園内を所定のコースを歩き、木材・枯れ枝・落葉および地上から発生する菌類の子実体を観察し、種名および子実体発生数を調査した（図1）。調査は、毎月1回行い、本報では2022年1月から同年12月までのデータを扱った。

3. 研究結果

2022年に自然文化園で発生した菌類の種名、発生日、生態的特徴を表1に示した。2022年は32種類の菌類が確認された。発生場所の生

態的分類は、32種のうち地上生が19種、材上生が13種となった。菌類の総発生回数は95回で、調査回数の少ない初年度を除き14年間で4番目の年となった。2022年における子実体発生のピークは、10月28日の14種が最高値であった。発生のパターンは、2010年、2011年、2013年、2014年、2018年、2019年に見られた1山型の後期に最高値が現れる型を示した。

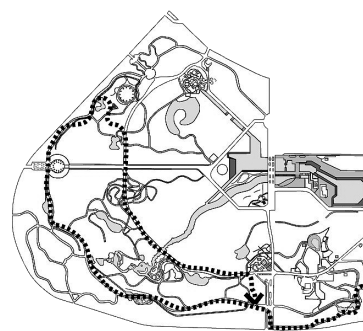


図1 ルートセンサスコース

表1 2022年度に自然文化園で発生した菌類種と発生場所の生態的特性

和名	学名	1月17日	2月22日	3月25日	4月29日	5月31日	6月28日	7月29日	8月26日	9月26日	10月28日	11月28日	12月29日	合計	生態的特性
アセタケ属	<i>Inocybe</i> sp.										○			1	地上
アラゲカワラタケ	<i>Coriolus hirsutus</i> (Wulf.: Fr.) Quel.		○				○	○	○	○				6	材上
イタチナミハタケ	<i>Lentinellus serotinus</i> (Fr.) K.Dhu.	○	○	○	○									4	材上
丸ノハキツネタケ	<i>Laccaria vinaceorufellous</i> Hoegs								○					1	地上
カワラタケ	<i>Coriolus versicolor</i> (L.: Fr.) Quel.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	材上
キクラゲ	<i>Auricularia auricula</i> (Hook.) Underw.				○	○								2	材上
キチャハン	<i>Russula zovrisii</i> (Fr.) Kromb.									○				1	地上
キツネタケ	<i>Laccaria laccata</i> (Scop.: Fr.) Berk. & Br.								○					1	地上
キツネノカラカサ	<i>Lepiota cristata</i> (Bolt.: Fr.) Kummer								○					1	地上
クジラタケ	<i>Trametes orientalis</i> (Yamada) Imazeki	○	○	○	○	○								5	材上
クロコブタケ	<i>Hypoxylon truncatum</i> (Schw.: Fr.) Miller	○	○	○	○	○		○						6	材上
コガネニカワタケ	<i>Tremella manasterica</i> Retz.					○								1	材上
コフキササルノコシカケ	<i>Rhizoglyphis aplinata</i> (Pers.) Kunt.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	材上
サザナミセフウセンタケ	<i>Cortinarius obtusus</i> (Fr.) Fr.								○					1	地上
スエヒロタケ	<i>Schizophyllum commune</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	材上
チャウロコタケ	<i>Stereum ostreus</i> (Oakes et T. Nées) Fr.	○	○											2	材上
デングツルタケ	<i>Amanita caecilia</i> (Berk. & Br.) Bas										○			1	地上
ナヨタケ	<i>Psathyrella gracilis</i> (Fr.) Quel.										○			1	地上
ニオイコベニタケ	<i>Russula bella</i> Hoegs									○				1	地上
ネナガヒトヨタケ	<i>Coprinopsis radiata</i> (Bolt.) Redhead, Vlasby & Moulambo											○		1	地上
ネンドタケ	<i>Phallus gibbus</i> (Schw.: Fr.) Pat.	○									○	○	○	4	材上
ノウタケ	<i>Calvatia crassiformis</i> (Schw.) Fr.								○					2	地上
ハタケシメジ	<i>Lepophlyllum decastere</i> (Fr.: Fr.) Sing.		○											1	地上
ハダイロガサ	<i>Cantharellus pratensis</i> (Pers.: Fr.) Kummer										○			1	地上
ハンタケ	<i>Lactarius hatsudake</i> Tanaka					○								1	地上
ヒイロタケ	<i>Phycogonopus coccineus</i> (Fr.) Bond. & Sing.						○			○	○			3	地上
ヒラタケ	<i>Plenrotus ostreatus</i> (Jacq.: Fr.) Kummer											○		1	材上
フウセンタケ属	<i>Cortinarius</i> sp.			○						○	○			3	地上
ベニヒダタケ	<i>Pluteus leoninus</i> (Schaff.: Fr.) Kummer									○		○		2	地上
ホコリタケ	<i>Lycoperdon perlatum</i> Pers.: Pers.										○			1	地上
ムラサキカスリタケ	<i>Russula amoena</i> Quel.							○			○			2	地上
ムラサキホコリsp	<i>Rhizoglyphis</i> sp.						○	○						2	材上
採集種別合計		9	8	7	7	8	6	7	9	9	14	7	4	95	

②住民団体の持続可能な花緑活動に関する調査 — 人間サイズのまちづくり賞受賞団体を例として —

(委託者：(公財)兵庫県園芸・公園協会)

平田 富士男

1. 研究の背景・目的

本研究は、県内の花と緑のまちづくり団体構成員の高齢化によってその活動の持続化が課題となっているなかで、既存の住民団体の状況調査等をもとに、持続的な活動の要因を明らかにするとともに、その成果を他の住民団体に伝えることで活動の継続や新たな団体の掘り起こしを行うための有効な方策を探ることを目的とする。

2. 研究活動の概要

研究は、目的達成のため以下のような項目について取り組んだ。

- ① 検討の方向性を探るため、活動実績のある団体からのヒアリング（人間サイズのまちづくり賞（花緑分野）知事賞受賞者、12 団体）
- ② ヒアリングを踏まえて、団体の活動の持続化の状況とそのため工夫、課題としていること、今後の展望などを客観的に明確にするアンケート（過去 15 年間の人間サイズのまちづくり賞（花緑分野）知事賞・奨励賞受賞者、53 団体）
- ③ 以上の内容を踏まえた活動者によるワークショップ
- ④ 団体の活動情報交流のための情報プラットフォームの基盤構築



図-2 ワークショップのようす

3. 研究の成果

兵庫県内の先進的な活動団体であって、その多くが活動の持続性に課題を抱えている実態が明らかになった。(図-1)

その結果を踏まえたワークショップからは、このような課題認識の一方、自分たちの当初の目的を忘れてしまっていないか、活動の楽しさや意義がきちんと発信できていないか、などの意見も出され、それらの発信インフラの重要性も指摘された。

これらを踏まえ、活動団体が主体的かつ機動的に、自らの手で発信できる情報サイト構築の重要性を認識し、その試行版を立ち上げた。

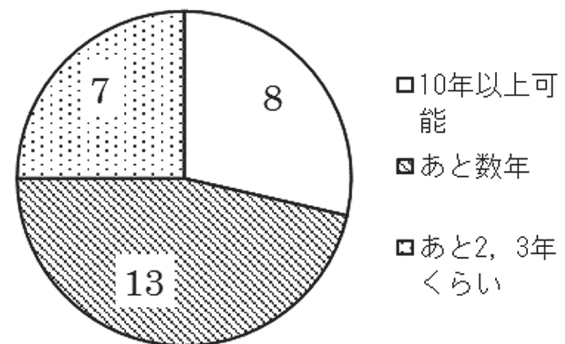


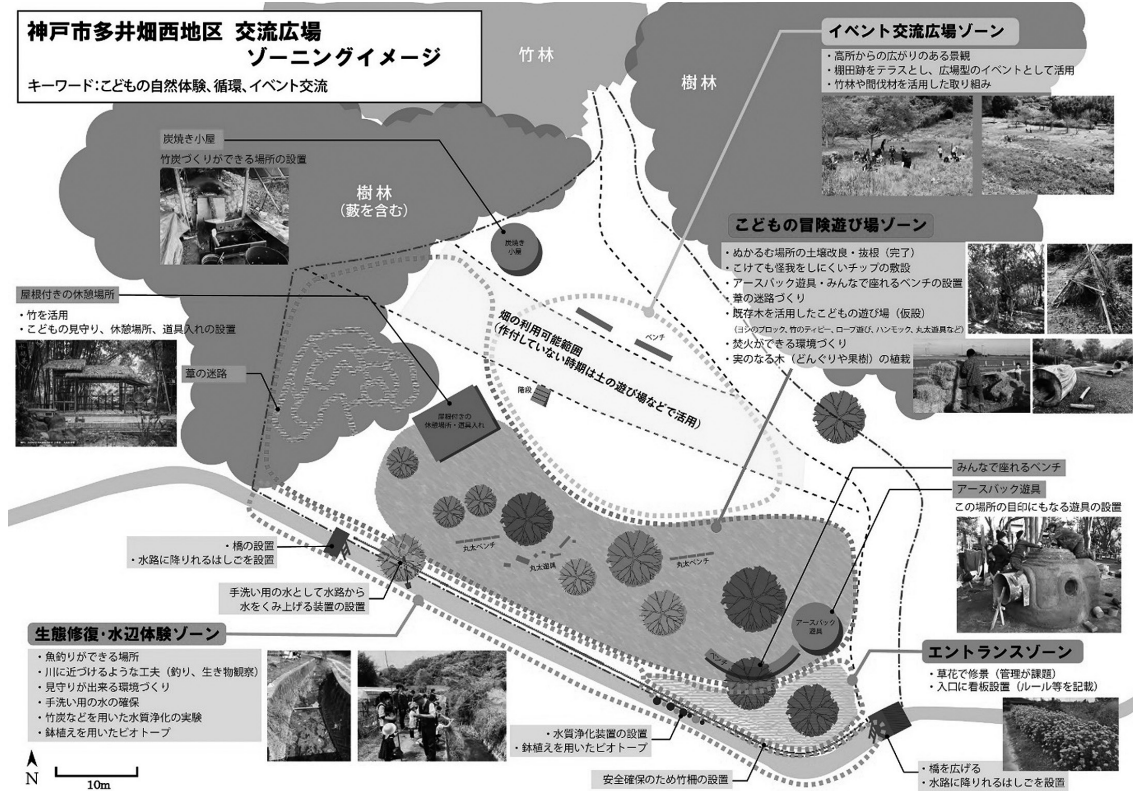
図-1 あと何年くらい活動が続けられるか（受賞団体の回答）



図-3 立ち上げた情報サイトのトップページ

③多井畑西地区交流広場計画策定及び整備に係る支援業務

嶽山 洋志・光成 麻美



多井畑西地区交流広場 活動リスト

	基本方針	事業名	事業内容
子どもの自然体験	多井畑西地区らしい自然体験や冒険遊びに取り組むことで、子どもたちの豊かな感性や知性を育む	1 重 竹を用いた玩具の制作やイベント	多井畑らしい「竹」を使った取り組み: 玩具 (竹とんぼ、竹馬、竹竿など) の制作、竹の流し素麺や竹灯りなどの竹イベント、竹箒や竹器の制作 (お土産として持ち帰ってもらうことで地域に取り組みを宣伝)、秘密基地やこいのぼりなど施設の制作など
		2 重 竹を用いた交流広場づくり	竹チップの敷設や竹柵の設置を参加型で実施することで、子どもたちが愛着を持つ
		3 重 多井畑プレーパーク	ツリーハウスやバンブーハウス、スラックライン、ブランコ、ジャングルジム、ハンモック、シーソー、木登り、迷路づくり、大きいわらのベッド、原体験 (土、火、水…)、探検など、冒険遊び場 (プレーパーク) の開催
		4 重 ビオトープづくり	小川の水質浄化のためのビオトープ作り、竹炭や水生植物などの活用
		5 重 昆虫採集や魚釣りイベント	多井畑に生息する昆虫や魚の調査活動、標本を制作し屋外展示や看板制作に繋げる
		6 重 多井畑の自然資源を用いたクラフト	敷地内やアクセス路で、木の枝やドングリなどを拾い集め、クラフトに利用する
		7 重 夜の自然観察・星空観察	樹林地に囲われた星空の観察、アクセス路には竹灯りを設置
		8 重 野外展示や屋外看板の制作	自然資源の紹介展示 (水生昆虫、野生動物、ドングリ)、子どもたちの制作物の展示
循環	周辺の農園と連携した自然循環システムを構築するとともに、食体験を通して自然の恵みを味わう	9 重 多井畑マルシェ	周辺の市民農園で栽培されている農作物や、森の中で栽培しているシタケなど、本エリアの農家さんらと交流するマルシェの開催。同時に野菜の栽培講座や調理体験、子どもたちが地域の農業を手伝うきっかけづくりとなるイベントも
		10 重 落ち葉や廃棄野菜でたい肥づくり	落ち葉や近隣の農園から出る廃棄野菜を集め、堆肥にするコンポストの設置、地域の方々含め、自由に使える堆肥とする
		11 重 水の確保とその活用	雨水タンクの設置、消車による小川の水の確保、手洗いや花壇への散水に利用
		12 重 フリーマーケット	かえっこバザールのような玩具の物々交換会の開催
		13 重 炭焼き体験と森の料理教室	炭焼き窯の設置と竹炭の制作、竹ご飯や木の实 (ドングリ、クリ、クルミなど) や野草の料理教室、ソーラークッカーを用いた調理体験など
イベント交流	イベントなどの集会からワークショップなどの深い体験まで、幅広い交流機会を創出する	14 重 大きな絵を描こう!	大きい絵を描くイベント、みんなで1つのものを作ることでコミュニティが醸成される、成果は旗にする
		15 重 ロハスイベント	ロハス (健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル) をテーマにした出店や音楽のイベントの開催
		16 重 子どもとお年寄りの竹を通じた交流	竹とんぼや竹馬など、お年寄りが子どもたちに昔遊びを教えて交流する
		17 重 キャンドルナイト	「でんきを消して、スローな夜を」が合言葉、キャンドルに灯りを灯して北側から眺める、竹灯籠の灯りも
		18 重 アースバック道具の制作WS	土と袋で制作する手作り道具の制作、地元の保育園や幼稚園、高校等の協力

※ 重: 重点事業として優先的に取り組みたいとされた事業

④ DWファイバーおよびグロウアースの園芸資材としての評価研究について

札埜 高志

大建工業株式会社および国土防災技術株式会社が共同開発した新規木質土壌改良材 DWファイバーは、国産の木材チップを特殊解繊処理し、植物の生育促進効果のあるフルボ酸を添加したものである。DWファイバーを農業および園芸生産用に改良した木質培地がグロウアースである。ここでは、フレンチマリーゴールドなどの花卉類の鉢栽培における培養土としてDWファイバーやグロウアースが利用できるか検討した。また、竹材を材料としたDWファイバーの活用方法についても検討した。さらに、マルチ資材としてDWファイバーを利用できるか検討した。

(1) 園芸培養土としての特性

DWファイバーを培養土としてフレンチマリーゴールド苗を栽培したところ、シュート新鮮重、シュート乾物重および根新鮮重は慣行配合土で栽培したものに比べて小さかったが、草丈、株幅、主茎の直径、葉身のSPAD、開花数、全花芽数および播種後開花まで日数は慣行配合土と差異がみられなかった。これらからDWファイバーはフレンチマリーゴールド栽培の培養土として利用できることが分った。また、フレンチマリーゴールドの栽培に関しては杉チップの特殊解繊処理よりもフルボ酸の添加の方が成長をより促進する可能性が示された。

(2) ピートモスの代替培養土としての利用

ピートモスの代わりにDWファイバーあるいはグロウアースを混合した配合土でフレンチマリーゴールドを栽培した。グロウアース配合土で栽培したフレンチマリーゴールドは慣行配合土で栽培した株よりも早く開花し、開花率も高い傾向がみられた。グロウアース配合土で栽培したフレンチマリーゴールドの開花数、花芽数、シュート新鮮重およびシュート乾物重も慣行配合土で栽培した株よりも高かった。DWファイバー配合土で栽培したフレンチマリーゴールドの根の新鮮重および乾物重はこれら3

種類の培養土の中で最も高かった。これらのことから、グロウアースおよびDWファイバーは、配合土におけるピートモスの代替資材に利用できることが分った。特にグロウアースをピートモスの代わりに配合土に混合することによって、フレンチマリーゴールドの成長・開花を促進させる効果があることが示唆された。

(3) 竹材 DW ファイバーの活用方法の検討

ピートモスの代わりに竹粉あるいは竹材から製造されたDWファイバーを混合した配合土でフレンチマリーゴールドを栽培した。慣行配合土で栽培した株の成長は竹材DWファイバー配合土あるいは竹粉配合土で栽培したものよりも優れた。現状では竹粉および竹材DWファイバーは、配合土におけるピートモスの代替資材に利用することは難しいと考えられる。

(4) マルチ資材としての利用

DWファイバーや杉バージンチップなどの木質資材および防草シートを花壇に被覆し、雑草の発生程度を調べた。雑草抑止効果は、防草シートが最も高く、次いで杉ファイバー、杉バージンチップで高い傾向がみられた。杉ファイバーおよび杉バージンチップを被覆した場所には主にハマスゲが発生し、被覆しなかった場所には主にハマスゲおよびスギナが発生した。DWファイバーからフルボ酸を除去した杉ファイバーは高い雑草抑止効果を示し、マルチ用資材として適していることが分った。

研究を助成いただいた大建工業株式会社に対して感謝の意を表します。



被覆施工直後の花壇の様子

⑤ IT技術を用いた花と緑のまちづくり 活性化可能性に関する調査2

大藪 崇司

1. 目的

花と緑のまちづくりセンターでは「次世代型都市緑化相談システムのあり方検討調査」や「オープンガーデンの活性化」など、業務のIT化に取り組んできたところである。特に兵庫県は、美しい県土づくりを地域創生の重要な施策として取り組んでおり、県民まちなみ緑化助成事業はその地域における緑化支援の重要な政策の一つである。これまで兵庫県の神戸県民局を対象として、緑のパトロール隊が日常業務で行っている県民まちなみ緑化助成事業の申請確認や実施後の巡視業務の効率化を図るツール開発を行ってきた。このシステムを全県民局へ導入する最終段階として、与条件の確認、操作内容の確認、成果品の取り扱い方など、実装に向けての調整を行うことで作業方法のスムーズな移行をする必要がある。

そこで本調査委託では、これまで構築してきた位置情報システムのプロトタイプを社会実装に向け調整することで、将来導入した際にスムーズな移行と業務の効率化を図れるよう調整を行うものである。

2. 方法

2-1 ヒアリングおよび要件整理等

- ①緑のパトロールにプロトタイプシステムの改善点等をヒアリングすること。
- ②緑のパトロールにシステムの利用方法を説明すること。
- ③運用に向けたシステムの改良点を整理すること。

2-2 システムの構築

- ①過年度構築したプロトタイプシステムにさらに必要な機能や属性項目を検討すること。
- ②プロトタイプシステムの運用結果から最終システムとして完成させること。
- ③令和4年度に追加された巡視対象場所を追加すること。

④システムは以下の機能が実現できること

- 地図上に巡視対象場所を表示（実装済改善）
- 巡視対象場所の詳細情報の表示（実装済改善）
- 巡視対象場所の追加や編集ができる管理機能（実装済改善）
- 巡視結果の追加や編集ができる管理機能（実装済改善）
- 報告書が自動的に出力できる出力機能（実装予定）

⑤システムの保守運用を行うこと。

2-3 タブレット端末の調達

緑パトロールに貸与するタブレット端末を調達し通信機器と調整した。今回、AndroidタブレットであるBlackview Tab11を3台導入した。配布先としては、西播磨、阪神北、園芸公園協会とした。通信環境は、Docomo系の1年間20G byteのdata simを用意して運用を行った。

3. 結果

本調査では、打合せおよび説明会を計6日行った。またこの日以外にもオンデマンドでメール・電話での操作説明やタブレット端末の物理的なサポートを実施した。

システムの登録状況として、西播磨管轄での現地の詳細情報登録が15件、現地調査が21件登録された。阪神北管轄は現地の詳細情報登録が4件、調査4件となった。

次年度もシステムの試験運用を継続し、さらに使い勝手の良いシステム構築を目指す。また、これまで西播磨、阪神北で使用してきたタブレットを他の県民局に移して、地域的な問題が生じないか、調査員が変わっても使いやすいシステムとなっているか、などを明らかにする。

⑥ 企業オフィス等で働く職員の机の上に置く植物による ストレス軽減効果や業務能率の検証

豊田 正博

委託者

農林水産省令和4年度次世代国産花き産業確立推進事業の一貫で、全国鉢物類振興プロジェクト協議会より「企業オフィス等を対象とした鉢物類効用調査」の委託を受けた。

研究目的

企業オフィスでは、これまでのエントランスや壁面、屋上等のみならず、職場で働く個人の能率アップや健康管理に資する作業デスクや休憩室等における屋内緑化ニーズが高まっている。本研究では、企業オフィス等で働く職員の机の上に植物を置いた場合の健康効果や業務能率の検証を行った（令和4年9月～10月実施）。

研究方法

- 1) 対象：葉山町役場職員 40 名
- 2) 方法：5 週間にわたって被験者の勤務時から退勤時までの心拍数および、週始め・週末の心理状態を質問紙 POMS2 日本語版・成人用短縮版 (Profile Of Mood States 2nd edition) にて測定した。その間、午前と午後に最低1回、ストレスや疲労を感じた時に3分間、机の上(1週目)、観葉植物(2週目)、ミニコショウラン又はミニアンズリウム(3週目)、ミニバラ(4・5週目)を見る休息(ネイチャーブレイク)をしてもらった。

結果および考察

- 1) ブレイク前後の心拍数変化
すべての週で、ブレイク後2分～3分の心拍数平均値が低下し、前後の平均値には有意な差が認められた ($p < 0.01$)。この結果からは、机上の植物の有無にかかわらず、また、植物の種類にかかわらず、疲労・ストレス時の3分間ブレイクは高まった心拍数を下げることに、すなわち交感神経の働きを鎮めてストレスを軽減する効果があることが示された (図1)。
- 2) 各週始めと週末の POMS 2 総合得点変化
介入前の影響を受けていると考えられる1週始めの POMS2 総合得点と比べて、1週末の総合得点は低下 ($p = 0.053$)、5週末の総合得点も低下した ($p = 0.065$)。1週末の総合得点低下は、3分間のブレイクを導入したことが影響を与えた可能性がある。5週末の総合得点低下は、4週間にわたって机の上に植物があったことが影響を与えた可能性がある。
- 3) 業務中に集中している時間
毎週末に実施のオリジナルアンケートで「集中していると感じられる時間が、そうでない時間よりかなり多かった」との回答は、2週目(観葉植物)で33.3%と最も高かったが、他の週と有意な差は認められなかった ($p = 0.349$)。

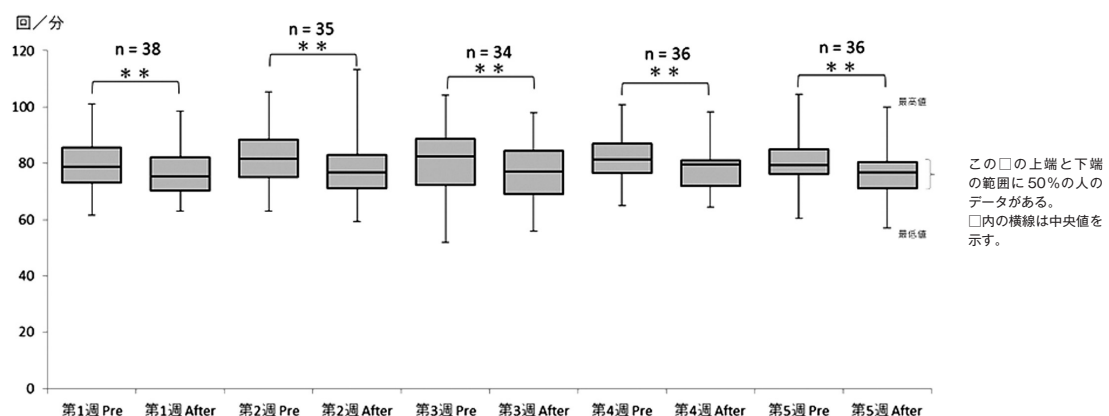


図1. 各週のブレイク前後の心拍数変化

⑦ 令和4年度慶野松原林床植生適正化事業

藤原 道郎

はじめに

海岸クロマツ林には海浜生態系の保全も重要である。ウンランは本州（千葉県以北の太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸、日本海沿岸）および北海道の海岸砂地に生育する多年生植物である。瀬戸内海沿岸では兵庫県（慶野松原）、香川県、愛媛県で分布が確認されている。慶野松原には兵庫県レッドデータ A ランクであるウンランや B ランクのナミキソウを初めとした希少種が生育しており、それらは慶野松原を特徴づけるものの一つであり、その生育環境の維持が重要である。そこで、兵庫県立人と自然の博物館の協力により希少植物の現状を把握し、その個体数の増加を図ることを行ってきた。慶野松原林床植生の適正管理のために、ウンランの生育状況のモニタリング、植栽試験およびナミキソウの遺伝的多様性を把握し、今後の管理の検討を行った。

ナミキソウの遺伝的多様性及び遺伝構造の評価

ナミキソウは、北海道から九州までの砂浜に生育するシソ科の多年生植物である。兵庫県では但馬地域で複数の集団が確認されている一方で、瀬戸内海側に面する地域では淡路島慶野松原で生育が確認されているのみである。このため、兵庫県レッドデータブック（2020）では B ランクに指定されている。本研究では、慶野松原に生育するナミキソウについて、核ゲノムを縮約した解析手法である MIG-seq 法（Multiplexed ISSR Genotyping by sequencing）により、兵庫県の集団を含めた全国的な系統地理学的研究を実施した。解析に用いた集団は、北海道から九州までの 30 集団 113 個体であり、外群として北海道のエゾナミキ 2 集団 7 個体を加えた。

その結果、その結果、エゾナミキはナミキソウと比較して遺伝的多様性が高い値となった。一方で、ナミキソウは総じて遺伝的多様性が低い値となった。特に瀬戸内海に面した生育地で顕著に遺伝的多様性が低く、慶野松原の集

団は調査したナミキソウ 30 集団の中で最も低かった。このように瀬戸内海のナミキソウの遺伝的多様性が低い要因としては 2 点が考えられる。まず、瀬戸内海のナミキソウ集団の成立から時間がそれほど経過していないことが挙げられる。瀬戸内海の成立は完新世以降とされており、他の海域と比較して非常に新しい。そのため、瀬戸内海に面した海浜においてナミキソウ集団が成立してからさほど時間が経過しておらず、集団が成立した際の創始者効果によって遺伝的多様性が低かった可能性が考えられる。

次に、瀬戸内海はナミキソウの適した生育地が少ないことも挙げられる。ナミキソウの生育環境は海浜の砂地であるが、海浜植生の発達する大規模な砂地は瀬戸内海では多くない。また瀬戸内海の沿岸は開発の影響を受けやすく（人工海岸の割合：48.13%）、全国平均（人工海岸の割合：32.99%）と比較して非常に高い。その結果、各生育地は孤立しやすくなり、高潮や波による砂浜の浸食を受けてボトルネックを受けた際に、周囲からの移入があまり期待できず、遺伝的多様性が回復しづらい可能性が考えられる。

慶野松原における同松原産ウンラン再導入苗のモニタリング

2022 年 7 月 28 日および 2023 年 2 月 25 日に現地を確認したところ、自生個体群 A は昨年度と同様確認された（図 9）。しかし、自生個体群 B は確認できなかった。自生個体群 B は 2018 年度から確認できておらず、上記の台風の影響により消滅した可能性がある。また、自生個体群 C は 2016 年度以降、確認できない状況が続いており、消滅したものと考えられる。

自生個体群 A の立地である砂浜土塁は不安定な立地で、個体群の規模も小さいため、引き続き域外保全が必要な状況である。

⑧淡路島百景のPR及びまちづくりへの活用のための調査研究

山本 聡・光成 麻美

1. はじめに

兵庫県淡路県民局では、淡路地域への愛着を育み魅力を活かした取り組みを生み出すことを目的として淡路島の景観づくりに取り組んできている。平成25年に一般投票により淡路島百景の選定、同26年及び同29年に一般県民からの応募等により「俳句で詠む淡路島百景」を選定し、パンフレットや冊子、ポスター、ホームページ及び主に島内住民を対象とした「淡路島百景を巡る講座」を通じて淡路島百景のPRを行っている。

一方県では、これまで保全・創造してきた景観が効果的に見える場である「視点場」の整備促進と地域の魅力についての情報発信の強化のため「景観の形成に関する条例」を令和4年に改正している。

これらを踏まえ、本受託研究では、これまでの広報の取り組みをより一層島外の県民等に拡大するため、淡路島百景のSNS（Instagram）での効果的な発信手法を調査・提案するとともに淡路島百景の景観ポイント・視点場の把握を行うことを目的とした。

2. 方法

まず、淡路島百景の所在地、視点場、視点場からみえる風景、その他特徴的な風景を有する場所、撮影想定時期（季節）、コメントを記したリストを作成後、撮影に適した季節や撮影経路を検討し、撮影計画立案を行った。

作成したリストと撮影計画をもとに、2022年8月から2023年3月の8か月間撮影を行った。なお、百景には時期・季節が限定される景観が複数存在するため、今年度撮影が不可能であったものは、次年度に撮影予定とした。

祭事未開催等の事情により撮影の必要がなくなった2つを除いた98のうち77か所で撮影を行った。そのうち、59か所の撮影が完了した。

いずれも視点場を複数設定し、静止画だけでなく、必要に応じて動画の撮影も行った。

3. SNS（Instagram）の運用

2022年9月2日に「淡路島百景」の公式Instagramアカウントを開設し、撮影が完了した景について毎週暫定公開分の写真を投稿しはじめた。その後本格投稿を開始し、3月末現在で、暫定公開26件、本格投稿6件を投稿した。

4. 広報活動

Instagram開設後、「淡路島百景」公式アカウントの周知のため、「淡路島百景」が集中している北淡路の花緑関連施設の管理運営者に向けて、公式アカウントの周知とフォロー依頼を行った。その後、10月21日に兵庫県公式アカウント「ひょうごの景観ビューポイント150選」アカウント運営から周知を行っていただき、2023年2月末に本格運用について正式に記者発表を行ったことにより、フォロワー数は131（一か月後）から205（四か月後）、256（六か月後）と推移しているが、今後もより一層の周知が必要である。2023年3月末現在では「淡路島百景」のホームページにもアカウント情報の掲載がないため、インターネットで検索してもアカウント情報が出てこない。アカウント情報が記載されたチラシの作成や新たな周知方法の検討が必要である。

5. 今後の課題

平成25年の選定から10年が経過し、周辺環境等の変化によりすでにその景観が見られないところや、新たに生まれた風景もあることから、定期的な見直しや改定も必要と考えられた。

⑨令和4年度慶野松原植生管理計画策定事業

藤原 道郎

はじめに

名勝「慶野松原」は1600年代より続く磯馴松の大木、老木により構成された白砂青松の松原であり、日本各地の多くの松原で造成や広葉樹林化が見られる中、海岸線から砂浜、砂浜植生、クロマツ低木林、クロマツ高木林の連続性が維持された極めて貴重な松原である。これらはエコトーンとしてそれぞれに機能があり、海岸クロマツ林の保全に健全な砂浜、海浜植生とその幅が必要である。

南部部中央部のクロマツ林分の密度管理が適正に行われているか明らかにするために、13H14H14I13Iおよび13I14I14J13Jの範囲において40×40m方形区をさらに10m×10mの小区画に区分し、小区画内に生育する樹高1.3m以上のクロマツの胸高直径、樹高、生枝下高、最下葉群高、樹冠幅（長径、短径）を計測し、樹冠幅（枝張）、樹冠面積、形状比、枝下率、樹冠率を算出した。それらの値を小区画（10×10m）ごとの平均値、最大値、最小値を示した。それらの平均値と合計値の頻度分布を示した。

葉群の広がりである樹冠面積が調査区の面積を上回っていると、樹幹が重なって被陰状態の個体が出てくる。また、枝の伸長が阻害され、磯馴松の樹形にはなりにくい。そこで樹冠面積に着目する。

100㎡の各小区画におけるクロマツの樹冠面積の合計は、平均が107㎡、最小22.1㎡、最大262.9㎡と平均では樹冠が一層で100㎡を覆っていることを示していた。100㎡未満の区画が32小区画中15区画（46.9%）であり、17区画（53.1%）は樹冠が重なっている状態であった。頻度分布をみると40～60㎡にピークがあり、80～140㎡にもう一つのピークが存在した。これは植栽後の成長により樹冠が重なりつつあることを示していると考えられた。

クロマツ個体数は5～18で、平均12.3個体であった。個体数頻度分布をみると多くは10以下で

全体としては適切数に近いと考えられた小区画における樹冠面積合計と平均個体数との関係を見てみると、個体数（個体密度：100㎡あたりの個体数なので個体密度ともいえる）が多いと樹冠面積合計が大きい傾向が見られたが、個体密度10本/100㎡以下でも樹冠面積合計が100㎡を超える区画が多数見られた。

平均胸高直径は12cm未満の区画が54.8%と小径木からなる区画が過半数を占めていた。樹齢約15年の植栽木から成っていた。次いで24～20cm（38.7%）と22-26cmが12.9%で胸高直径サイズとしては大きくない林分であった。平均樹高は2.4～10.4mであり、5m未満の区画が48.4%と小径木の区画が多く、5-10.2mまでの区画が51.6%を占めていた。枝下高は3～4mをピークとした一山型分布で、平均枝下率は全ての小区画で50%未満となっており、最下葉群高は5m未満であった。枯れあがりに関してはあまり見られない。平均枝下率はすべての区画で50%以下であった平均形状比は45-5-と65-70の2つのピークがあり65未満が54.8%と最も多く、75未満で80.6%を占めていた概ね過密林分の解消はできているものの、一部では密度が高く林冠が閉塞し重なっている小区画が認められた。再度の間伐時期に来ていると考えられた。個体密度と平均樹高の関係はあまりなかった。

次に、個体レベルでの植生管理の検討を行った。胸高直径が増加するに従い樹高も増加していた。胸高直径5～25cmの範囲で樹高の変化が見られた。胸高直径が増加するにつて形状比は減少した。胸高直径5～20cmに形状比が大きい個体が見られた。形状比と樹冠面積の関係を示した。形状比が小さい個体の樹冠面積が大きかった。ここで胸高直径5cmは樹高約3.5mとなる。胸高直径5cm、樹高3.5mになった段階で、枝張り等の重なりがないか確認し、1回目の間伐を検討することが必要と考えられた。

⑩農作業を行う障害者の健康改善

豊田 正博

委託者

本研究は、農林水産省農林水産政策研究所が行う令和4年度連携研究スキームによる研究（委託研究課題：研究テーマ6. 農福連携の地域経済・社会、障害者の心体への効果に関する研究）「農福連携効果の学際的かつ定量的研究」の一部である。東京都健康長寿医療センター研究所が研究中核機関として委託を受け、共同研究機関である本学の一部、再委託された。

研究目的

農作業や農場の緑のある環境が障害者の心体の健康や、事業所の農業生産性に影響を与え得るとの報告がある。しかし、健康改善がみられる人の割合、障害による健康改善の違い、健康改善を支える要因については明らかにされていない。本研究では、農作業を行う障害者の広義の健康改善について定量的に把握する質問を取入れた調査票を作成し、健康改善の状況と健康改善につながる理由を明らかにした。

研究方法

- 1) 調査期間 2021年2月8日～2月24日
- 2) 調査対象 全国で農作業を行う福祉事業所と特例子会社122件（有効回答票72件）

結果および考察

1) 健康上の課題がみられた人の健康改善率

農作業に携わる知的障害者、精神障害者の心理的・身体的ストレス、集中力、自己肯定感や自信、肥満傾向、体力、社会性について両者の健康改善率に有意な差は認められなかった(図1) ($p < 0.05$)。器用さや身体の柔軟性と睡眠については、知的障害者の方が精神障害者より健康改善率が高く、両者の間には有意な差が認められた ($p < 0.05$)。

2) 健康改善とその理由の関係

すべての健康改善項目で、作業、他者からの支援、環境、管理に関する複数の要因と正の相関がみられ、これらが相互に関わって健康改善につながっていることが示唆された（表省略）。

本研究詳細は下記を参照。

- ・豊田正博・山本俊光・中本英理・剣持卓也（2022）農福連携で農作業を行う知的障害者および精神障害者の健康改善効果。人間・植物関係学会誌。22（1）:1-12。

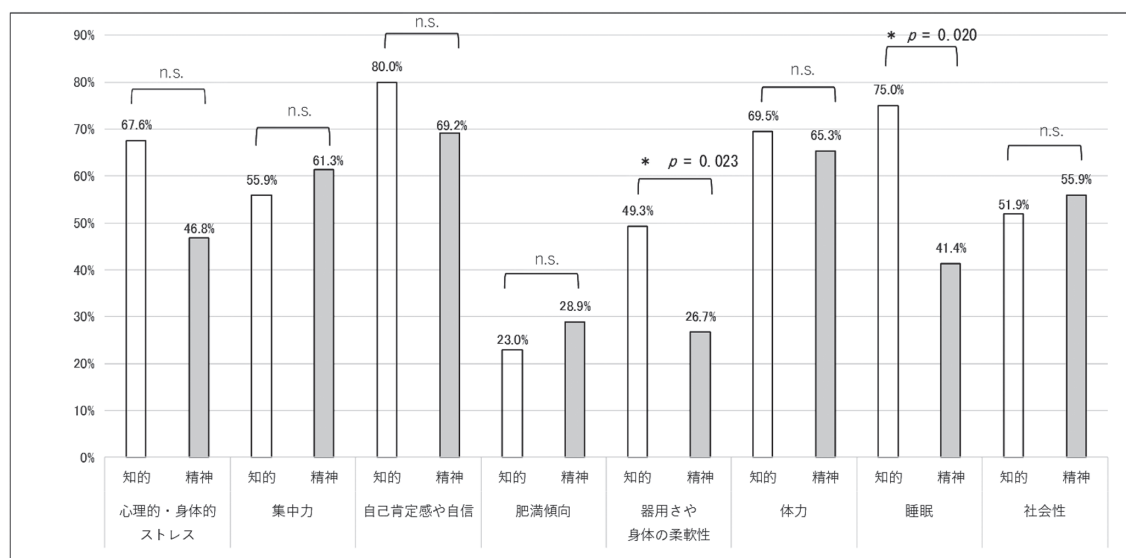


図1. 知的障害者と精神障害者の農作業参加後の健康改善率比較

⑪ 科研費B(分担研究) 農福連携の発展過程 可視化と方向性解明に関する研究

豊田 正博

研究概要

本研究は、令和4年度科学研究費助成事業基盤研究B「農福連携の発展過程可視化と方向性解明に関する研究」(研究代表者:千葉大学・大学院園芸学研究院教授 吉田行郷)の分担研究である。兵庫県の協力を得て、兵庫県内の農福連携の取組みを行う福祉事業所と農業経営体の両者にアンケート調査を実施し、福祉事業所65件、農業経営体23件より回答を得た。

質問内容は、事業所基礎情報・農業関連事項、農福連携取組方法、相手方となる農業者等(該当事業所のみ回答)、障害者が行う作業の種類等、農福連携に関する利用機関、農福連携に関連する知識や技術、農業経営体と福祉事業所・事業所利用者とのコミュニケーション等である。本年度の成果は、調査報告書にまとめた。

結果および考察

1) 福祉事業所向けアンケート結果より抜粋

- ・農福連携を行う事業所では就労継続支援B型の54件(83.1%)が最多であり、全国の傾向と同様であった。
- ・農福連携に携わる事業所当たりの利用者数は1—5人が33件(50.8%)と最も多かった。
- ・事業所が単独で農林水産業を行う取組みについて、現在行っていると回答した事業者が51件(78.5%)だったのに対して、農業者やJA等から、農林水産業に関する作業を請負う取組みを現在行っているとの回答は30件(46.2%)となった。本件では、事業者内農業が多く、作業請負は比較的少ないことがわかった。
- ・農福連携に携わる利用者のおよその平均月額工賃は1万円未満が19件(29.2%)と最も多く、次いで2万円以上5万円未満が17件(26.2%)となり、利用者全体のおよその平均月額工賃と大きな差はなかった。理由には、比較的工賃が高い作業請負が少なく、事業所

内で生産し、低価格販売をしてことが考えられる。

- ・農林水産業に取り組んでいる年数は3年未満が27件(41.5%)と最も多く、次いで5年以上10年未満の13件(20.0%)であった。全国的な農福連携への関心と同時に、新たに農業に参入する事業所も出てきたとみられる。
- ・農福連携が行われる生産部門で最も多かったのは野菜の57件(87.7%)で次いで麦・雑穀・豆類・芋類の24件(36.9%)であった。より集約的な栽培管理が求められる花卉や果樹ではまだ少なかった。
- ・現在、障害者が行っている作業で最も多かったのは栽培(除草含む)・飼育に関する管理作業、収穫・調製・出荷作業、加工作業のうち、技能習熟や高度な判断を求めない平易な作業の50件(76.9%)で、次いで簡単な道具で行える補完的な作業が41件(63.1%)であった。危険を伴う作業も13件(20.0%)実施されていることがわかった。
- ・現在、農福連携関連業務を担当する従業員は、障害者の作業性向上のための作業分解・作業割り当てや、作業難易度を知るための知識がある程度実践に活かされているの31件(47.7%)と、県内での研修の成果が表れ始めている様子であった。

2) 農業経営体向けアンケート結果より抜粋

- ・代表者(農業経営者)の年齢で最も多かったのは49歳以下が9件(39.1%)で、比較的若い経営者が農福連携を実施していた。
- ・生産部門は野菜が18件(78.3%)と最も多かった。野菜の栽培管理では、福祉事業所利用者ができる作業も比較的多いことから、今後、福祉事業所が作業請負の形で参入する余地がある。
- ・現在、障害者が行う作業では、技能習熟や高度な判断を求めない平易な作業が15件(78.9%)で最多であった。

3 産学連携研究

大阪梅田ツインタワーズ・サウスをフィールドとする産学連携協定

大藪 崇司

県立淡路景観園芸学校、県立大大学院緑環境景観マネジメント研究科、阪神園芸株式会社との3者は、大阪梅田ツインタワーズ・サウスをフィールドに、壁面緑化、屋上緑化など高層ビルにおける緑の活用に関する学術研究、実証実験、さらに学校教育の場として様々なプログラムの開発・運営を行っている。



2022年3月に行われた産学連携協定調印式

今年度は、以下のイベントを実施した。

実施年月	イベント名	対象者	人数
2022.5	春のお散歩ツアー	学生	15
	Fasaka Market	一般客	300
9	苔テラリウム講座①	オフィスワーカー	22
10	苔テラリウム講座②	オフィスワーカー	21
11	秋のお散歩ツアー	学生	4
2023.1	路上アンケート	一般客	65

今後とも三者が連携し、緑あふれるまちづくりや都市緑化の意義、学校の取り組み・研究成果・SDGsの取組みに関する情報を発信していきます。



大阪梅田ツインタワーズ・サウスで実施した苔テラリウム講座

IV 一年のあゆみ



1 淡路景観園芸学校入講式

令和4年4月4日(月)多目的ホールにて、景観園芸専門課程(緑環境景観マネジメント研究科)20名、園芸療法課程全寮制8名、同課程通学制10名の全国から年齢や経歴も様々な38名が入講した。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年と同様に来賓はお呼びせず、学校関係者のみで開催した。

式典では中瀬校長が、「景観園芸」という学際的の学問分野は、地域全体をトータルに把握して秩序づける行為であり、自然と共生し美しい自然・花や緑と人が豊かに触れ合い、いつくしみあひながら生き生きと生きて行ける「まちづくり」「環境づくり」を実現するもので、気候変動や自然災害の発生、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行きが不透明であるが、このような時こそ人と自然の共生の英知に触れ、それを社会で実践することが大切である旨を述べた。

続いて、齋藤兵庫県知事からコロナ禍は持続可能な開発目標、SDG s を達成するための挑戦であると同時に、大きな機会でもある。生態系や生物多様性の保全を通じて災害や感染症などに対して、より強靱かつしなやかな社会・経済モデルへ移行していく「グリーン・リカバリー」を目指し、新たな時代を築いていかれることを祈念する旨の祝辞をいただいた。(代読は兵庫県まちづくり部 岡次長)



そして、新入生が一人ずつ紹介された後、入講生を代表して太田公佑さんが抱負を語った。それを受けて、在校生を代表して瀧上楓さんが歓迎の言葉を述べた。



2 淡路景観園芸学校修了式

令和4年度兵庫県立淡路景観園芸学校修了式は、令和5年3月10日(金)新型コロナウイルスが収束していないため、昨年と同様に来賓をお呼びせず、学内関係者のみで多目的ホールにて行った。

本年度は、緑環境景観マネジメント研究科13期生17名、園芸療法課程全寮制20期生8名、通学制10期生3名が晴れて修了を迎えた。

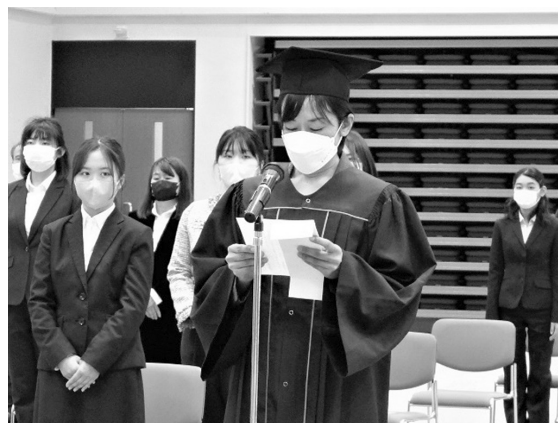
中瀬学長からは「おめでとう」のことばとともに緑環境景観マネジメント研究科13期生には「兵庫県景観園芸士認定証」と「学位記」、園芸療法課程全寮制20期生及び通学制10期生の受講生には「修了証書」と「兵庫県園芸療法士認定証」が授与された。

続いて在校生を代表して緑環境景観マネジメント研究科14期生松本夕芽さんが修了生に向けて感謝と激励の送辞を述べた。

その後、緑環境景観マネジメント研究科13期生の吉武佳穂さん、園芸療法課程全寮制20期生の安田幸代さんが学生生活の思い出、これまでの感謝、新生活の決意、後輩へのエールを答辞として述べた。

記念撮影は昨年度同様に各人の距離をとって、屋外にて行った。

今年度も修了生を送る会は中止とし、物足りないお別れとなったが、新しい生活に向けてみな元気に羽ばたいていった。



3 兵庫県立淡路景観園芸学校祭 (ALPHA祭2022)

研究科14期生 上原 俊樹

新型コロナウイルス感染症の影響により、過去2年間はALPHA祭を開催することが出来ませんでした。しかし、規模を縮小、感染対策を行う等の工夫を凝らすことで、2022年11月5日(土曜日)に淡路景観園芸学校ALPHA祭2022を開催することができました。



10団体以上の出店や展示などがあり、当日の会場を大いに盛り上げてくれました。また、出店者同士の顔合わせも行い、お客さんとの繋がりがだけでなく、開催側の中でもつながりができたと思います。



出店や展示のほか、ALPHAガーデンの案内を田淵先生や岩崎先生に行っていただき、たくさんの方が参加されました。宿根草エリア、屋上庭園のほかガーデンデザイン演習で作成した作品を再度展示しました。

～出展団体リスト～

- ・なるほどなるほどおもしろ工作
- ・コケ玉体験教室とミニ盆栽苗の販売
- ・AGN shop
- ・Monticola Awaji +
- ・ブックリサイクル
- ・淡路景観園芸学校入試案内
- ・バルーンアート
- ・マルシェ
- ・アルファガーデンの四季
- ・かえっこバザール
- ・庭師の植木苗販売
- ・扇カフェ
- ・手作り饅頭工房
- ・樹木高さ調べ
- ・農社
- ・「光・風・水・土」未来の子供たちへ
- ・摩耶地区のお野菜販売



たくさんの方にご協力いただきました。
ありがとうございました。

4 NPO法人 アルファグリーンネットの一年（2022年度）

2023年(令和5年)3月31日

1. アルファグリーンネットの沿革

NPO法人アルファグリーンネット（略称AGN）は、兵庫県立淡路景観園芸学校の生涯学習課程の修了生を中心に、各地域で花と緑のまちづくり活動を行うことを目的として2000年（平成12年）3月に結成されました。

2001年10月、特定非営利活動促進法による知事認証を受けてNPO法人となり、2023年3月末で約313名の会員を擁しています。会員は県内外に広がり、生涯学習で学んだ知識を活かしアルファガーデンや各地域で活動を行っています。

AGNは会員の知識技術の向上、淡路市図書館や民間企業との連携による活動の推進等、様々な活動を展開しています。

総会を5月に行いました。役員は10名の理事と2名の監事から構成され、総務、会計、事業、企画、広報を分担し担当しました。

2. 2022年度のAGNの活動

(1) キャンパス公開事業

① アルファガーデン案内事業

学校の受託を受け、学校を訪れた方々にアルファメイトが学校を紹介すると共に美しい景観のアルファガーデンを案内する活動を行っています。

アルファメイト（現在29名）は、毎週土日祝に案内業務を行っており、更に団体の来園時には、曜日を問わず上記に加え団体対応班を設けて案内活動を行えるようにしています。年2回アルファメイト研修会を開催し、案内知識と技術の向上に努めています。



② 園芸体験教室の開催

年間12回、学校内外で開催し、延べ約360名の参加者を目標に実施し、学校、アルファガーデン、AGNの魅力も伝えています。キャラバ

ンとの併催や、淡路市立東浦図書館、津名図書館との協働、舞子海上プロムナードでの開催などを行い参加者は年間344名でした。



(2) その他の受託・依頼事業

① 慶野松原植生調査

南あわじ市慶野松原の植生を調査し、白砂青松の松原の維持管理のための活動を藤原先生ご指導のもと、実施しています。今後も滞りなく継続していくために調査をするメンバーの広がりを望んでいます。

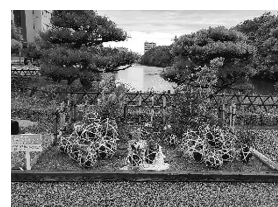
② 黒谷モニタリングサイト1000

環境省・重要生態系監視地域モニタリング推進事業（里地里山事業）を（公財）日本自然保護協会から委託され、植物相調査を、毎月1回淡路市黒谷で実施しています。2023年2月に「環境栗東淡路」島民会議より島民運動賞の表彰を受けました。

③ ひょうごまちなみガーデンショー

毎年9月、兵庫県立明石公園で開催される「ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」におけるデモンストレーションガーデンをまちづくりガーデナー本科コース修了生が制作し（23期生）作品は高い評価を得ました。

「夢プラン」では、園芸療法士によるトロ作り体験とハーブミスト作りを開催し好評を得ました。各種コンテストでも多数のAGN会員が入賞しています。



④ 民間企業との共催事業

農家レストラン陽・燦燦でレストラン内でのミニ園芸体験（ハイドロカルチャー教室）を2月に行い10名の参加がありました。

(3) 地域活動

①キャラバン

地域で活動する会員との交流支援、学習を目的として先生と発表者、AGNが各地域へ赴く「キャラバン」を年4回実施し、淡路（6月・大中先生）、阪神（10月・平田先生）、神戸（12月・新保先生）、東播磨（2月・蛭田先生）の4回開催しました。

キャラバンには、AGN会員以外の地域の方々も参加し、学校の紹介や生涯学習課程への受講、AGNへの入会のきっかけとなっています。

② 全国豊かな海づくり大会

明石公園で11月に行われ、学校とAGN事務局、大学院生が協力して学校のPRをしました。ひょうご農林機構、民間団体協力の元ブースを出展し、ハーブミスト作りとDWファイバーを使用したハイドロカルチャー教室を行い大盛況でした。



(4) アルファ祭（学園祭）

アルファ祭が大学院生実行委員会との共催で3年ぶりに1日だけでしたが開催されました。かえっこバザール、アルファガーデン写真の展示、地元食材の販売等の催しがあり懐かしい修了生との再会を楽しみました。



(5) その他の会員向け活動など

①学内ボランティアグループ

ペレニアルガーデン、アルファガーデン美化クラブ、アルファヒーリングガーデンクラブ、剪定組などのグループが学内で活動し、アルファガーデンの美化に貢献しています。ガーデ

ンメイトが今年度より始まった一方で、プランター農園グループは諸事情により終了します。

くにうみ協会の助成金で花街道づくり事業をペレニアルガーデンが田淵先生のご指導のもと実施しました。

②AGNニュースの発行

会員に向けて学内の様子やボランティア活動、先生方や大学院生の研究記事を年6回奇数月に発行しました。会員からの投稿希望もありました。（最新132号）

③研修旅行

3年振りに会員の研修と親睦を図る旅行を計画し、10月に兵庫県立フラワーセンター、羅漢寺への日帰りバス旅行を実現出来ました。



④AGNメーリングリスト

学校やAGN、会員からの各種情報提供の手段として活用し、今年度は10回AGN事務局から花緑とまちづくりに関する情報を発信しました。

⑤学校での講義・案内

9月に本科コース24期生、1月に園芸療法課程（全寮制20期生、通学制11期生）にボランティア活動、AGNの活動紹介を行いました。

⑥修了生への案内

3月修了式に合わせAGNからお祝いのメッセージを手渡し、入会案内を多目的ホール入り口で行いました

⑦大学院生のインターンシップ

8月1日～12月29日の中の延べ40時間でインターンシップを大学院生に行いアルファメイトが使用するガーデンマップ作製やAGN活動の補助を経験してもらいました。

5 客員教員の招聘

(1)白川勝信先生

藤原 道郎

広島県北広島町立 芸北 高原の自然館 主任学芸員の白川勝信（しらかわかつのぶ）先生を令和3年度より客員教員として招聘し、兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科の特任教授として「森林資源循環による生物多様性保全と地域の魅力化」を担当していただいている。8月に北広島町での森林資源の循環の現場での解説を受け、11月に淡路島にどのように循環の仕組みを応用できるのか考察を行うもので、現場に則った授業をしていただいている。

ご専門は植物生態学で、主な活動として以下があげられる。

湿原、半自然草原、里山林など、地域の人間活動によって維持されていた生態系の保全をテーマに博物館活動を展開している。特に広島県芸北地域で、森林や半自然草原の資源を地域内で循環させる「芸北せどやま再生プロジェクト」や「芸北茅プロジェクト」による地域の景観保全や環境保全（生物多様性保全）に取り組んでいる。また、北広島町の「生物多様性きたひろ戦略」の策定に取り組み、生物多様性保全を基盤とした地域づくりに貢献している。子ども、事業者、行政、ボランティアなど、様々な主体による自然への関わり方を見直し、新たな仕組みを組み込みながら、地域と自然を将来に残していく道を目指し活動を続けている。2017年に第1回 ジャパン アウトドアリーダーズアワード 大賞受賞。

学と地域をつなぐ社会活動に尽力され、日本生態学会和文誌編集委員、生態系管理専門委員、認定NPO法人 西中国山地自然史研究会 専門員、NPO法人 環境パートナーひろしま 理事、一般社団法人 全国環境NPOネットワーク 理事、一般社団法人 全国草原再生ネットワーク 理事など。



白川勝信先生（森林資源循環施設）



北広島町立 芸北 高原の自然館



森林土壌の解説

5 客員教員の招聘

(2)立田彩菜氏

藤原 道郎

研究課題：淡路島における地域住民主体のチドリ類の保全および広報に関する研究。

研究期間：令和4年7月22日～

令和5年3月31日

令和4年度よりパシフィックコンサルツ北海道支社の立田彩菜（たつたあやな）氏を客員研究員として招聘し、淡路市、洲本市の鳥でもあり絶滅危惧種のシロチドリの保全と広報に関する研究を実施した。令和3年度の実践演習の成果の社会実装となる。

1. 映像を利用した広報戦略

講演会および行政向け説明会での参与観察から、映像は広報戦略の効果が高いことが確認できた。現地で撮られた映像を利用することで、よりチドリの生息環境について実感を持って伝えることができ、行政担当者の保全に対する行動につながると考えられた。

2. 広報・報道による効果

淡路市広報誌がきっかけで他県の団体と保護柵作成マニュアルや、保護エリア設置の許可申請の手順や方法等の共有化を行った結果、保護エリア設置が許可されるなど、淡路島での実績が他県にも普及し、他県での勉強会を依頼されることにもなった。また神戸新聞による環境特集がきっかけで、環境省委託事業の依頼にもつながった。学会発表を通じての問合せもあった。広報誌などを通じて全国各地の保全活動に生かすことができた。

3. 絶滅危惧種と情報公開

生息地の表記に関しては、当初「淡路島内」とのみとした。しかし、自らの報道の経験も踏まえ報道機関からの要望にも一部応え、写真に地域が特定されるような構造物が映り込まないことを条件に、自治体名（淡路市・南あわじ市・洲本市）までは出しても良い、保全体制が整っている東浦、成ヶ島、慶野松原については、地域名まで出しても良いということにした。その結果、報道によりシロチドリおよび保全活動に関する認知度は増加した。情報公開のルールを作って徹底しつつ、状況を見ながら柔軟に対応

することが効果的であったと考えられた。

4. 公的機関の関与による信頼性

地域住民の発言から、淡路景観園芸学校 / 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科がちどり隊の活動に関わっていることは地元の人たちへの安心感・信頼性向上に寄与していることが確認できた。また、環境省から業務委託を受けている旨を記載できること含め、大学や公の機関が活動に関係すること地域での信頼感につながった。

5. 「ちどり隊」というブランド

淡路市広報誌のちどり隊活動を知り「ちどり隊に入りたい」という声が多数聞かれ、実際にメンバーに加わったり、行政内でもチドリが話題になるなど、急速な認知度の高まりも感じられた。これらはチドリが淡路島の人たちに大切な存在であったからだと考えられた。さらには、千鳥柄、千鳥模様、千鳥足など、日本文化にも馴染み深いため、淡路島内だけでなく、日本全国にチドリへの関心を高められる可能性を感じられた。今後は調査・保全に限らず、ビーチクリーンや展示会等、多方面に活動を展開し、特に子どもたちの参加機会を増やし、次世代育成につなげたい。

研究・活動実績

- ・立田彩菜：「絶滅から救え！チドリを見守る（原稿・写真提供）」（「淡路市広報誌5月号（淡路市編集発行）」p 2 - 5. 2022年5月
 - ・立田彩菜：「浜千鳥（シロチドリ）を守る「淡路島ちどり隊」始動」。北海道野鳥愛護会会報誌「野鳥だより」208号、4 - 5. 2022年6月
 - ・令和4年度瀬戸内海国立公園淡路地域シロチドリ越冬地調査等業務委託。
 - ・立田彩菜・藤原道郎：淡路島におけるチドリ類をフラッグシップとした保全ネットワークの構築と実践。ELR2022、つくば
 - ・「国生みの島 海と環境のシンポジウム」2022年11月26日、兵庫県淡路市しづかホール。
- 他、講演・講師・出展：6件
報道・広報（掲載）：4件
殖期調査：4 - 8月・越冬調査：9 - 3月

6 客員研究員の受入

(1) Margaret Ayer Barnes 氏

アメリカ合衆国、Deva Designs 社 社長。ランドスケープ・アーキテクトとして、ヒーリングガーデン、療法的空間デザイン等を設計。カリフォルニア大学バークレイ校、ロサンゼルス校等における療法的デザイン等についての講義、ヒーリングガーデンに関する出版、受賞の業績がある。2022年度は、「緊急時のバイオフィリア」に関する英語論文共同執筆を依頼した(執筆中)。

(2) 横田 優子氏

淡路景観園芸学校園芸療法課程修了後、今日に至るまで園芸療法課程非常勤講師として科目「植物利用」での学生への指導や、公園・福祉施設等での園芸療法講座講師等を行っている。2022年度は、農林水産政策研究所連携研究スキームによる研究で、障がい者が農作業を行うときの脳血流データを共同で測定した。

(3) 林 まゆみ氏

林まゆみ氏は、京都大学農学部を卒業後、造園系コンサルタント、大学の講師等を経て、1999年より姫路工業大学(現兵庫県立大学)助手並びに本学の景観園芸専門員となり、2020年4月より特命教授の役職を担うなど、造園史、街づくり等多様な分野に秀でた人物である。本学においては、令和2年6月より海外からのゲストスピーカーを招聘し、遠隔会議形式による国際的フォーラムを新潮流セミナーとして合計6回開催し、令和3年度にはその総括としての書籍「オープンスペースから都市を創る」を出版した。令和4年度は、これらの公表を目標として研究を進め、英訳の概略版を作製した。

(4) 橘 俊光氏(株空間創研 執行役員)

研究課題：都市公園リノベーション事業の構造に関する研究

橘氏は、科研費プロジェクト「管理運営の成果を活かしたリノベ計画技術体系化のための関係業務実態分析とその構図化」(代表：平田富士男)を共同して進めるべく客員研究員として迎えられた。2022年度は、これまでの研究成果を図書として刊行すべく原稿作成に入り、そのうちの第12章において「計画的リノベーションのための都市公園資料等公文書保存の重要性」の執筆を担当した。

V 教員個人活動記録



活動報告

◆田淵 美也子

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・フィールド植物観察演習Ⅰ・Ⅱ(1年, 前期・後期, 主任)
- ・植物管理技術演習(1年, 通年, 分担)
- ・生活空間デザイン演習(1年, 前期, 分担)
- ・園芸植物活用演習(1年, 後期, 分担)
- ・ガーデンデザイン演習(1年, 通年, 主任)
- ・反復型インターンシップ(1年, 分担)
- ・緑環境景観マネジメント概論(1年, 通年, 分担)
- ・活用デザイン実践演習(2年, 通年, 分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・栽培演習(園芸療法課程, 通年, 分担)

1.3 その他の担当教育科目

- ・花壇のデザインと植栽管理(花と緑のまちづくりガーデナー本科コース)
- ・花壇のデザインと植栽, 花施設視察(花と緑のまちづくりガーデナーマスターコース)
- ・兵庫県立大学東部キャンパス担当科目: 緑景観マネジメント論「緑環境景観マネジメントにおける園芸の役割と展望」(2022.6.4 3, 4限)
- ・兵庫県立大学東部キャンパス担当科目: 緑環境景観論「園芸の歴史とこれからの展望」(2022.8.25.1, 2限)

1.4 その他の学生指導、学内行事指導など

- ・宿根草ガーデン、管理、指導
- ・特定非営利活動法人アルファグリーンネット学内植物管理指導、研修会講師
- ・ナチュラルスティックガーデンの制作、ボランティアグループへの管理指導
- ・アルファ祭における学生相談、指導

2. 主な業績

(口頭発表・ポスター発表)

- ・王羽・田淵美也子・山本 聡・札幌高志, 2022. 屋内空間における人工観葉植物の利用と利用者の意識. 人間・植物関係学会雑誌 22 (別冊): 76-77.

(紀要_報告)

- ・田淵美也子・小林徹也・稲葉健二・井上浩彰
2022. 神戸市六甲山地区におけるヤマアジサイ (*Hydrangea serrata*) の分布と多様性
景観園芸研究 23: 31-37

3. その他の研究

- ・「神戸市六甲山地区におけるヤマアジサイの分布と多様性」の研究調査
- ・暖地におけるロックガーデン植栽植物の越夏、越冬状況
- ・温暖地における宿根草の生育状況と適正種選別および維持管理について
- ・温暖地向きのナチュラルスティックガーデンの制作、生育管理調査
- ・コケ類の園芸の利用
- ・兵庫県花「のじぎく」についての実態調査

4. 学内委員会などの活動

- ・新展開推進委員
- ・FD委員会委員
- ・国際部ナイアガラ委員
- ・広報委員
明石公園花と緑のまちづくりセンターに学校広報のため Mosslight の貸し出し。
- ・環境保全委員
ALPHA ガーデンの一部改修について提案、実施(一年草花壇をナチュラルスティックガーデンに転換)
- ・学内フィールド会議(アルファガーデンの維持管理)
- ・アルファ祭担当
3年ぶりのアルファ祭の開催

5. 社会活動

(委員会など)

- ・公益財団法人尼崎緑化公園協会 理事
- ・日本樹木医会兵庫県支部 理事
- ・人間・植物関係学会、日本園芸療法学会 2022 年合同大会事務局

(審査)

- ・ひょうごまちなみガーデンショー「ゼラニウム 'レッドエクスポーション」単録コンテスト審査委員長 (2022.9.18)
- ・お絵かき花壇づくりコンテスト審査副委員長

(くにうみ協会 2023.3.21)

- ・ガーデンフェスティバル in おの ガーデニング、サンパチェンス審査員 (2022.10.29)
(講師など)

- ・神戸市立森林植物園クラフト指導等 (2022.7月, 12月)
- ・こうべ六甲山私有林研究会「ヤマアジサイ自生地見学ツアー」植物解説 (2022.6.25)
- ・いなみ野学園 講師
「花や緑の空間デザイン」 (2022.5.23)
- ・梅ーグリーンプロジェクト
コケリウムワークショップ講師 (2022.9.14,10.5)
- ・兵庫県花と緑の専門員講習会 講師
「ベレニアルガーデンの説明、植物利活用について〜スワッグづくり」 (2022.11.29)
(マスコミ出演等)

- ラジオ関西との共同企画のラジオ番組「水曜ききもん こちら兵庫県立大学です!」(2022.3.1)

6. 学会活動など

(所属学会)

- ・日本造園学会 (1990 ~)
- ・人間・植物関係学会 (2017 ~)
- ・日本蘚苔類学会 (2018 ~)
(所属団体)
- ・公益社団法人日本植物園協会 (個人 2017 ~)
- ・日本樹木医会 (2005 ~)
- ・公園管理運営士会 (2008 ~)
- ・自然再生士会 (2014 ~)
- ・日本アジサイ協会 (個人 2017 ~)
- ・ユリ協会 (2010 ~)
- ・東アジア野生植物研究会 (1995 ~)
- ・全国女性造園技術者の会 (1996 ~)
- ・こうべ六甲山私有林研究会 (2020 ~)

◆札幌 高志

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観
マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・フィールド植物観察演習Ⅰ(前期) (1年前期, 分担)

- ・フィールド植物観察演習Ⅱ（後期）（1年後期，分担）
- ・植物管理技術演習（1年通年，主任）
- ・SDGs 実現のための園芸植物の活用（1年後期，主任）
- ・園芸植物活用演習（1年後期，主任）
- ・ガーデンデザイン演習（1年通年，分担）
- ・反復型インターンシップ（1年通年，分担）
- ・緑環境景観マネジメント企画演習Ⅰ（前期）（1年前期，分担）
- ・緑環境景観マネジメント企画演習Ⅱ（後期）（1年後期，分担）
- ・活用デザイン実践演習（2年通年，分担）

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・園芸と環境（通年，分担）

1.3 その他の担当科目

- ・花と緑のまちづくりガーデナー本科コース（通年，分担）
- ・花と緑のまちづくりガーデナーマスターコース（通年，分担）
- ・花と緑のまちづくりガーデナーテーマコース・ひょうご在来作物の栽培（春夏期）（前期，主任）

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等（論文）

- ・Fudano, T. and Y. Akiba. 2023. Crushed fibrous bamboo as a potting substrate for French marigold. Acta Horticulturae (in press)

（口頭発表・ポスター発表）

- ・**札埜高志**・大中博文・蛭田永規・角石真弥. 2022. 新規木質土壌改良材がフレンチマリーゴールドの成長・開花に及ぼす影響. 園芸学研究 22（別冊1）: 380.
- ・王羽・田淵美也子・山本 聡・**札埜高志**. 2022. 屋内空間における人工観葉植物の利用と利用者の意識. 人間・植物関係学会雑誌 22（別冊）: 76-77.
- ・Fudano, T. and Y. Akiba. 2022. Crushed fibrous-bamboo as a potting substrate for French marigold. IHC2022.

（他学部大学出講）

- ・緑観マネジメント論（兵庫県立大学，前期，分担）
- ・緑環境景観論（兵庫県立大学，前期集中，分担）
- ・花卉園芸学（吉備国際大学，前期集中，主任）

- ・ランドスケープデザイン学（吉備国際大学，後期集中，主任）

（その他）

- ・人間・植物関係学会雑誌 22（別冊）・日本園芸療法学会誌 14（別冊）編集責任者
- ・人間・植物関係学会雑誌ニューズレター No.33. 編集責任者
- ・人間・植物関係学会雑誌ニューズレター No.32. 編集責任者

3. その他の研究

（受託を受けた研究）

- ・受託研究，DW ファイバーおよびグロウアースの園芸資材としての評価に関する研究，代表

4. 学内委員会等活動

（研究科）

- ・地域創造推進会議
- ・生涯学習推進会議

（園芸学校）

- ・新展開推進会議
- ・ガーデンリニューアル
- ・国際化推進
- ・教務委員会
- ・生涯学習委員会
- ・学生生活支援

5. 社会活動

（講演等その他）

- ・神戸市シルバークレッジ総合芸術コース園芸専攻講座「植物のふやし方」講師（2022.9.8 神戸市シルバークレッジ）
- ・阪神シニアカレッジ園芸学科「園芸と健康」講師（2022.10.6 宝塚市阪神シニアカレッジ）
- ・兵庫県農業青年技術交換大会「竹材の園芸利用」講師（2022.11.25 淡路市 津名ハイツ）
- ・ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ 農業景観と地域観光，調整係・コメンテーター（2022.11.28 zoom）
- ・兵庫県立津名高校「園芸植物の微細繁殖」講師（2023.3.23 本校）

6. 学会活動等

（所属学会）

- ・園芸学会
- ・国際園芸学会
- ・日本生物環境工学会
- ・人間・植物関係学会

- ・農業生産技術管理学会

（学会各種役職）

- ・人間・植物関係学会理事
- ・人間・植物関係学会・園芸療法学会 合同大会実行委員会 副会長
- ・農業生産技術管理学会評議員
- ・園芸学会 JABEE 審査員候補者

◆ 豊田 正博

主任景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授）

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・緑環境景観マネジメント概論（分担）
- ・緑環境景観マネジメント企画演習Ⅱ（分担）
- ・園芸植物活用演習（分担）

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・ガイダンス講義（前期，主任）
- ・みどりと健康（通年，主任）
- ・園芸療法のための医療・医学（通年）
- ・園芸と環境（通年，主任）
- ・対象理解とみどりの活用（通年）
- ・ガーデニング（通年）
- ・園芸療法研究法（通年）
- ・園芸療法演習（後期，主任）
- ・マーケティングとマネジメント（後期，主任）
- ・園芸療法実習Ⅰ全寮制（通年，主任）
- ・園芸療法実習Ⅰ通学制（通年，主任）
- ・園芸療法実習Ⅱ全寮制（通年，主任）
- ・園芸療法実習Ⅱ通学制（通年，主任）
- ・園芸療法実習Ⅲ全寮制（通年，主任）
- ・園芸療法実習Ⅲ通学制（通年，主任）（園芸療法実習報告会）

- ・通学制園芸療法実習Ⅱ報告会. 2022.6.12.
- ・全寮制園芸療法実習Ⅱ報告会. 2022.7.31.
- ・全寮制/通学制園芸療法実習Ⅲ報告会. 2023.1.15.

1.3 その他の担当科目

- ・兵庫県立大学「緑景観マネジメント論」（分担）
- ・花とみどりのまちづくりガーデナー本科コース 講師（園芸療法入門）
- ・花とみどりのまちづくりガーデナーマスターコース 講師（園芸福祉）
- ・花とみどりのまちづくりガーデナーテーマコース 講師 緑を用いたス

トレスケア 2022.8.27.,9.18.

1.4 他学部大学出講

- ・明治大学農学部兼任講師。「景観園芸学」.2022.9.5.-9.8.
- ・関西総合リハビリテーション専門学校非常勤講師。「作業学実習Ⅱ（園芸療法）」.淡路市.2022.6.16.

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書など

(原著論文)

- ・豊田正博・山本俊光・中本英理・剣持卓也 (2022) 農福連携で農作業を行う知的障害者および精神障害者の健康改善効果. 人間・植物関係学会誌. 22 (1) : 1-12. [査読あり]
- ・中本英里・豊田正博・山本俊光 (2022) 農福連携の取組が農業経営にもたらす影響. 農林業問題研究. 58 (2) :98-105. [査読あり]

(教科書)

- ・豊田正博 (分担) (2022) 文部科学省検定済教科書中学校「技術家庭」第2編 生物育成
1章-2 作物の育成環境を調節する技術, 1章-3. 作物の成長を管理する技術. 92-95. 東京書籍. 東京.
- ・豊田正博 (分担) (2022) 文部科学省検定済教科書中学校「技術家庭」第2編 生物育成
2章-2 生物の育成計画を立てよう. 104-109.
東京書籍. 東京.

(著書)

- ・豊田正博 (分担) (2022) 文部科学省検定済教科書高等学校農業科用「草花」指導書 第3章 生活と草花の利用 1 草花の多面的利用 24-26.2 園芸デザイン 27-31. 実教出版. 東京.
- ・豊田正博 (分担) (2022) 文部科学省検定済教科書高等学校農業科用「草花」指導書 第8章 草花経営の改善 2 ユニバーサル農業の視点. 120. 実教出版. 東京.
- ・豊田正博・藤原茂 (2022) あなたと共に働く 職場の花・みどり. 全24頁. 全国鉢物類振興プロジェクト協議会. 東京.
- ・豊田正博 (2022) 談話室: オフィス緑化がもたらすストレス軽減プラスα. 月刊不動産流通3月号. 1-2.

(報告書)

- ・豊田正博. 農林水産省農林水産政策科学研究所令和2~4年度連携研究

スキームによる研究(委託研究課題) 農福連携効果の学際的かつ定量的研究 農作業が心体や生産性向上へ与える効果についての調査報告書(福祉事業所版) 全70頁. 2022.3.

- ・豊田正博・菊川裕幸. 令和4年度科学研究費助成事業 基盤研究 B「農福連携の発展過程可視化と方向性解明に関する研究」兵庫県で農福連携に携わる福祉事業所・農業経営体へのアンケート調査報告書 全55頁. 2022.3.
- ・豊田正博 (分担執筆). 農林水産省農林水産政策研究所令和4年度連携研究スキームによる研究「農福連携効果の学際的かつ定量的研究」最終報告書 第2章第1節 農作業が精神機能(前頭前野賦活)に与える効果の検証. 3.7., 第2節 農作業が心体や生産性向上へ与える効果についての調査表開発・調査分析. 8-21. 全63頁. 2022.3.

2.2 学会発表

【国内】

(大会長講演)

- ・豊田正博 (2022) 自然を愛するところ 園芸療法のところ. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会講演・発表要旨集. 11-14. 兵庫県立淡路景観園芸学校. 兵庫県.

(口頭発表)

- ・豊田正博・今井一隆・手代木純・藤田昌志・佐々木康司・小酒井淑乃 (2022). バイオフィリックデザインを取入れた都市公園屋内空間での認知機能課題遂行がストレスマーカーである心拍数に与える影響. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会講演・発表要旨集. 84-85. 兵庫県立淡路景観園芸学校. 兵庫県.
- ・山本俊光・豊田正博・中本英里 (2022) 農福連携に参画するB型事業所において賃金, 作物の規格・品質, 販路, 価格に影響を与える要因. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会講演・発表要旨集. 88-89. 兵庫県立淡路景観園芸学校. 兵庫県.
- ・山口朋子・豊田正博 (2022) 特別養護老人ホームに入居するアルツハイマー型認知症の高齢者に対してオンラインにて行った園芸療法. 人間・

植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会講演・発表要旨集. 100-101. 兵庫県立淡路景観園芸学校. 兵庫県.

- ・横田優子・豊田正博 (2022) コロナ禍で施設訪問できない園芸療法士の指導に基づいて施設職員が行った療法的園芸. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会講演・発表要旨集. 104-105. 兵庫県立淡路景観園芸学校. 兵庫県.
- ・中本英里・豊田正博 (2022) 農作業等に従事する障害者の身体活動量確保の可能性. 日本職業リハビリテーション学会, 日本職業リハビリテーション学会第49回宮城大会発表要旨集. 48-49. Web開催.

2.3 査読

- ・日本園芸療法学会 1件.

3. その他の研究

- ・農林水産省 農林水産政策研究所 令和4年度連携研究スキームによる研究(委託研究課題)「農福連携効果の学際的かつ定量的研究」(研究分担者). 2022.5.13-2023.2.28.
- ・2022年度 科学研究費基盤研究(B)「農福連携の発展過程可視化と方向性解明に関する研究」(研究分担者).
- ・兵庫県令和4年度都市公園を活用した園芸療法ストレス軽減事業. (受託研究)
- ・豊田正博・剣持卓也. 都市地域における新たなニーズに対応した鉢物類効用調査. 全国鉢物類振興プロジェクト協議会. 2022.6.1-2023.2.28.

4. 学内委員会等活動

(淡路景観園芸学校)

- ・学生生活委員会委員長
- ・教務委員会
- ・生涯学習委員会

5. 学外委員会活動

(兵庫県立大学)

- ・学生生活支援部長
- ・淡路緑景観キャンパス保健センター長 (人間・植物関係学会/日本園芸療法学会)
- ・人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会大会長

6. 社会活動

(農林水産省関連)

- ・農林水産省令和4年度持続的生産

強化対策事業>次世代国産花き産業確立推進事業>全国鉢物類振興プロジェクト協議会 鉢物類効用検討委員会委員 (2022.6.1.～2023.3.31.)

- ・農林水産省農林水産研修所主催 農福連携技術支援者育成研修講師。「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」農林水産研修所つくば館水戸ほ場.水戸市.1回目2022.7.12,7.13.; 2回目9.13.,9.14.
- ・農林水産省農林水産政策研究所主催 シンポジウム「農福連携の広がり」と今後の可能性」.講演「農作業を行う知的障害者および精神障害者の具体的な健康改善効果」・パネリスト.2023.1.16. Web 開催.
- ・令和4年度農林水産省農山漁村振興交付金 農福連携対策普及啓発等推進事業.「農福連携支援者の集い～農福連携技術支援者と農福連携研究者のクロストーク～」パネリスト.淡路景観園芸学校.2023.3.7.

(兵庫県)

- ・兵庫県農福連携支援アドバイザー (2016.11.～現在)

(学術資料提供)

- ・(社福)兵庫県社会福祉事業団西播磨総合リハビリテーションセンター主催「園芸療法の紹介と園芸に関する自助具展」への園芸療法に関する資料提供(A1判 パネル6枚) 兵庫県社会福祉事業団西播磨総合リハビリテーションセンター.2022.10.3-10.31.
- ・阪神農林振興事務所ひょうご都市農業支援センター主催「農福連携」企画展へ農福連携に関する資料提供(A1判 パネル7枚).ひょうご都市農業支援センター.伊丹市.展示期間:2022.9.30.～10.12.

(国内講演・講師)

1) 兵庫県

- ・公益財団法人ひょうご農林機構主催 農業者向け農福連携研修会(一般コース)企画および講師.兵庫楽農生活センター.神戸市.2022.7.19.
- ・公益財団法人ひょうご農林機構主催 農業者向け農福連携研修会(実践コース)企画および講師.兵庫楽農生活センター.神戸市.2022.10.7.,10.21.,11.22.
- ・兵庫県立大学主催 自然・環境科学

研究所30周年シンポジウム パネリスト「心地よい緑の景観が人を癒す-3分間のネイチャーブレイク」神戸国際会館.2023.2.23.

2) 農福連携関連

- ・大隅半島ノウフクコンソーシアム主催 農福連携講演会「農福連携(障害者のための農作業分析)」淡路景観園芸学校.2022.4.19.
- ・千葉大学環境健康フィールド科学センター「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」千葉大学環境健康フィールド科学センター.柏市.(実践コース)「農作業分析と障害への支援」講義・演習.2022.6.4.(入門コース)「作業療法概論」講義・演習.2022.12.10.
- ・富山県農林水産部主催 農林水産省認定令和4年度農福連携技術支援者育成研修.「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」富山県立中央農業高校.富山市.2022.11.30.12.1.
- ・岡山県農林水産部主催 農林水産省認定農福連携技術支援者育成研修.「農作業における作業細分化・難易度評価・作業割当の技法」三徳園.岡山市.2022.12.12.12.13.
- ・鹿児島県農政部主催農福連携人材育成研修会「農業と福祉をつなぐ人材に期待されること」アートホテル鹿児島.鹿児島県.2023.1.18.
- ・香川県農政水産部主催農福連携研修会「農福連携における作業のとらえ方、支援のあり方講座」丸亀市綾歌総合文化会館アイレックス.香川県.2023.3.14.

3) 園芸療法関連

- ・新しい園芸を考える会主催 講演会「ウイズコロナ時代におけるバイオフィリアと屋内緑化のニューノーマル」淡路景観園芸学校.2022.6.15.
- ・日本認知症予防学会主催 認知症予防専門士米子研修会「園芸療法 癒しの理論と高齢者向けプログラム」2022.7.10.米子コンベンションセンター.鳥取県.
- ・(社福)兵庫県社会福祉事業団西播磨総合リハビリテーションセンター主催 地域生活支援を考えるセミナー「バイオフィリアと医療・福祉・地域で活かされる園芸の健康効果」兵庫県社会福祉事業団西播磨総合リハビリテーションセンター.2022.7.24.

- ・神戸市主催令和4年度北区民生委員児童委員協議会 地域福祉部会研修会「バイオフィリアと医療・福祉・地域で活かされる園芸の健康効果」淡路景観園芸学校.2022.7.25.
- ・NPO法人園芸療法研究会西日本およびNPO法人園芸療法と歩む会主催 HT studies.「園芸療法プログラムの科学的根拠」2022.8.7.Web講演.
- ・智頭農林高校主催講演会「バイオフィリアと植物・園芸の健康効果なぜ人は植物に癒されるのか?」淡路景観園芸学校.2022.8.31.
- ・一般財団法人フラワーズサイエティ主催 ブルーミング・フォーラム2023 園芸研究会合同セミナー「バイオフィリア 人は自然とのつながりを求める本能的欲求がある」花博記念ホール.大阪市.2023.1.14.
- ・ソーシャルガーデナーズチョコ主催講演会「花緑に癒される脳 植物との繋がりで健康になる方法」複合型交流施設ウイズ明石.2023.3.17.
- ・やない花のまちづくり振興財団主催 園芸療法の考え方を取り入れた市民花壇の活用についての講演会「市民花壇から広がる笑顔の輪」やまぐちフラワーランド.山口県.2023.3.21.
- ・全国鉢物プロジェクト協議会主催 新たな屋内緑化に関する特別講習会.「バイオフィリアとネイチャーブレイク」.エッサム神田ホール2号館.東京都.2023.3.27.

(その他)

- ・屋内緑化推進協議会主催屋内緑化コンクール2022 審査員.2022.7.26.

(新聞掲載)

- ・「障害特性考え支援 富山県農業版ジョブコーチ育成研修」日本農業新聞.2022.12.3.
- ・「多分野でニーズ高まる園芸療法」全国農業新聞.2022.12.9.
- ・「日常のストレス減らすには?誰もが持つバイオフィリアって?植物見つめるブレイクおすすめ」神戸新聞NEXT.2023.3.18.

7. 学会活動など

(所属学会)

- ・人間・植物関係学会(2003～)
- ・日本園芸療法学会(2008～)

- ・日本認知症予防学会（2013～）
（学会各種役職）
- ・日本園芸療法学会理事（2008～）
- ・日本認知症予防学会評議員（2019～）
- ・日本認知症予防学会エビデンス検討委員会委員（2021～2022）
- ・NPO法人園芸療法と歩む会 監事（2016.12.～）
- ・人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会大会長

◆ 劔持 卓也

景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 講師）

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・緑環境景観マネジメント企画演習Ⅱ（1年, 後期, 分担）
- ・活用デザイン実践演習（2年, 通年, 分担）

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・ガイダンス講義（前期, 分担）
- ・園芸療法のための医療・医学（通年, 主任）
- ・対象理解とみどりの活用（前期, 主任）
- ・園芸療法研究法（通年, 主任）
- ・ガーデニング（通年, 分担）
- ・園芸療法演習（通年, 分担）
- ・園芸療法実習Ⅰ全寮制（通年, 分担）
- ・園芸療法実習Ⅰ通学制（通年, 分担）
- ・園芸療法実習Ⅱ全寮制（通年, 分担）
- ・園芸療法実習Ⅱ通学制（通年, 分担）
- ・園芸療法実習Ⅲ全寮制（通年, 分担）
- ・園芸療法実習Ⅲ通学制（通年, 分担）
（園芸療法実習報告会）

- ・通学制園芸療法実習Ⅱ報告会 . 2022.6.12
- ・全寮制園芸療法実習Ⅱ報告会 . 2022.7.31
- ・通学制園芸療法実習Ⅱ報告会 . 2022.6.12
- ・全寮制/通学制園芸療法実習Ⅲ報告会 . 2023.1.15

1.3 その他の担当科目

- ・兵庫県立大学「緑景観マネジメント論」（分担）
- ・花と緑のまちづくりガーデナー本科コース「園芸療法入門」「園芸療法の福祉の活用演習」
- ・花と緑のまちづくりガーデナーマス

ターコース「園芸福祉を深める」

1.4 他学部大学出講

- ・名張市立看護専門学校非常勤講師
「生活環境（園芸療法）」
名張市 . 2022.11.1-11.2

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

- （原著論文）
- ・豊田正博・山本俊光・中本英里・劔持卓也. (2022) 農福連携で農作業を行う知的障害者および精神障害者の健康改善効果. 人間・植物関係学会誌 .22 (1) .1-12. [査読あり]（報告書）

- ・豊田正博・劔持卓也. 企業オフィス等における鉢物類効用調査 企業オフィス等で働く職員の机の上に置く植物による ストレス軽減効果や業務能率の検証 A 社 . 2023.3.

- ・豊田正博・劔持卓也. 企業オフィス等における鉢物類効用調査 企業オフィス等で働く職員の机の上に置く植物による ストレス軽減効果や業務能率の検証 B 社 . 2023.3.

（査読等）

- ・景観園芸研究（紀要）

2.2 学会発表

（口頭発表）

- ・劔持卓也・庄田香澄・菊池加津人・柳澤秀明. 地域共生社会実現に向けたセラピューティックガーデンの活用事例 - 医療福祉施設における試みの経過から -. 人間・植物関係学会, 日本園芸療法学会 2022年度合同大会 . 淡路市 .

3. その他の研究

（受託研究）

- ・豊田正博・劔持卓也. 企業オフィス等における鉢物類効用調査 . 全国鉢物類振興プロジェクト協議会 . 2022.6.1-2023.3.15.

4. 学内委員会などの活動

- ・ガーデンリニューアルプロジェクト
- ・入試委員会
- ・予算委員会
- ・研究倫理委員会
- ・図書委員会
- ・学校報・紀要編集委員会

5. 社会活動

5. 社会活動

（講演・講師）

- ・NPO法人たかつき主催 「いま一度、園芸療法を考える」NPO法人たかつき晴耕雨読舎 . 大阪府 . 2022.10.29.
- ・まちづくりスポット神戸主催 LABO 大学ゼミ「植物がもつ癒しの力～病院、高齢者施設、地域での実践事例から～」神戸 BRANCH. 神戸市 . 2022.12.25.
- ・大阪市建設局公園緑化部主催 大阪市グリーンコーディネーター育成研究会「心にやさしい緑づくり～地域に活かす園芸活動、園芸療法の効果～」長居公園 . 大阪府 . 2023.1.11.
- ・兵庫県こころのケアセンター主催 令和4年度ヒューマンケアカレッジアートとこころのケア講座 「花とみどりでこころを癒す園芸療法～予防的利用から地域での活用まで～」兵庫県こころのケアセンター . 神戸市 . 2022.2.18.
- ・公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター 令和4年度園芸教室 花と緑で健康づくり～園芸療法の理論と体験～ 明石公園 . 明石市 . 2023.3.17.（委員会等）
- ・人間・植物関係学会、日本園芸療法学会 2022年合同大会実行委員

6. 学会活動など

（所属学会）

- ・人間・植物関係学会（2005～）
- ・日本園芸療法学会（2008～）
- ・日本芸術療法学会（2014～）
- ・日本認知症予防学会（2022～）

（所属団体）

- ・NPO法人園芸療法と歩む会
- ・NPO法人日本園芸療法研修会（学会各種役職）
- ・日本園芸療法学会幹事（2022～）
- ・NPO法人園芸療法と歩む会監事（2022～）

◆ 上地 あさひ

景観園芸専門員

1. 教育活動

1.1 園芸療法課程担当科目

- ・ガイダンス（前期・分担）
- ・ガーデニング（通年・分担）

- ・対象理解とみどりの活用（前期・分担）
 - ・園芸療法演習（通年・分担）
 - ・園芸療法実習Ⅰ（通年・分担）
 - ・園芸療法実習Ⅱ（通年・分担）
 - ・園芸療法実習Ⅲ（通年・分担）
- 1.2 その他の担当科目
- ・生涯学習課程
本科コース「園芸福祉に使える材料集めと小物づくり」
テーマコース「園芸療法基礎講座 緑を用いたストレス・ケア入門」

2. 学内委員会等活動

- ・広報委員会

3. 社会活動

（講演などその他）

- ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科
「フィールドスタジオ演習1／2」
講義（大阪府大東市）
- ・公立八鹿看護専門学校「精神看護学」
講義（養父市）
- ・兵庫県立淡路高校 花と緑と海のめぐみ系列「草花」講義（淡路市）
- ・社会福祉法人円勝会 身体障害者支援施設 西はりまリハビリテーションセンター非常勤講師

4. 学会活動

- ・日本園芸療法学会（2016年～）
- ・NPO法人 園芸療法と歩む会 副理事長

◆藤原 道郎

主任景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授）

1. 教育活動

1.1 研究科科目

- ・植生景観構造論（前期、主任）
- ・保全管理基礎演習（前期、分担）
- ・樹木植栽管理演習（通年、分担）
- ・里地里山の保全管理演習（通年、分担）
- ・緑環境景観マネジメント企画演習Ⅰ、Ⅱ（分担）
- ・反復型インターンシップ（通年、分担）
- ・保全管理実践演習（通年、分担）

1.2 学部科目

- ・ひょうご地域概論（前期：分担）
 - ・地域課題フィールドワークⅡ（後期、淡路地区主担）
- 1.3 その他の担当
- ・生涯学習花と緑のまちづくりガーデナー・本科コース講師「日本の植生と地域性」2020.10.8
 - ・生涯学習花と緑のまちづくりガーデナー・マスターコース講師2020.11.12-13
- 1.4 その他の学生指導・学内行事指導等

（学内委員会活動）

- ・運営会議委員
- ・教務委員長
- ・生涯学習委員会委員
- ・入学試験制度委員会委員
- ・受託研究審査会審査員
- ・FD委員会委員

一主な業績一

2. 論文・著書

- ・Kobayashi, K., Ohashi, M., Fujihara, M., Kitayama, K. & Onoda, Y. (2022.6) Rhizomes play significant roles in biomass accumulation, production and carbon turnover in a stand of the tall bamboo *Phyllostachys edulis*. *Journal Of Forest Research*.
- ・大江 万梨, 山本 聡, 藤原 道郎, 大藪 崇司 (20230331) 公園での緑地空間評価におけるフォトモニタージュ手法を用いたVRでの空間認識特性. *ランドスケープ研究* 86: 449-454.

3. 口頭発表・ポスター発表

- ・藤原道郎 (20220922) イノシシのタケノコ摂食の有無によるモウソウチク林の新稈数の違い. *ELR2022* つくば. 講演要旨 p244, P-e-698
- ・立田彩葉・藤原道郎 (20220922) 淡路島におけるチドリ類をフラッグシップとした保全ネットワークの構築と実践. *ELR2022* つくば
- ・吉武佳穂・藤原道郎 (20220922) 茅葺き民家を構成する植物素材の分布と土地利用の変遷—山と近い八重地集落の暮らしに着目して—. *ELR2022* つくば
- ・藤原道郎・立田彩葉・趙星一 (20221022) 絶滅危惧種および特定外来生物の管理を含めた海岸クロマ

- ツ林保全. 日本海岸林学会（東京）
- ・趙星一・藤原道郎 (20221022) 海岸クロマツ林内ギャップにおけるクロマツ植栽木の生育状況と環境要因. 日本海岸林学会（東京）
- ・藤原道郎 (20230314) イノシシ生息域における竹林の竹稈数. 日本生態学会 第70回 仙台大会(オンライン).
- ・趙星一・藤原道郎 (20230327) 海岸クロマツ林内ギャップにおける海浜植物の分布と植栽・天然更新木の生育. 日本森林学会(鳥取オンライン)

4. その他の研究

（科研）

- ・モウソウチクの異なる成長段階への攪乱による外来種防除に関する景観生態学的研究（兵庫県立大学：代表）
- ・棚田地帯での圃場整備に際して実施可能な畦畔草原保全手法の開発および標準化（兵庫県立大学：分担）

（受託研究）

- ・令和4年度慶野松原植生管理計画策定事業（2021.9～2022.3）, 南あわじ市
- ・令和4年度慶野松原林床保全管理事業（2021.9～2022.3）, 南あわじ市

5. 社会活動

- ・南あわじ市慶野松原植生管理計画策定事業および地域NPOに対する森林調査指導
- ・南あわじ市慶野松原林床植生適正化事業実施
- ・淡路島ちどり隊 保護柵・保護エリア設置および指導.

（委員会）

- ・兵庫県野生生物等専門委員会（植物群落）委員（兵庫県）
- ・環境立島淡路島島民会議推進部会長（兵庫県淡路県民局）
- ・環境立島淡路島島民会議副会長（兵庫県淡路県民局）
- ・淡路地域ビジョン委員会 専門委員, 兵庫県（兵庫県淡路県民局）
- ・洲本川水系河川整備計画懇談会委員（兵庫県淡路県民局）
- ・淡路島生物多様性協議会委員（兵庫県淡路県民局）
- ・県立淡路島公園管理運営協議会委員（兵庫県淡路県民局）
- ・公園等の管理運営にかかる評価・検証委員会推進協議会委員（公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会）

- ・県立舞子公園管理運営推進協議会会長（公益財団法人 兵庫県園芸・公園協会）
 - ・県立コウノトリの郷公園運営懇話会委員（県立コウノトリの郷公園）
 - ・慶野松原保存管理計画策定委員会委員（南あわじ市）
 - ・淡路市環境審議会会長（淡路市）
 - ・淡路市再生可能エネルギー導入促進検討事業委員（淡路市）
 - ・令和4年度環境省植生図の更新に向けた検討会（令和3年度環境に配慮した再生可能エネルギー導入検討に向けた植生調査植生図精度管理委託業務）委員（アジア航測株式会社）（県立大学全学委員会）
 - ・全学教育推進会議委員
 - ・県立大学地域創生人材育成プログラム（RREP）運営委員（県立大学）
 - ・県立大学地域創生人材育成プログラム（RREP）実務者会議委員（県立大学）
 - （研究科委員会活動）
 - ・教務委員長
 - ・教育システム自己点検委員会委員
 - ・FD委員会委員
 - （学外教育活動）
 - ・洲本市域学連携ポスター展示「洲本市における地域実践活動」20190223（洲本文化体育館）（講演・シンポジウム）
 - ・淡路市環境審議会講演「淡路市の鳥であるチドリ類（特にシロチドリ）の現状と保全」2022.10.06（淡路市）
 - ・南あわじ青少年交流センター「AWAJI 未来探検隊 一里山と竹編ー」20220917
 - ・淡路市竹林フォーラム「淡路島内竹林の現状・課題 ー資源化への可能性ー」20230330
- ## 6. 学会活動等
- （学会役員等）
- ・日本景観生態学会 副会長
 - ・日本海岸林学会 副会長
 - ・日本植生学会編集委員
 - ・Landscape and Ecological Engineering 編集委員
 - ・HIKOBIA 編集委員
- （学術論文査読）
- ・Landscape and Ecological Engineering 誌査読
 - ・景観生態学誌査読
 - ・農村計画学会誌査読

- ・植生学会誌査読
- ・景観園芸研究査

◆大藪 崇司

主任景観園芸専門員

（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授）

1 教育科目

1.1 研究科科目

- ・樹木植栽管理論（前期，主担）
- ・樹木植栽管理演習（通年，主担）
- ・保全管理基礎演習（前期，分担）
- ・反復型インターンシップ（通年，分担）
- ・緑環境景観マネジメント企画演習（後期，分担）
- ・造園施工演習（通年，主担）
- ・保全管理実践演習（通年，分担）
- ・緑環境景観論（前期，分担）（専門職大学院認証評価）
- ・環境・造園系専門職大学院認証評価受審担当

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・園芸療法特論（前期，分担）

1.3 その他の担当科目

- ・まちづくりガーデナー・本科コース「樹木の剪定管理」(2023.2)
- ・まちづくりガーデナー・マスターコース「里山林の保全と管理」(2022.9, 2022.11)

1.4 その他の担当教育科目

（研究教育指導）

- ・造園技能士3級7名指導（2022.6-2022.8）
- ・上原俊樹 インターンシップ指導（関西造園土木, Green Hospital Project）
- ・洲上楓 実践演習指導 大阪梅田ツインタワーズ・サウス開設1年目の緑化施設利用と認知に関する研究

1.5 他大学での教育活動

- ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「緑化施工演習」18名（2022.4-2023.1）

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

（論文等）

- ・大江万梨, 山本聡, 藤原道郎, 大藪崇司（202303）公園での緑地空間評価におけるフォトモンタージュ手法を用いたVRでの空間認識特性. ラ

ンドスケープ研究 86 : 449-454.

- ・大藪 崇司, 荒井 正英, 前田 泰芳（202208）食品残渣由来リサイクル堆肥の水稲栽培への施用に関する研究, 日本緑化工学会誌, 48（1）:95-98（報告書）

- ・大藪崇司（2023.3）IT技術を用いた花と緑のまちづくり活性化可能性に関する調査報告 2, 50pp.

- ・大藪崇司（2023.1）2022年度日本万国博覧会記念公園万博の森づくり共同研究報告書 万博記念公園自然文化園「きのこ」分野の調査, 63-79.
- ・大藪崇司, 他（2023.3）京都市保存樹調査報告書, 京都樹木医会, 26pp.

3. その他の研究

（受託・寄付を受けた研究）

- ・IT技術を用いた花と緑のまちづくり活性化可能性に関する調査2（2022.7～2023.3）, 兵庫県園芸・公園協会, 638千円
- ・研究寄付金, 五洋建設株式会社, 500千円
- ・研究寄付金, 阪神園芸株式会社, 396千円
- ・万博記念公園自然文化園における生物多様性に配慮した森づくり（2022.5～2023.3）大阪公立大学, 368千円

4. 委員会等活動

（研究科）

- 認証評価対応
- 教育システム自己点検委員
- 産学連携推進委員（全学）
- 自己評価委員会作業部会委員（全学）

（園芸学校）

- 毒物劇物管理担当
- 情報システム委員会
- 予算委員会委員

5. 社会活動

（委員会）

- ・県民まちなみ緑化事業検討委員会委員（（公財）兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター）（2007.4～）
- ・花と緑の専門家,（公財）兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター（2012.4～）
- ・加西市史跡整備検討委員会, 加西市（2017.7～）

- ・大阪府公園指定管理者評価委員会副委員長, 大阪府 (2018.4 ~ 2023.4)
 - ・兵庫県まちづくり審議会花緑検討小委員会委員, 兵庫県 (2019.3 ~)
 - ・大阪府万博公園専門家共同研究会委員, 大阪府 (2019.4 ~)
 - ・大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会 緑整備部会 (2022.4 ~)
- (講演・シンポジウム・アドバイザー)
- ・京都市梅小路公園グリーンフェア 春の自然観察会 講師 (2022.5) 100人
 - ・京都市梅小路公園グリーンフェア 春の自然観察会 講師 (2022.10) 100人
 - ・明石市剪定講習会 (2021.1) 40人

6. 学会活動等

(所属学会)

- 日本緑化工学会 (1998.3 ~)
- 日本造園学会 (1998.10 ~)
- 環境情報科学学会 (1999.4 ~)

(各種役職)

- ・京都樹木医会理事 (2010.9 ~)
- ・日本緑化工学会理事 (2013.9 ~ 2018.8)
- ・日本造園学会 JABEE 委員会幹事 (2013.9 ~)
- ・日本緑化工学会 総務部会 (2018.9 ~)

(査読等)

- ・日本緑化工学会誌査読2件

◆ 栢田 行央

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 緑環境景観専門員)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・樹木植栽管理演習 (1年、通年、分担)
- ・造園施工演習 (1年、通年、分担)
- ・里地里山の保全管理演習 (1年、通年、分担)
- ・植物管理技術演習 (1年、通年、分担)
- ・生活空間デザイン演習 (1年、前期、分担)
- ・ガーデンデザイン演習 (1年、通年、分担)
- ・緑環境景観機能評価演習 (2年、前期、分担)

1.2 その他の担当

- ・まちづくりガーデナー本科コース (分担)
- ・まちづくりガーデナーテーマコース (分担)

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・SDGs推進チーム活動支援

2. 学内委員会等活動

(園芸学校)

- ・新展開推進会議
- ・フィールド会議

◆ 山本 聡

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・保全管理基礎演習 (1年、前期、分担)
- ・緑環境景観マネジメント概論 (1年、前期、分担)
- ・緑環境景観機能評価とSDGs (1年、後期、主任)
- ・反復型インターンシップ (1年、通年、分担)
- ・ガーデンデザイン演習 (1年、通年、分担)
- ・緑環境景観機能評価演習 (2年、前期、主任)
- ・保全管理実践演習 (2年、通年、主任)

1.2 その他の担当科目

- ・兵庫県立大学全学共通教育科目「緑環境景観マネジメント論」(分担)
- ・生涯学習コース, 花と緑のまちづくりガーデナー・本科コース「景観デザインと植物の活かし方」
- ・生涯学習コース, 花と緑のまちづくりガーデナー・マスターコース「緑地の環境保全とSDGs」, 「里山の保全と管理」

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

(研究指導、進路指導)

- ・研究科学生指導4名の学生を共同で指導
- ・研究生1名を受け入れ (出展指導)
- ・ひょうごまちなみガーデンショー in 明石出展指導 (2022.9.18 ~ 25)
- ・淡路花祭り2022 高校生花とみどりのガーデン出展指導, (2022.9.17 ~ 11.6)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(原著)

- ・大江万梨・山本聡・藤原道郎・大藪

崇司 (2023) 公園での緑地空間評価におけるフォトモンタージュ手法を用いたVRでの空間認識特性. ランドスケープ研究 86, 449-454

(口頭発表・ポスター発表)

- ・山本聡・薬師寺恒治・嶽山洋志 (2022) 都市公園内芝生地のコロナ禍以降の利用状況. 日本造園学会2022年度全国大会ポスターセッション (2022.6.19) 札幌市

- ・柳本有美・山本聡 (2022) 滝の音と映像が人間の心理や生理に与える影響 - 病院屋内で自然を感じる為に - . 人間・植物関係学会雑誌 22 (別冊): 58-59.

- ・王 羽・田淵美也子・山本 聡・札幌高志 (2022) 屋内空間における人工観葉植物の利用と利用者の意識. 人間・植物関係学会雑誌 22 (別冊): 76-77.

- ・兵庫県立大学全学教育研究会集会ポスター発表 (9月7日) 姫路市 (査読等)

- ・日本造園学会研究発表論文集校閲委員 (2022.10 ~ 2022.12)

- ・景観園芸研究査読者 (2022.4 ~ 6)

3. 学内委員会等活動

(景観園芸学校)

- ・運営会議委員
- ・教育研究部長
- ・入試委員会委員
- ・情報システム部会委員
- ・新展開推進会議委員
- ・淡路景観園芸学校フィールド会議委員
- ・ランドスケープの新潮流セミナー事務局

(研究科)

- ・自己評価委員会委員
- ・FD委員会委員
- ・入学試験委員会委員
- ・情報システム部会委員
- ・研究倫理委員会委員
- ・教育システム自己点検委員会委員
- ・研究科長補佐 (兵庫県立大学全学委員会)
- ・学術総合情報センター運営委員会委員
- ・DX推進委員会
- ・SDGs推進検討委員会委員
- ・自己評価委員会評価作業部会委員

4. 社会活動

(委員会)

- ・兵庫県景観審議会委員 (2017.10 ~)

- 兵庫県
- ・高砂みなとまちづくり構想推進協議会委員 (2019.4.12～) 高砂市
- ・SEEGES (社会・環境貢献緑地審査システム) 審査員 (2019.4～) 都市緑化機構
- ・草津市立水生植物公園みずの森 (公園緑地課) 技術顧問 (2019.5.1～) 草津市
- ・大阪府立花の文化園指定管理者選定委員会委員 (2022.7～2023.3) 大阪府
- ・「2022 ガーデンコンペひょうご」写真部門審査委員長 (2022.9.2) (公財) 兵庫県園芸・公園協会
- ・須磨一ノ谷プラザにぎわい拠点施設設置・運営事業者選定委員会委員長 (2022.12～2023.3) 神戸市
- ・「先駆的な緑化関連技術開発のための実証調査」アドバイザー (2022.8～2023.3) 都市緑化機構

(講演等その他)

- ・智頭農林高校研修対応 (講師) (2022年8月31日) 淡路市
- ・丹波の森協会研修会講師 (2022年11月19日) 淡路市
- ・淡路景観園芸学校新潮流セミナー 総合司会 (2022年11月、12月、2023年3月) オンライン
- ・日本緑化工学会共同企画セミナー パネラー (2023年1月11日) オンライン
- ・令和4年度淡路くにうみ夢フォーラムパネルディスカッションコーディネーター (2023年3月8日) 南あわじ市
- ・客員研究員の受入れ「アフターコロナを展望したランドスケープと地域経営について (林まゆみ)」 (2022.4～2023.3)

5. 学会活動等

(所属学会)

- ・日本造園学会 (1990.2～)
- ・日本都市計画学会 (1990.9～)
- ・農村計画学会 (1990.12～)
- ・日本緑化工学会 (2001.3～)
- ・環境情報科学センター (2003.2～)
- ・人間・植物関係学会 (2003.4～)

(学会各種役職)

- ・日本造園学会関西支部運営委員 (2018.5～)
- ・日本造園学会企画委員会委員 (2019.11～)

- ・日本緑化工学会評議員 (2019.10～)
- ・日本緑化工学会編集委員会副委員長 (2021.9～)
- ・日本緑化工学会緑・健康研究部会委員 (2007.9～)
- ・人間・植物関係学会・園芸療法学会合同大会実行委員会委員 (2021.1～2022.11)
- ・日本造園学会関西支部大会実行委員会委員長 (2022.3～10.23)
- ・日本景観生態学会 2023年度淡路大会実行委員会委員 (2023.3～)

◆澤田 佳宏

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・保全管理基礎演習 (1年前期, 分担)
- ・里地里山の保全管理論 (1年前期)
- ・里地里山の保全管理演習 (1年前期・後期, 分担)
- ・反復型インターンシップ (1年前期・後期, 分担)
- ・緑環境景観マネジメント企画演習 (1年後期, 分担)
- ・保全管理実践演習 (2年前期・後期, 分担)

1.2 その他の担当科目

- ・まちづくりガーデナー本科コース「里地の草原再生と観察会」24期30名 (2022/6/1)
- ・まちづくりガーデナーマスターコース「里山林の現状と管理方法～モニタリングと年輪の観察～」6期14名 (2022/9/28-29)
- ・まちづくりガーデナーマスターコース「里山林の現状と管理方法～事前調査から管理計画まで～」7期16名 (2022/9/14-16)
- ・まちづくりガーデナーマスターコース「里山林の現状と管理方法～間伐と年輪調査～」7期16名 (2022/11/17-18)
- ・まちづくりガーデナーテーマコース「淡路島の里の植物相調査」11名 (2022/5/31, 9/27, 11/14, 淡路市入野)
- ・兵庫県立大学東地区キャンパス: 緑景観マネジメント論 (学部1～4年18名・前期・分担)

2022/5/25, 6/4, 6/8)

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等 (保全管理実践演習研究指導1名)

- ・あわじ石の寝屋緑地に眠る里山資源の記録と活用の試行-自然と人との関わりをたどれる公園をめざして-(粟井久仁子)
- (リカレント指導1名)
- ・淡路島における湿地での稲作に関する聞き書きと湿地での稲作実践 (武部絵里香・2022/4/1～2023/2/24) (課外活動指導)

- ・SDGs推進チーム (薪づくり、ニホンミツバチ養蜂、生ごみ堆肥づくり、外来種ナガエツルノゲイトウ駆除、野焼き等の地域活動協力)

1.4 他大学での教育活動

- ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「植生管理とビオトープ」(分担6回) 2-4年生76名 (2022/4/15-7/29)
- ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「生態系評価とビオトープ施工論」(分担6回) 3-4年生60名 (2022/4/15-7/29)
- ・大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科「キャリアデザイン1」2年生68名 (分担1回, 2022/7/8)
- ・神戸学院大学 (有瀬キャンパス) 共通教育科目「地域学入門B・兵庫の自然地理」1年生23名・前期分担5回 (2022/4/12-5/17)

2. 主な業績

2.1 論文等

(著書)

- ・服部 保, 南山典子, 栃本大介, 上田萌子, 浅見佳世, 澤田佳宏, 山瀬敬太郎, 藤木大介, 田村和也, 矢倉資喜, 藤井慎浩, 武田義明 (2022/5/31) 多様性植生調査法第2版. 公益財団法人ひょうご環境創造協会
- ・松村俊和・澤田佳宏 (2023/3/30) 棚田の畦畔を彩る植物. 「愛しの生態系」160-165. 文一総合出版
- ・澤田佳宏 (2023/3/30) ため池の淡路島 文化的景観と生態系を残したい. 植生学会編「愛しの生態系」166-171. 文一総合出版
- ・植生学会 (書籍編集プロジェクト) 尾均, 澤田佳宏, 前迫ゆり) 編 前迫ゆり責任編集 (2023/3/30) 愛しの生態系. 文一総合出版

2.2 学会発表

(ポスター発表)

- ・澤田佳宏・松村俊和・藤原道郎
(2023/3/17) 圃場整備時に表土移植をおこなった棚田畦畔の5年目の植生. 日本生態学会第70回全国大会(仙台, オンライン)
- ・橋本佳延・澤田佳宏・松村俊和
(2023/3/17) 西日本のイネ科草本の優占する草原を主たる生育環境とする草原生植物リスト(試案) 日本生態学会第70回全国大会(仙台, オンライン)

3. その他の研究

(助成を受けた研究)

- ・棚田地帯での圃場整備に際して実施可能な畦畔草原保全手法の開発および標準化(研究代表者)(2019/4~2024/3) 科研費基盤研究(C)

4. 学内委員会等活動

(景観園芸学校・研究科)

- ・新展開推進会議
- ・入試委員会(入試運営)部会長
- ・(入試広報)
- ・環境保全委員会
- ・紀要・学校報委員会
- ・学生生活委員会
- ・図書委員会

(県立大学全学)

- ・環境保全委員会

5. 社会活動

(委員会)

- ・令和4年度淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理運営協議会委員, 同環境保全部会部会長. (公財)兵庫県園芸・公園協会淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理事務所(2022/4/1-2023/3/31)
- ・公共事業等審査会委員, 兵庫県県土整備部技術企画課(2022/4/1-2024/3/31)
- ・令和4年度 尼崎の森中央緑地 緑化技術検討会委員, 兵庫県阪神南県民センター 尼崎港管理事務所 尼崎21世紀プロジェクト推進室(2022/4-2023/3)
- ・赤穂海浜公園管理運営協議会委員, 兵庫県西播磨県民局光都土木事務所港湾課(2020/3/13-)
- ・ため池の保全等に関する推進方針フォローアップ検討会委員, 兵庫県農林水産部農地整備課(2022/8-)

- ・高砂市環境審議会委員, 高砂市生活環境部環境経済室環境政策課(2022/8/1-2024/7/31)
- ・六甲山ビジターセンター環境学習運営委員会委員, 兵庫県神戸県民センター県民交流室県民・産業振興課(2022/4-)
- ・あわじ環境未来島構想モデル事業審査会委員, 兵庫県淡路県民局交流渦潮室交流渦潮課(2022/6-)
- ・加古川流域懇談会委員, 国土交通省近畿地方整備局河川部河川計画課(2021/3/9-2024/2/28)
- ・県立都市公園のあり方検討会赤穂海浜公園部会, 兵庫県県土整備部まちづくり局公園緑地課(2022/11-)
- ・赤穂海浜公園リノベーション実施計画検討に係る建設コンサルタント選定委員会, 兵庫県西播磨県民局光都土木事務所港湾課(2022/12-2023/3)

(アドバイザー・その他)

- ・生物多様性アドバイザー, 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課(2013/9-)
- ・明石市教育委員会スーパーバイザー, 明石市教育委員会あかし教育研修センター(2022/4/1-2023/3/31)(講演・セミナー)
- ・ホテル講習会「ホテルと田んぼと絶滅危惧種」主催: パソナ農援隊, 対象: パソナ社員とその家族約20名.(2022/6/17. 陽燦燦と周辺の田んぼ・ため池, 淡路市野島常盤)
- ・姫路市立生涯学習大学校 植物・植生と文化コース2年「河川、池沼、湿地の植生と文化」(2022/7/27)「海岸の植生と文化」(8/10)「二次草原(ススキ草原、シバ草原、ネザサ草原)と文化」(8/24)約60名(姫路市立生涯学習大学校, 姫路)
- ・令和4年度兵庫県立大学生涯学習公開講座「淡路の海岸と人々の暮らし」対象: 大人約30名, 主催: 兵庫県立大学生涯学習交流センター.(2022/9/11 淡路景観園芸学校・伊弉諾神宮・吹上浜)
- ・いなみ野学園大学講座共通科目1年次「兵庫県の植生の特色」129名.(2022/10/24)(兵庫県いなみの学園, 公財兵庫県生きがい創造協会, 加古川)
- ・かみかつ萱葺き学校ミニ講座「畦畔の植物の観察」対象: 徳島県

上勝町八重地集落住民約10名(2022/10/29, 徳島県上勝町)

- ・ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ 生態系サービスの視点からみたランドスケープ「淡路島の里の生物多様性と生態系サービス」主催: 兵庫県立淡路景観園芸学校, 対象: 一般82名(2022/12/21 オンライン)
- ・ランドスケープの新潮流セミナー 地域経営とランドスケープ 農業景観と地域観光II「棚田の生物多様性と現状」主催: 兵庫県立淡路景観園芸学校, 対象: 一般79名(2023/3/11 オンライン)
- ・淡路市立東浦図書館「南光文庫」公開記念イベント「平田雅路氏 x 澤田佳宏氏トークショー」「はじめての植物標本づくり」主催: 淡路市立東浦図書館, 対象: 一般約40名(2023/3/25 淡路市立東浦図書館)

(幼保小中高大連携)

- ・兵庫県立洲本高校探求型クラス, 夏休み臨海実習「成ヶ島フィールドワーク(塩湿地の植生)」対象: 1年生総合探求類型77期生徒24名, 教員2名(庄田比呂先生ほか). 補助: 上原俊樹・石佳(2022/8/25 洲本市由良成ヶ島)
- ・兵庫県立農業高校, 景観園芸学校見学案内(草原再生実験区およびエコ池での保全活動). 対象: 造園科生徒約40名(2022/6/20)
- ・淡路市立学習小学校, 環境体験学習「校庭の樹木・葉っぱさがし, どんぐりのあかちゃん, やまももの実」対象: 小学3年生38名. 講師: 澤田佳宏 補助: 武部絵里香・吉武佳穂・石佳 担任: 稲室教諭・今村教諭(2022/6/28 学習小学校校内, 淡路)
- ・淡路市立浦小学校, 環境体験学習「浦川のいきもの」対象: 小学校3年生37人. 講師: 澤田佳宏 補助: 武部絵里香・瀨上楓・堺野菜穂子. 担任: 大内教諭・オク教諭(2022/7/7. 浦小学校・浦川, 淡路)
- ・神戸大学付属小学校 単元学習「海の豊かさ」対象: 小学校4年生65名.(2022/10/26 南あわじ市吹上浜, 2023/2/15 オンライン, 3/6 神戸大学付属小学校)
- ・淡路市立学習小学校, 環境体験学習

「シイの実を食べる」対象：小学校3年生38名。講師：澤田佳宏 補助：武部絵里香・洲上楓・堺野菜穂子、担任：稲室教諭・今村教諭（2022/11/7 学習小学校と周辺の里山、淡路）

・淡路市立浦小学校、環境体験学習「すなはまの植物、コウボウムギの筆でお習字」対象：小学校3年生37人。講師：澤田佳宏 補助：武部絵里香・吉武佳穂・栗井久仁子。担任：大内教諭（2022/11/25、浦小学校・久留麻海岸、淡路）

・淡路市立学習小学校、環境体験学習「ため池の鳥」対象：小学校3年生38名。講師：澤田佳宏・藤原道郎・栢田行央・古田智彦・里地里山の保全管理演習履修者 担任：稲室教諭・今村教諭（2023/1/12 学習小学校と周辺のため池、淡路）

・淡路市立浦小学校、環境体験学習「冬のいきもの」対象：小学校3年生37人。講師：澤田佳宏 補助：谷口みなみ、担任：大内教諭（2022/1/18 浦小学校校の周辺の里山、淡路）

(地域活動等への参加)

・洲本市本田池のナガエツルノゲイトウ駆除に学生とともに参加（2022/11/3、主催：淡路米山ため池保全ネットワーク）

・淡路市小田太田地区の墓地畦畔の植生管理（野焼き）に学生とともに参加

・淡路市黒谷地区におけるモニタリングサイト1000 里地植物調査に学生とともに参加

・あわじ石の寝屋緑地いきものたんば調査に学生とともに参加

6. 学会活動等

(所属学会・研究会等)

- ・日本生態学会 (1995-)
- ・植生学会 (1996-)
- ・漂着物学会 (2006-)
- ・日本緑化工学会 (2006-)
- ・草原再生ネットワーク (2009-)
- ・希少生物懇話会 (2013-)
- ・兵庫植物同好会 (2016-)

(各種役職)

- ・植生学会運営委員 (2020/4-)
- ・植生学会編集委員会主事 (2020/4-)

◆古田 智彦

景観園芸専門員
兼緑環境景観専門員

1. 教育活動

1.1 研究科課程科目

- ・ガイダンス講義（1年、前期、分担）
- ・フィールド植物観察演習Ⅰ（1年、前期、分担）
- ・フィールド植物観察演習Ⅱ（1年、後期、分担）
- ・植物管理技術演習（1年、通年、分担）
- ・里地里山の保全管理演習（1年、通年、分担）
- ・樹木植栽管理演習（1年、通年、分担）
- ・造園施工演習（1年、通年、分担）
- ・ガーデンデザイン演習（1年、通年、分担）

1.2 園芸療法課程科目

- ・ガイダンス講義（全寮制20期生・通学制11期生、前期、分担）
- ・ガーデニング（全寮制20期生・通学制11期生、通年、主任）

1.3 その他の担当

- ・まちづくりガーデナー本科コース（分担）
- ・まちづくりガーデナーマスターコース（分担）

1.4 その他の学生指導・学内行事指導等

- ・まちなみガーデンショー出展指導
- ・ペレニアルガーデン活動支援

2. その他の研究

3. 社会活動

(学内委員会)

- ・学生生活支援委員会
- ・図書委員会
- ・紀要・学校報編集委員会
- ・教務委員会

◆美濃 伸之

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・緑環境景観マネジメント概論（修士1年、前期）
- ・緑環境評価論（修士1年、前期）
- ・緑環境評価演習（修士1年、前期）
- ・緑環境景観マネジメント企画演習 施策マネジメント基礎演習（修士1年、後期）
- ・反復型インターンシップ（修士1年、通年）
- ・施策マネジメント実践演習（修士2年）

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・公園ユニバーサルデザイン

1.3 その他の担当科目

- ・共通教育
- ・緑景観マネジメント論（学部1年東地区・分担およびとりまとめ）
- ・花と緑のまちづくり本科コース（バリアフリー）
- ・花と緑のまちづくりマスターコース（バリアフリーおよびPC情報収集）
- ・景観園芸専門講座・都市公園マネジメント（事務局とりまとめ、公園バリアフリー講義、久宝寺緑地現地見学）

1.4 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・大学院入試出題および採点
- ・大学院入試面接官、
- ・ウェブオープンキャンパス研究科説明担当
- ・学生面談（第1回・第2回）
- ・インターンシップ担当1名

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等（論文）

- ・美濃伸之・嶽山洋志（2022）公園緑地に携わる実務者を対象としてユニバーサルデザイン教育を実施する場合の留意点 ランドスケープ研究 85（5）445-450.

(依頼原稿)

- ・美濃伸之（2023）ユニバーサルデザインの歴史的経緯と公園緑地 公園緑地（印刷中）.

(著書)

(総説)

(報告書)

(査読等)

都市計画査読

ランドスケープ研究査読

淡路景観園芸学校紀要査読

(他学部大学出講)

- ・神戸大学農学部（学部3年 後期）
- ・千葉大学園芸学部（学部3年 集中）
- ・国土交通省 国土交通大学校公園緑化研修講師（各省庁、都道府県職員公園緑地実務者対象）

(展覧会)

・

(コンペ等審査委員)

・

(その他)

- ・美濃伸之（2022）連載 森と健康

みどりのリレー 第3回 魅力の発見こそが 森林技術

- ・美濃伸之 (2022) 書評この一冊 ボディサイレント 病いと障害の人類学 福祉のまちづくり研究
- ・新聞取材 神戸新聞こそあど 「みんな一緒に」優しい遊具

3. その他の研究

(科研費)

- ・基盤研究C 公園緑地を媒介とした要支援者の減災のための情報共有とそれを促す防災プログラム (2020～2024 研究代表者)

(受託を受けた研究)

・

(国際交流)

・

(海外調査)

・

(発表会・シンポジウム)

- ・美濃伸之 (2022) 障がい当事者によるバリアフリー情報の収集実態と公園ウェブ情報との関係性 日本造園学会関西支部ポスター発表
- ・美濃伸之 (2022) 公園緑地バリアフリー情報の現状と今後のあり方 日本福祉のまちづくり学会全国大会
- ・美濃伸之 (2023) 広域移動バリアフリー調査結果報告(兵庫県) 土木学会関西支部広域バリアフリー研究会

4. 学内委員会等活動

(研究科)

- ・入学試験協議会
- ・学術情報センター運営委員会
- ・自己評価委員会
- ・研究倫理委員会
- ・環境保全委員会

(園芸学校)

- ・運営会議
- ・管理部長
- ・管理部 (規定担当)
- ・入試委員会
- ・情報システム委員会

5. 社会活動

(委員会)

- ・兵庫県豊かなふるさとづくり推進委員会委員 (兵庫県農政環境部)
- ・芦屋市環境審議会委員 (芦屋市)
- ・社会課題対応型都市公園機能向上促進

進事業にかかる有識者会議委員 (国土交通省)

- ・長岡公園の再整備を考える有識者懇談会委員 ((株)村田製作所・長岡京市)
- ・久宝寺緑地における「社会課題対応型都市公園機能向上促進事業」に係るワークショップ有識者委員 (大阪府庁)
- ・国営明石海峡公園におけるユニバーサルデザイン化に関する有識者ヒアリング(国土交通省近畿地方整備局) (講演等その他)
- ・美濃伸之 (2023) 公園におけるユニバーサルデザイン 環境省自然環境局自然環境整備課主催ユニバーサルデザイン研修 (23.02.02:オンライン)

6. 学会活動等

(所属学会)

- ・日本写真測量学会
- ・日本造園学会
- ・農村計画学会
- ・日本福祉のまちづくり学会
- ・CSIS (環境情報科学センター)
- ・日本都市計画学会 (学会各種役職)
- ・日本福祉のまちづくり学会 関西支部幹事
- ・日本造園学会関西支部大会座長および支部賞選考委員

◆ 嶽山 洋志

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・施策マネジメント基礎演習
- ・公園管理運営のソフト展開技術演習
- ・緑環境景観マネジメント企画演習
- ・反復型インターンシップ
- ・施策マネジメント実践演習

1.2 その他の担当科目

- ・花とみどりのまちづくり本科コース
- ・花とみどりのまちづくりマスターコース
- ・兵庫県立大学国際商経学部 非常勤講師
- ・関西学院大学建築学部 非常勤講師

1.3 学生指導、学内行事指導等

- ・児童発達支援の園庭における環境整

備のあり方について-自閉症スペクトラム障害のある子どもたちが好む遊びに着目して-

- (川尻優)
- ・明石公園におけるデジタルオリエンテーリングの実践 (石佳)
- ・淡路島における岩石景観の特徴とその観光利用のあり方について(續佳瑄)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(著書)

- ・嶽山洋志 (2022) 新しい生活での公園づくり, オープンスペースから都市を創る (林まゆみ編著), マルモ出版, 東京, p113-128.

(論文)

-査読あり-

- ・川尻優・嶽山洋志 (2022) 自閉症スペクトラム障害がある子どものための屋外の遊び環境に関する文献レビュー: 児童発達支援の環境整備への応用の検討. 景観園芸研究第23号 .7-20.

- ・嶽山洋志・立田彩菜・光成麻美 (2022) 慶野松原における観光まちづくり計画の策定. 景観園芸研究第23号 .21-29.

-査読なし-

- ・嶽山洋志・立田彩菜・光成麻美 (2022) 慶野松原を訪問する観光客の利用実態とそれを踏まえた観光まちづくり計画の策定. 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集 .69-72.

- ・川尻優・嶽山洋志 (2022) 社会福祉法人太陽会の自然観と人間観を反映した屋外空間. こども環境学研究 Vo118, No1.p83.

- ・川尻優・嶽山洋志 (2022) 自閉症スペクトラム障害のある子どもとその親が公園で出会うトラブルや困難について .2022年度日本造園学会関西支部大会研究・事例報告発表要旨集 .p31-32.

- ・續佳瑄・嶽山洋志 (2022) 淡路島における岩石景観の特徴とその観光利用のあり方について .2022年度日本造園学会関西支部大会研究・事例報告発表要旨集 .p52.

- ・石佳・嶽山洋志 (2022) 明石公園におけるデジタルオリエンテーリングの実践 .2022年度日本造園学会関西支部大会研究・事例報告発表要旨集 .p51.

・川尻優・嶽山洋志 (2022) 児童発達支援における自閉症スペクトラム障害がある子どもたちの遊び行動に対する職員の捉え方について：アンケート調査を通じた検討 .2022年度日本造園学会関東支部大会研究・事例報告発表要旨集。

・嶽山洋志・尾谷悠介・守宏美・北村智顕 (2023) コロナ禍における分散型公園利用を促進するデジタルスタンプラリーの実践。ランドスケープ技術報告集 Vol1. p24-26.

・嶽山洋志 (2022) 公園緑地のリノベーションに関する学生参加型ランドスケーププロジェクト。兵庫県立大学教育研究全学教員集会ポスターセッション資料集. p106.

(口頭発表・ポスター発表)

・嶽山洋志 (2022.7) 慶野松原を訪問する観光客の利用実態とそれを踏まえた観光まちづくり計画の策定。日本都市計画学会関西支部研究発表会、オンライン。

・嶽山洋志 (2022.9) 公園緑地のリノベーションに関する学生参加型ランドスケーププロジェクト。兵庫県立大学教育研究全学教員集会。

・續佳瑄・嶽山洋志 (2022.10) 淡路島における岩石景観の特徴とその観光利用のあり方について。2022年度日本造園学会関西支部大会、ポスター発表、オンライン。

・石佳・嶽山洋志 (2022.10) 明石公園におけるデジタルオリエンテーリングの実践。2022年度日本造園学会関西支部大会、ポスター発表、オンライン。

3. その他の研究

(科研費・研究助成)

・基盤研究C「米国 Schoolyard Park にみる教育+環境+地域づくり拠点の創出手法」(2020～2022 研究代表者)

・令和4年度大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業「新たな観光コンテンツ開発と津波防災まちづくりの多角的展開」(研究代表者)。

・令和4年度「子どもの冒険ひろば」補助事業補助金 (研究代表者)。

・コロナ禍における県立都市公園のあり方研究 (研究代表者)。

(受託研究)

・多井畑西地区交流広場計画策定及び

整備に関する調査研究 (締結日～R5.3.31)神戸市都市局(研究代表者)。

4. 学内委員会等活動

(研究科)

・教務委員会：FD担当として講演会等の企画運営、実践演習とりまとめ担当、施策マネジメント実践演習・基礎演習とりまとめ

・広報委員会委員長：オープンキャンパス、HPおよびメルマガ運営、ガーデンショーなどイベント出展、県立大広報動画の制作、広報検討ワークショップの開催

・事業推進担当：アルファ祭の運営
・教育システム自己点検委員会：認証評価の7章の取りまとめ、領域内の授業資料取りまとめ

・予算委員会：研究費の配分調整

・図書委員会：図書の購入など

5. 社会活動

(委員会)

・兵庫県景観審議会委員、兵庫県 (2018.7～)。

・淡路市環境審議会委員、淡路市 (2014.3～)。

・芦屋市都市景観審議会委員、芦屋市 (2020.4～)。

・甲山森林公園管理運営協議会座長、株式会社日比谷アメニス (2019.9～)。

・県立都市公園のあり方検討会明石公園部会 副部会長、兵庫県 (2022.7～)。

・明石市都市景観アドバイス会議座長、明石市都市整備部 (2012.8～)。

・淡路島公園管理運営協議会会長、兵庫県園芸・公園協会 (2021.4～)。

・淡路地域ビジョン委員会専門委員、兵庫県ビジョン課 (2012.4～)。

・淡路市文化財保存活用地域計画検討会委員、淡路市 (2020.7～)。

・福良港津波防災ステーション円卓会議委員、南あわじ市 (2014.4～)。

・AWAJI 未来探検隊企画委員会委員、国立淡路青少年交流の家 (2015.6～)。

・AWAJI 防災・減災ジュニアリーダー育成プロジェクト企画委員、国立淡路青少年交流の家 (2021.3～)。

・淡路市フロンティアプロジェクト関係者会議メンバー、淡路市教育委員会 (2012.5～)。

・東日本大震災ひょうごまちづくり専

門家バンク登録専門家、まちづくり技術センター (2012.4～)。

・大教大附属天王寺中・高校ビオトープ改修会議委員、大教大附属天王寺中高支援連合会 (2007.11～)。

・地域空間再生検討チームメンバー、兵庫県企画県民部政策室 (2016.6～)。

・地域再生アドバイザー、兵庫県県民交流室 (2014.9～)。

・淡路島牛井委員会委員、淡路島観光協会 (2010.7～)。

(講演・イベント・展示・その他)

・「甲山プレーパーク全6回」プレーリーダー。兵庫県立大学大学院・だんごむしの会主催 (2022.4～2022.11)。

・「明石公園プレーパーク全2回」プレーリーダー。兵庫県立大学大学院・だんごむしの会主催 (2023.1～2023.2)。

・「兵庫県のパークマネジメントについて」講師。明石公園の自然を次世代につなぐ会主催 (2022.7)。

・地域再生プロジェクトチーム会議、コメンテーター、兵庫県淡路県民局主催 (2022.7)

・淡路三原高校「総合的な探求の時間」「南あわじ地域の風景の魅力と課題」講師。淡路三原高校主催 (2022.4)。

・淡路三原高校「総合的な探求の時間」「これからの取り組みについて」講師。淡路三原高校主催 (2022.9)。

・新潮流セミナー「淡路景観園芸学校における学生参加型ランドスケーププロジェクト」講師。淡路景観園芸学校主催 (2022.11)。

・ひょうごecoユースフォーラム「楽しく脱炭素社会～自分達ができることを考えよう～」全体コーディネーター。兵庫県環境政策課主催 (2023.1)

・「昔の暮らし」講師。石屋小学校主催 (2023.2)

6. 学会活動等

(所属学会)

・(社)日本造園学会 (2000)

・(社)日本都市計画学会 (2001)

・こども環境学会 (2006)

・日本環境教育学会 (2012)

(学会各種役職)

・日本造園学会関西支部ランドスケ-

- ・ 遺産部会委員, 日本造園学会 (2014.9～)
- ・ 日本造園学会パークマネジメント研究推進委員会委員 (2016.5～)
- ・ 日本造園学会学術委員会 (2019.8～)
- ・ 日本造園学会論文集委員会 4T テーブル幹事 (2021.9～)
- ・ 2022 年度日本造園学会関西支部大会事務局
- ・ JABEE 審査研修員 (2021.1～)
- ・ こども環境学会論文集委員会委員 (団体)
- ・ 沼島ジオツーリズム準備会 事務局
- ・ 高台プレーパーク有志の会 代表
- ・ 兵庫総合学習支援研究会 代表
- ・ 阪神ビオトープフォーラム メンバー
- ・ P N研究会 メンバー

◆平田 富士男

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 教授)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・ 緑環境景観政策論 (主任)
- ・ 緑環境景観政策演習 (主任)
- ・ 施策マネジメント基礎演習 (分担)
- ・ 緑環境景観企画マネジメント演習 (分担)
- ・ 施策マネジメント実践演習 (分担)

1.2 園芸療法課程担当科目

- ・ 人・緑・健康 (分担)

1.3 その他の担当科目

- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー本科コース前期「花と緑のまちづくり講座」全般の企画, 運営, 教育
- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー本科コース後期「花と緑の地域づくり講座」全般の企画, 運営, 教育
- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー・マスターコース全般の企画, 運営, 教育
- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー・テーマコース「実践 ヤギ除草講座 (初級編)」の企画, 運営, 教育
- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー・テーマコース「実践 ヤギ除草講座 (中級編)」の企画, 運営, 教育
- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー・テーマコース「里山のやっかいものを役立ちモノにクラフトする (ツル編)」の企画, 運営, 教育

- ・ 生涯学習コース, まちづくりガーデナー・テーマコース「里山のやっかいものを役立ちモノにクラフトする (竹編)」の企画, 運営, 教育

1.4 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・ NPO 法人アルファグリーンネット (当校生涯学習コース修了生による花と緑のまちづくりのボランティア活動実践ネットワーク組織) の活動支援を行った。
- ・ 公務員試験受験希望者に対して、試験までの事前学習計画づくり、計画にそった学習の指導を行うとともに、論文試験のための添削指導、模擬面接等の指導を行った。
- ・ コロナ感染が下火となるなかで、学生の就職活動として、対面とオンライン併用で仕事の内容を知る OB による企業等説明会を企画運営した。

1.5 他学部での講義

- ・ 環境人間学部「緑の都市づくり計画とデザイン」分担
- ・ 兵庫県立大学副専攻「地域創生人材育成プログラム」における「ひょうご地域課題概論」「フィールドワーク基礎技術演習 1」「フィールドワーク基礎技術演習 2」「地域プロジェクト実践論」「地域プロジェクト演習」分担

2. 主な業績

2.1 著書・論文・報告書等

(著書)

- ・ 平田富士男 (2022) 「NPO と緑」、造園大百科事典、朝倉書店、東京、226-227.

(論文)

- ・ 守宏美・新保奈穂美・平田富士男 (2022) 山羊飼育未経験者が山羊除草導入時に直面する課題、ランドスケープ研究 85- 5、661-666.
- ・ 平田富士男 (2022) 計画的な公園リノベーションと市民参画のあり方～身近な公園の再生の視点～、公園緑地 83- 3、5-10.
- ・ 平田富士男 (2023) まちの資産となる公園、まちの資産価値を高める公園を目指して、国際文化研修 119、6-11.

(査読等)

- ・ 日本都市計画学会学術論文集
- ・ 日本造園学会研究論文集
- ・ 環境情報科学論文集
- ・ 建築学会計画系論文集

3. その他の研究

(外部資金の獲得)

- ・ 科研費 基盤研究 (C) (一般) 「管理運営の成果を活かしたリノベ計画技術体系化のための関係業務実態分析とその構図化」(令和 4 年度～6 年度) 研究代表者
- ・ 研究受託 「住民団体の持続可能な花緑活動に関する調査 一人間サイズのまちづくり賞受賞団体を例として」、(公財)兵庫県園芸・公園協会

4. 学内委員会等活動

(景観園芸学校)

- ・ 運営会議委員
- ・ 淡路キャンパスキャリアセンター長 ZOOM を活用した OB 等からの企業説明会を以下のように企画実施
- ・ 11 月 19 日(土) 13:00～16:00
- 講師 平田富士男 および OB 10 名
- 参加者 学生 6 名
- 内容 OB からの業界の現状説明
- ・ 国際部長 (兵庫県立大学)

- ・ 兵庫県立大学 地域創造機構 地域連携教育研究センター長
- ・ 兵庫県立大学 共通教育推進部会委員
- ・ 兵庫県立大学 キャリアセンター運営会議 委員

5. 社会活動

(委員会)

(役員等)

- ・ (一財)公園財団 研究顧問 (2006.4.～)
- ・ (一社)日本公園緑地協会 研究顧問 (2008.4.～)
- ・ (一財)大阪府公園協会 評議員 (2010.10.～)
- ・ (一財)都市農地活用支援センター 研究顧問 (2017.1.～)
- ・ 公益社団法人兵庫県緑化推進協会運営協議会委員 (2012.7.～), (公財)兵庫県緑化推進協会
- ・ NPO 法人こころの森、理事 (2018.2.～)
- ・ 一般社団法人ひと・まち・もり、監事 (2020.4.～)
- (委員会委員等)
- ・ 兵庫県まちづくり政策審議会 委員 (2003.12.～2023.3.), 兵庫県
- ・ 公園管理運営士試験委員会 委員長 (2005.9.～), (一財)公園財団・(一社)日本公園緑地協会

- ・都市公園コンクール審査委員会 委員 (2007.8～), (-社)日本公園緑地協会
 - ・高槻市緑地環境保全審議会 副会長 (2010.11.～2022.12.), 高槻市
 - ・兵庫県土地収用事業認定審議会 会長 (2012.10.～2022.10.), 兵庫県
 - ・明舞まちづくり委員会 アドバイザー (2013.2.～), 兵庫県住宅供給公社
 - ・川西市景観審議会 副会長 (2013.6.～), 川西市
 - ・姫路市都市計画審議会 委員 (2014.3.～), 姫路市
 - ・兵庫県都市公園指定管理者候補者選定委員会委員長 (2014.6.～), 兵庫県
 - ・伊丹市環境審議会みどり環境部会委員 (2015.3.～), 伊丹市
 - ・全国花のまちづくりコンクール審査委員会 委員 (2015.4.～), 花のまちづくりコンクール推進協議会 (公益財団法人日本花の会 内)
 - ・県民まちなみ緑化事業検討委員会 委員 (2016.6.～), 兵庫県.
 - ・(-社)日本公園緑地協会「北村賞」選考委員会 委員 (2018.1.～)
 - ・明舞団地公的資産活用検討会委員 (2018.8.～), 兵庫県住宅供給公社
 - ・滋賀県希望ヶ丘文化公園活性化検討懇話会座長 (2019.10.～), 滋賀県
 - ・西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備PFI事業者選定委員会 委員長, (2019.4.～), 西宮市
 - ・西宮市都市公園指定候補者選定委員会 委員長 (2022.5.～2023.3.)
 - ・西脇市まちづくり審議会 会長 (2020.8.～)
 - ・国営海の中道海浜公園外部評価委員会 座長 (2020.12.～), (-財)公園財団.
 - ・枚方市都市公園指定管理者選定委員会 委員 (2021.7.～2022.3.)
 - ・JABEE 2021 年度認定審査チーム主審査員, 一般社団法人日本技術者教育認定機構 (2022.1.～2022.3.)
 - ・宇治市公園公社事業評価外部委員会委員長 (2022.6.～)
- (講演等)
- ・政策・実務研修「令和時代の公園管理」講演「まちの資産となる公園を目指して」、(公財)全国市町村国際文化研修所 (2022.8.18.)
 - ・日本運動施設建設業協会関西支部講習会講演「運動施設業の今後について」、日本運動施設建設業協会関西

- 支部 (2022.9.22.)
 - ・地域の担い手育成講座「名谷ワッショイ」講演「落合中央公園を「楽しみつくる」・「使い倒す」、神戸市須磨区 (2022.9.29.)
 - ・富山県花と緑の祭典 2022 第 50 回花と緑の大会記念講演「儲かる花と緑のまちづくり—これからの「花と緑のまちづくり」は何を目指すべきか—」、富山県・(公財)花と緑の銀行 (2022.10.19.)
 - ・NPO 法人アルファグリーンネット・阪神地区キャラバンでの講演「市民森づくりのあゆみ」、神戸市灘区 (2022.10.28.)
 - ・防災・減災シンポジウム (神戸防災のつどい 2023) 第 16 回災害対策セミナー基調講演「ある技術士の復興まちづくり支援 10 年の記録 —被災者団体を石巻津波復興祈念公園の指定管理者に育てるまで—」、日本技術士会近畿本部 (2023.1.14.)
 - ・いなみの学園景観園芸学科講座、「花と緑で人・まちを元気に ～景観園芸によるまちづくり ひょうごからの発信～」(2023.1.24.)
 - ・山口大学地域防災・減災センター第 8 回防災・減災講演会講演「復興まちづくりと教育機関の役割—阪神・淡路大震災と東日本大震災の復興まちづくりから—」(2023.3.14.)
- (シンクタンク活動)
- ・宮城県石巻市南浜復興祈念公園計画地における市民森づくり活動における植栽計画および市民グループの運営方法等の全般的な支援 (年間を通じて)
 - ・公園マネジメントに関する産官学の研究交流会「PN 研究会」の主宰 (年間を通じて)

6. 学会活動等

- (所属学会)
- ・日本造園学会 (1992～)
 - ・日本都市計画学会 (1995～)
 - ・環境情報科学センター (1999～)
- (学会各種役職)
- ・日本造園学会 学会賞選考委員 (2014.8.～)
 - ・日本造園学会 学術委員 (2021.8.～)
 - ・環境情報科学センター 企画委員 (2015.4.～)

◆新保 奈穂美

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 講師)

1. 教育活動

- 1.1 研究科担当科目
- ・市民主体の緑環境マネジメント演習 (1 年, 前期, 主任)
 - ・市民主体の緑環境マネジメントとSDGs (1 年, 後期, 主任)
 - ・施策マネジメント実践演習 (2 年, 通年, 主任)
 - ・施策マネジメント基礎演習
- 1.2 その他の担当科目
- ・生涯学習コース, まちづくりガーデン本科コース「花と緑のまちづくり講座」全般の企画, 運営, 教育
 - ・生涯学習コース, まちづくりガーデン・マスターコース全般の企画, 運営, 教育
- 1.3 学生指導, 学内行事指導等
- ・福岡市のコミュニティパーク事業による公園緑地を活用した見守り, 交流創出効果の検証 (浅尾菜月)
 - ・高齢化社会におけるコミュニティガーデンの持続的運営に向けた支援—神戸市のすずらんコミュニティガーデンを事例に (バイインタナ)
 - ・農のあるライフスタイルデザインの提案—トランジションタウン藤野のケーススタディおよびパーマカルチャーガーデンの実践—(萩原美和)
- 1.4 他学部・大学での講義
- ・環境人間学部「緑景観マネジメント論」分担
 - ・筑波大学グローバル教育院「Literacy in Global Issues (Environment)」, 「Seminars on Global Issues A-I」, 「Seminars on Global Issues A-II」分担
 - ・千葉大学園芸学部「環境造園実習 II」分担
 - ・東北大学大学院国際文化研究科「調査方法論 (日本語)」
- ### 2. 主な業績
- 2.1 論文・著書・報告書等 (論文)
- ・太田尚孝・新保奈穂美 (2022) ベルリンの壁跡地を巡る利活用の実態と課題に関する基礎的研究—壁崩壊後のチェックポイント・チャーリーの再整備に向けた計画プロセスと合意

形成に注目して、都市計画論文集 57 (2), 364-374.

- ・太田尚孝・新保奈穂美・五十石俊祐 (2023) ベルリンにおける雨水の利活用に基づく気候変動対応型の都市開発政策と都市開発事業に関する準備的調査報告:「水循環に配慮した都市発展」と「スポンジシティ」を中心に. 兵庫県立大学環境人間学部研究報告, 25, 47-59.

(著書)

- ・新保奈穂美 (2022) まちを変える都市型農園 コミュニティを育む空き地活用. 学芸出版社, 208pp.
- ・新保奈穂美 (2023) 第10章 「農」を取り入れた新たな都市生活の潮流—海外編 欧米の歴史と近年の動向・第11章 「農」を取り入れた新たな都市生活の潮流—日本編 多様化していく日本の「農」とこれからの都市. 川原靖弘・鈴木淳一 (編著) 『ソーシャルシティ』, 179-193

(報告・寄稿)

- ・新保奈穂美 (2022) プレイスとしてのコミュニティガーデン—様々な人が地域社会と繋がる場. 都市計画, 71 (4), 48-49.
- ・荻茂寿太郎・田中尚人・秋田典子・新保奈穂美・榎本碧・荒川いずみ・上原奈桜・植野弘子・橋本美月 (2022) 継承したい庭園砂防の心と技. ランドスケープ研究, 86 (2), 131-135.
- ・浅尾菜月・新保奈穂美 (2023) 福岡市のコミュニティパーク事業による公園緑地を活用した見守り・交流創出効果の検証. 都市計画報告集, 21 (4), 504-507.
- ・新保奈穂美 (2023) 都市の農を通じ学びを得るエシカルツーリズム—コミュニティガーデン訪問を取り入れた旅行の提案. 観光研究, 34 (2), 102-105.

(発表会)

- ・新保奈穂美・坂本優紀・大塚啓太 (2022) 森林の新たな価値創造・管理・活用に向けた森林レンタル事業. 2022年度日本造園学会全国大会ポスターセッション, 2022.6.19.
- ・Shimpo, N. (2022) How and why community garden activities continued to occur in Japan despite the tendency toward self-restraint. IOER Annual Conference 2022 Space & Transformation: Liveable

Futures, 2022.9.22

- ・浅尾菜月・新保奈穂美 (2022) 福岡市のコミュニティパーク事業による公園緑地を活用した見守り・交流創出の効果の検証. 2022年度日本造園学会関西支部大会, 2022.10.22
- ・萩原美和・新保奈穂美 (2022) 農のあるライフスタイルデザインについて—トランジションタウン藤野をケーススタディとして—. 2022年度日本造園学会関西支部大会, 2022.10.22
- ・Shimpo, N., Sakamoto, Y., Otsuka, K., Mizuuchi, Y. (2022) Exploring new methods for sustainable forest management through forest rental businesses. 2022 Korea-Japan Rural Planning Symposium, 2022.11.4.
- ・新保奈穂美 (2022) みどりと震災復興: ニューゼーランド・クライストチャーチ市の事例より. AGN 神戸キャラバン with 園芸体験教室, 2022.12.12.

(査読等)

- ・日本都市計画学会学術論文集
- ・ランドスケープ研究
- ・環境情報科学論文集 (英文誌)
- ・景観園芸研究 (紀要)
- ・Landscape and Urban Planning
- ・Urban and Regional Planning Review
- ・Discover Sustainability

3. その他の研究

(外部資金の獲得)

- ・科研費 基盤研究 (B) 特設分野「人口減少下の大都市近郊における農的資源の評価」(2019～2022年度, 研究分担者)
- ・科研費 基盤研究 (C) 「ベルリンの壁跡地の空間利用と21世紀のオープンスペース整備論に関する研究」(2020～2022年度, 研究分担者)
- ・科研費 若手研究「社会福祉施設との連携を踏まえたコミュニティガーデンに関する空間計画論の構築」(2021～2023年度, 研究代表者)
- ・国土地理協会助成研究「森林レンタル事業がもたらす新たなライフスタイル像と森林経営・管理方法の解明」(2022.10～2024.3, 研究代表者)

4. 学内委員会等活動

(景観園芸学校)

- ・運営会議委員
- ・新展開会議委員
- ・国際化推進主査
- ・学生生活支援委員
- ・紀要・学校報編集委員

5. 社会活動

(委員会)

- ・岩槻駅西口土地区画整理審議会委員 (2017.10.～), 埼玉県さいたま市
- ・さいたま市花とみどりのまちづくり審議会委員 (2020.8～), 埼玉県さいたま市
- ・淡路島公園・あわじ石の寝屋緑地管理運営協議会観光交流部会委員 (2021.6～), 兵庫県淡路市
- ・グリーンインフラの社会実装に向けた緑の基本計画等のあり方検討会 (2021.9～), 国土交通省
- ・尼崎市都市計画審議会住宅政策分科委員 (2021.12～), 兵庫県尼崎市
- ・尼崎市都市計画審議会公園緑地分科委員 (2022.1～), 兵庫県尼崎市
- ・神戸市公園緑地審議会委員 (2022.1～), 兵庫県神戸市
- ・2027年国際園芸博覧会政府出展計画検討会委員 (2022.12～)
- ・国営明石海峡公園 神戸地区基本計画改定委員会委員 (2023.3～)
- ・兵庫県まちづくり審議会 委員 (2023.3～)

(講演等)

- ・2022年度日本造園学会全国大会公開シンポジウム 兼 第39回全国都市緑化北海道フェア 都市緑化普及啓発シンポジウム「広がる, つながる, 花のまちづくり」パネルディスカッション, 「ガーデンング」でまちづくり～意義と課題～. 恵庭市民会館, 2022.6.18
- ・LABO 大学ゼミ「まちなかの農園が社会を救う?—欧米と日本の事例から—, まちスボラボ, 2022.6.26
- ・トークイベント 新保奈穂美×南部良太「都市の農をデザインする」——『まちを変える都市型農園』刊行記念イベントシリーズ. 東京農村・オンライン, 2022.9.7
- ・トークイベント 新保奈穂美×金田康孝「空き地をもっと自由に使おう」——『まちを変える都市型農園』刊行記念イベントシリーズ. みんなのうえん北加賀谷第2農園・オンライン, 2022.10.10

- ・トークイベント 新保奈穂美×小野 淳「農でうみだすゆたかなアーバン ライフ」『まちを変える都市型農園』 刊行記念イベント。二子玉川葛屋家 電・オンライン, 2022.10.28
 - ・トークイベント 新保奈穂美×大谷 悠「都市をスキマから面白くする」 ——『まちを変える都市型農園』 刊行記念イベントシリーズ。オンラ イン, 2022.11.29
 - ・AGN 神戸キャラバン with 園芸体 験教室、みどりと震災復興：ニュー ジーランド・クライストチャーチ市 の事例より。長田区文化センター, 2022.12.12
 - ・トークイベント 新保奈穂美×佐倉 弘祐「農から建築を問いなおす」 ——『まちを変える都市型農園』 刊行記念イベントシリーズ。オンラ イン, 2022.12.21
 - ・シェラトフファーム スペシャル トークセッション、まちを変える 都市型農園。神戸ベイシェラトン, 2023.1.14.
 - ・Shimpo, N. (2023) Green Space Planning for All: Thoughts from the Perspective of Urban Gardening. Springer Nature & UTokyo SDGs symposium 2023 Cities and nature: exploring linkages and designing solutions for sustainability, University of Tokyo, 2023.2.28.
 - ・日本建築学会近畿支部住宅部会、都 市型農園と住まい：先の見えない時 代にフレキシブルな空間を。京都大 学, 2023.3.12
 - ・UR 都市機構西日本支社 公的空間検 討会・都市再生業務部若手勉強会、 持続可能なまちづくりに資する都市 型農園の意義と運営。UR 都市機構 西日本支社, 2023.3.14
 - ・リジェネラティブ アーバンファ ーミングワークショップ 循環型社会 を実現する「食と農」の新産業づく り、課題を解決する「農」の力。大 阪イノベーションハブ, 2023.3.14
- (その他)
- ・日本緑化センター グリーンエージ オンライン アカデミー講師「世界 に広がる都市型農園の歴史と社会的 意義」

6. 学会活動等

(所属学会)

- ・日本造園学会
 - ・日本都市計画学会
 - ・農村計画学会
- (学会各種役職)
- ・日本造園学会 編集委員会委員 (～ 2021.6), 幹事 (2021.7～)
 - ・農村計画学会 評議員, 国際委員会 委員
 - ・日本都市計画学会 URPR 改善タ スクフォース, 関西支部企画委員

◆大中 博文

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観 マネジメント研究科緑環境景観専門員)

1. 教育活動

1.1 その他の担当科目

- ・まちづくりガーデナー本科コースの 企画および実施
- ・まちづくりガーデナーマスターコー スの企画および花と緑の園芸実習 (分担)
- ・まちづくりガーデナーテーマコース (身近な材料で肥料と土づくり) の 企画および実施

1.2 その他の学生指導、学内行事指導など

- ・まちづくりガーデナー受講生の課題 解決活動、および成果発表にかかる 指導
- ・まちづくりガーデナー受講生の演習 発表会にかかる指導
- ・まちづくりガーデナー修士生への景 観園芸の実践支援、相談。
- ・PNG (プランター農園グループ) の活動支援
- ・AHGC (ALPHA Healing Garden Club) の活動支援
- ・AGNデモンストレーションガーデン (ひょうごまちなみガーデンショー) 作製に係る指導
- ・美化クラブの活動支援
- ・フィールド倶楽部及びフォローア ップ講座の企画および実施

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(口頭発表・ポスター発表)

- 札幌高志・大中博文・蛭田永規・角石 真弥, 2022. 新規木質土壌改良材が フレンチマリーゴールドの成長・開花

に及ぼす影響. 園芸学研究 22 (別冊 1) : 380.

3. 学内委員会等活動

(研究科)

- ・教務委員会 (園芸学校)
- ・生涯学習委員会
- ・フィールド会議

4. 社会活動

(講演等その他)

- ・NPO法人アルファグリーンネット 淡路地区キャラバン講演 (2022.6.10)

◆蛭田 永規

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観 マネジメント研究科緑環境景観専門員)

1. 教育活動

1.1 研究科課程科目

- ・フィールド植物観察演習 I (1年, 前 期, 分担)
- ・フィールド植物観察演習 II (1年, 後 期, 分担)

1.2 その他担当科目

- ・花と緑のまちづくりガーデナー・本科 コースの企画及び実施
- ・花と緑のまちづくりガーデナー・マ スターコースの企画及び実施

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・まちづくりガーデナー受講生の課題 解決活動及び成果発表に係る指導
- ・まちづくりガーデナー受講生の実践 演習発表にかかる指導
- ・フィールド倶楽部及びフォローア ップ講座の企画・実施
- ・AHGC (Alpha Healing Garden Club) の活 動支援
- ・美化クラブの活動支援
- ・AGNデモンストレーションガー デン (ひょうごまちなみガーデン ショー) 作製に係る指導

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(口頭発表・ポスター発表)

- 札幌高志・大中博文・蛭田永規・角石 真弥, 2022. 新規木質土壌改良材がフレン チマリーゴールドの成長・開花に及ぼす 影響. 園芸学研究 22 (別冊 1) : 380.

3. 学内委員会等活動

(研究科)

- ・教務委員会
- ・広報委員会

(園芸学校)

- ・生涯学習委員会
- ・環境保全委員会
- ・フィールド会議

(情報提供)

- ・学校ホームページ 生涯学習課程

4. 社会活動

(講演等その他)

- ・令和4年度県立学校技能労務職員研修 (2022.7.21)
- ・兵庫県立森林大学校 施設見学案内 (2023.1.20)
- ・NPO 法人アルファグリーンネット東播磨地区キャラバン講演 (2023.2.24)

◆沈悦

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授)

1. 教育活動

1.1 大学院科目

- ・緑環境景観マネジメント概論 (1年, 前期, 主任)
- ・景観計画デザイン論 (1年, 前期, 主任)
- ・活用デザイン基礎演習 (1年, 前期, 主任)
- ・生活空間デザイン演習 (1年, 前期, 主任)
- ・景観活用デザイン演習 (1年, 後期, 主任)
- ・反復型インターンシップ (1年, 前・後期, 分担)
- ・活用デザイン実践演習 (2年, 通年, 分担)

1.2 学部教育科目

- ・兵庫県立大学環境人間学部「緑の都市づくり計画と設計」講義 (分担)

1.3 園芸療法課程科目

- ・人・緑・健康 (分担)

1.4 その他の担当

- ・花と緑のまちづくりマスターコース 講師

(学内委員会)

- ・緑環境景観マネジメント研究科

(研究科長)

- ・自然環境科学研究所 (次長)
- ・県立大本部教育研究審議会 (委員)
- ・県立大本部研究倫理委員会 (委員)
- ・県立大学入学試験協議会 (委員)
- ・県立大本部ダイバーシティ推進委員会 (委員)
- ・県立大学自己評価委員会 (委員)
- ・コンプライアンス推進会議 (委員)
- ・研究倫理委員会 (研究科内、委員長)
- ・自己評価委員会 (研究科内)
- ・運営委員会 (委員)
- ・入試委員会 (委員)
- ・FD委員会 (委員)
- ・専門職大学院認証評価チームメンバー

(県立大学学部特色化事業)

- ・研究科のPR活動
- 1) 桂林理工大学との交流 (オンライン)
- 2) 深セン大学との交流 (オンライン)
- 3) 北京林業大学との交流 (オンライン)
- 4) 華南理工大学との交流 (オンライン)

1.5 学生指導・学内行事指導等

(実践型教育の実施、指導、発信)

- ・明石市石ヶ谷公園のリニューアル計画 (院生8名、それぞれの計画を兵庫県明石市に提案+動画発表)
- ・芸術系博物館におけるランドスケープデザイン (デザインコンペをベースにした提案, 院生1名)
- ・地方都市における低地集水エリアのグリーンインフラの導入に関する研究 (明石市都市局に提案, 院生1名)
- ・中国農村地区における小学校の環境デザイン (中国浙江省陳宅鎮小学校に提案, 院生1名)

(受賞)

- ・日本造園学会関西支部賞 (蘇圓圓, 明石市東部地区における低地集水域に着目した浸水危険区域の可視化研究)

(その他の指導)

- ・留学生指導
- ・デッサン指導
- ・プレゼン指導
- ・学生コンペ指導

—主な業績—

2. 論文・作品・受託研究など

(原著論文)

- ・So Xiu, Yue Shen, Ma Xiaomei, He Fang (2023): The 13th

China (Xuzhou) International Garden Expo Planning and Design, Landscape Architecture, Landscape Architecture 30 (3) p65-70

- ・蘇圓圓, 沈悦 (2023) 明石市における低地集水エリアに着目したグリーンインフラの導入に関する研究, ランドスケープ研究 86 (5) p523-528

- ・李路陽, 李厚君, 沈悦 (2023): 京都における茶庭の飛石動線の形態及び構成に関する研究, 景観園芸研究 23 (1) 1-6

(技術報告)

- ・沈悦 (2023) オンラインによる作庭のケーススタディ, ランドスケープ技術報告集 (日本造園学会) Vol.1, 2022, p 33-35

(口頭発表)

- ・沈悦 (2022): オンラインによる庭づくりの可能性について (日本造園学会関西支部大会) 2022.10.23

(研究上の受賞)

- ・何昉, 程巍, 沈悦, 鄭占峰ら (2022) 中国風景園林学会「中国風景園林科学技術賞」(規制設計分野二等賞 (規制設計分野二等賞 (安雄悦谷公園-環翠園))
- ・沈悦, 深圳市媚道風景園林与城市规划设计院 (2022): 中国広東省勘察設計協会「風景園林分野一等賞 (仙湖植物園「苦苣苔園」プロジェクト)

3. 社会活動

(専門講座・講演)

- ・沈悦「Soil, Water and Landscape」, The National Conference of Soil and Water Conservation Society of China」基調講演 2022.11.27
- ・沈悦「オンラインによる庭づくりの試み」, 桂林理工大学観光及び風景園林学院特別講座 .2022.12
- ・沈悦「景観計画II」, 深セン大学建築学院特別講座 .2022.4

(アドバイザー)

- ・中国海口市海外シンクタンクメンバー (2008～)
- ・深セン市景密公園リノベーション助言 (オンライン) .2022.10
- ・中国徐州市国際花博の助言 (オンライン) .2022.04

(その他)

- ・北京林業大学風景園林学院兼任教授

- (非常勤 2006 ~)
- ・桂林理工大学兼任教授
(非常勤 2019 ~)
- ・日本造園学会研究論文集査読委員
(2000 ~)
- ・都市計画学会関西支部国際委員会委員
(2004 ~)
- ・中国風景園林学会規畫委員会委員
- ・中国風景園林学会誌「中国園林」編集・刊行委員会委員
- ・中国ランドスケープ専門誌「風景園林」編集・刊行委員会委員
- ・中国深セン市土木建築学会生態委員会委員
- ・中国広東省都市計画協会風景園林分会学術委員
- ・中国深セン大学粵港澳自然保護地研究センター名誉委員

◆竹田 直樹

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

- 1.1 研究科担当科目
 - ・環境文化活用演習
 - ・環境文化活用論
 - ・活用デザイン実践演習
- 1.2 園芸療法課程担当科目
- 1.3 その他の担当科目
 - ・環境芸術論

2. 主な業績

- 2.1 論文・著書・報告書等
(報告や論文など)
 - ・竹田直樹 (2022) パブリックアートについて4つの考察 第1回：社会から自律することを強制され自由主義のモニュメントになったパブリックアートは、社会から自律していなかった。環境芸術 (28), 17 - 23.
 - ・竹田直樹 (2022) パブリックアートについて4つの考察 第2回：「独裁者」のようなアートディレクターが登場し、モニュメント性を除去されたパブリックアートは社会から自律した。環境芸術 (29), 73 - 81.
(査読等)
 - ・環境芸術学会
(展覧会)
 - ・個展「深い森から展」ギャラリーマリー (神戸市)

- ・グループ展「それぞれの作家展」
ギャラリーT (芦屋市)

3. 学内委員会等活動

- (園芸学校)
- ・環境委員会
 - ・図書委員会
 - ・学校報紀要委員会

4. 社会活動

- (委員会)
- ・兵庫県開発審査会
 - ・福崎町都市計画審議会

5. 学会活動等

- (所属学会)
- ・環境芸術学会
- (学会各種役職)
- ・環境芸術学会理事

◆光成 麻美

景観園芸専門員

1. 教育活動

- 1.1 研究科担当科目
 - ・ガイダンス講義 (1年前期、分担)
 - ・活用デザイン基礎演習 (1年前期、分担)
 - ・生活空間デザイン基礎演習 (1年前期、分担)
 - ・緑環境景観マネジメント概論 (1年前期、分担)
 - ・景観活用デザイン演習 (1年後期、分担)
 - ・地域資源・観光プロデュース (1年通年、分担)
 - ・緑地活用論 (2年前期、分担)
 - ・活用デザイン実践演習 (2年通年、分担)
- 1.2 園芸療法課程担当科目
 - ・栽培演習 (分担)
- 1.3 その他の担当科目
 - ・まちづくりガーデナーマスターコース (分担)
「庭園デザイン演習」
- 1.4 その他の学生指導、学内行事指導等
 - ・アルファ祭における学生相談、指導

2. 主な実績

- 2.1 論文・著書・報告書等
 - 嶽山 洋志, 立田 彩葉, 光成 麻美 (2022.08) 慶野松原を訪問する観光客の利用実態とそれを踏まえた観光まちづくり計画の策定. 日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集 20 .pp 69-72.

3. その他の研究

- (受託を受けた研究)
- ・淡路島百景の SNS での PR 及びまちづくり活動への活用等に関する調査研究 (2022.08.01 ~ 2023.03.31)

4. 学内委員会等活動

- (園芸学校)
- ・新展開推進会議
 - 一国際推進
 - 一ガーデンリニューアル
 - 一連携事業推進：北淡路花緑ネットワーク会議
 - ・広報委員会

5. 学会活動等

- (所属学会)
- ・(社)日本造園学会 (2016 ~)
- (所属団体)
- ・全国女性造園技術者の会 (2019 ~)

◆岩崎 哲也

主任景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 准教授)

1. 教育活動

- 1.1 研究科担当科目
 - ・環境防災計画演習 (1年後期)
 - ・活用デザイン実践演習 (2年, 分担)
 - ・反復型インターンシップ (1年, 分担)
 - ・フィールド植物観察演習 I, II (1年前期・後期, 分担)
 - ・緑環境景観マネジメント企画演習 (1年後期, 分担)
- 1.2 その他の担当科目
 - ・花と緑のまちづくり本科コース「まちの緑と昆虫」(分担)
 - ・花と緑のまちづくりマスターコース「樹木や昆虫の識別法と実践」(分担)
- 1.3 その他の学生指導、学内行事指導等
 - ・淡路景観園芸学校における人と生物が共存するピオトープの提案 (馮 子謙)
 - ・職場環境改善のためのコケ利用の提案 (松本 祐季)
 - ・草刈機のスマート化に関する調査研究 (山下 光二)
- 1.4 他学部大学出講
 - ・緑景観マネジメント論 (兵庫県立大学工学部 1年前期, 分担)

2. 主な業績

2.1 論文・著書・報告書等

(論文・査読無し)

- ・田村凌、岩崎哲也(2022.7) 淡路島周辺におけるクビアカツヤカミキリの被害実態と淡路島への影響. 樹木医学研究 26 巻 3 号. pp129-130.

2.2 査読等

(査読等)

- ・日本造園学会 オンライン論文集 査読
- ・日本造園学会 5号論文 査読
- ・環境情報科学センター論文集 査読

3. その他の研究

(発表会・シンポジウム等)

- ・松本祐季、岩崎哲也(2022.10) 小規模オフィスにおける職場環境改善のための苔利用の提案. 日本造園学会関西支部大会. 神戸 KIITO. ポスター発表
- ・山下光二、岩崎哲也(2023.3) スマート農業の課題と将来展望-草刈のスマート化に関する調査研究-. 兵庫県立大学 企業・大学院連携研究 / 地域連携卒業研究成果発表会. 姫路・西はりま地場産業センター

4. 学内委員会等活動

(景観園芸学校)

- ・新展開推進会議事務局
- ・新展開推進会議ガーデナリニューアル主査
- ・新展開推進会議広報等委員会
- ・予算・共同研究推進委員会主査

(研究科)

- ・入試運営委員会
- ・入試広報委員会(オープンキャンパス・学校説明)主査
- ・淡路島環境未来島構想系(兵庫県立大学全学委員会)
- ・人権啓発委員会

5. 社会活動

(役員)

- ・全国巨樹・巨木林の会 理事(2017～)
- ・あわじ地域創生センター 代表(2020～)
- ・自然環境復元協会 理事(2020～)(委員会、研究会委員等)
- ・屋上・壁面緑化技術コンクール審査会委員,(公財)都市緑化機構(2023～)
- ・1級・2級ビオトープ管理士管理関連委員,(公財)日本生態系協会(2009～)

- ・上級・中級・初級環境再生医管理関連委員,NPO法人自然環境復元協会(2020～)

- ・グランドカバー・ガーデニング共同研究会地域性系統緑化部会部会員,(公財)都市緑化機構

- ・環境緑化技術共同研究会会員,(公財)都市緑化機構

- ・日本樹木医学会技術部会オブザーバー,(一社)日本樹木医学会

- ・S社企業緑地関連事業アドバイザー

- ・S社愛媛県新居浜市ビオトープアドバイザー

(講演等その他)

- ・環境再生医オンライン勉強会「環境プチ勉強会」～第2回～(2022.8.10-現在)「不自然な自然」,web配信,NPO法人自然環境復元協会,参加約200名

- ・樹木の学校77zoomオンライン講座(2022.8.21)「嫌いな虫との付き合い方」,NPO法人樹木生態研究会,参加20名

- ・ビオトープ管理士セミナー講師(webオンデマンド開催,2022.7～11),施工部門,日本生態系協会

- ・環境緑化技術に関する研究者発表会「都市樹木の各種特性と防火効果」(web開催,2022.11.10),(公財)都市緑化機構,参加80名

- ・環境再生医中級初級資格者講座(2023.1.7-1.30)「都市部での生物多様性～小さな生きもの達から考える「いのちと環境」への向き合い方」,参加116名,web配信,NPO法人自然環境復元協会

- ・「奇跡体験!アンビリバボー『衝撃映像SP』」監修,(株)E&W

6. 学会活動等

(所属学会)

- ・日本造園学会(1988～)
- ・樹木医学会(1999～)
- ・環境情報科学センター(2002～)

(学会各種役職)

- ・ランドスケープ研究(オンライン論文集)校閲委員,日本造園学会
- ・造園技術報告集委員会 委員(2019～)日本造園学会
- ・造園CPD推進委員会、企画会議委員(2019～)日本造園学会
- ・造園CPDプログラム認定委員会幹事(2019～2021)日本造園学会

◆ 栢田 行央

景観園芸専門員

(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 緑環境景観専門員)

1. 教育活動

1.1 研究科担当科目

- ・樹木植栽管理演習(1年、通年、分担)
- ・造園施工演習(1年、通年、分担)
- ・里地里山の保全管理演習(1年、通年、分担)
- ・植物管理技術演習(1年、通年、分担)
- ・生活空間デザイン演習(1年、前期、分担)
- ・ガーデンデザイン演習(1年、通年、分担)
- ・緑環境景観機能評価演習(2年、前期、分担)

1.2 その他の担当

- ・まちづくりガーデナー本科コース(分担)
- ・まちづくりガーデナーテーマコース(分担)

1.3 その他の学生指導、学内行事指導等

- ・SDGs推進チーム活動支援

2. 学内委員会等活動

(園芸学校)

- ・新展開推進会議
- ・フィールド会議

VI 資 料



1 令和4年度 マスコミ等掲載(取材)状況

掲載日(放映日)	掲載新聞名等	内 容(テーマ)
4/3(日)	サンテレビ	まさに Win-Win な「メエ～案」 淡路の実証実験で活躍するのは…?
4/18(月)	兵庫ジャーナル	淡路景観園芸学校、県立大、阪神園芸 産学連携協定結ぶ
令和4年 3月発行	農業と福祉の連携は今 (総合農政課 発行)	園芸療法を学び、農を通して植物と人が成長できる場に
5月	広報淡路令和4年5月号	知ってる?市の鳥 [今月のクローズアップ] 絶滅から救え!チドリを見守る
5月	グリーン情報5月号	園芸業界向けセミナー TAKAMATSU スクール開催される
5/13(金)	読売新聞	漁師服「どんぞ」知ろう 淡路で28、29日 刺し子体験や講座
5/25(水)	神戸新聞	「どんぞ」魅力紹介 漁師の防寒着、刺しゅう体験
5/29(日)	神戸新聞	ひょうごテロワール ⁹ 但馬牛 人、牛、草原・・・千年の物語
6月	広報南あわじ6月号	高校生が地域課題を考える 淡路三原高校で講演会
6/7(火)	NHK 長崎放送局	長崎のギモン、それ知っとつと? 「長崎市大橋公園 サックス像の謎」 竹田直樹 准教授
6/8(水)	神戸新聞	姿消すシロチドリよ再び
6月発行	ふれあい 兵庫県学校厚生会6月号	あの人の人 ひきこもりの若者たちに居場所を 松本むつみさん
6/17(金)	神戸新聞	「草原文化」砥峰で考察
6/28(火)	神戸新聞	島の魅力 万博で売り込め
7/15(金)	サンテレビ	県立都市公園のあり方検討会「明石公園部会」初会合 泉市長「早急な対応必要」と意見
7/19(火)	神戸新聞	明石公園のあり方 60人議論
7/20(水)	朝日新聞	おいでおいで 南あわじ
8/3(水)	朝日新聞	ハス見ごろ
8/11(木)	朝日新聞	食べられる公園自由に収穫 地域住民ら交流 つながり広がる
8/25(木)	朝日新聞	島内外のリユゼツラン 開花 次々
9/23(金)	神戸新聞	シロチドリ観察し環境学ぶ 浦小学校 住民ら講師に特別授業
11/9(水)	神戸新聞	シンガポールの国づくりと淡路島の将来展望
11/15(火)	神戸新聞	都市の緑 重要性強調 淡路政経懇話会の特別例会 駐日シンガポール大使講演
11/22(火)	神戸新聞	紫のラン 天皇陛下の名を付け 「デンドロビウム ナルヒト コウタイシ デンカ」
11/25(金)	神戸新聞	海の環境保全考えよう 基調講演、津名港で帆船内見学
11/27(日)	神戸新聞	浜の環境保全に関心を シロチドリ保護活動など報告
12/3(土)	全国農業新聞	障害特性考え支援 研修でジョブコーチ育成
12/4(日)	神戸新聞	「みんな一緒に」優しい遊具 「インクルーシブ型」障害、年齢関係なく
12/9(金)	全国農業新聞	多分野でニーズ高まる園芸療法
1/1(日)	神戸新聞	まちづくりガーデナー受講生募集
1/13(金)	NHK	チョコちゃんに叱られる! 「なぜ人は展望台にのぼりたがる?」 竹田直樹 准教授
1/19(木)	神戸新聞	タブレット手に明石公園を探索 設置されたQRコードからクイズ表示
1/22(日)	読売新聞	職場に緑 すっきり仕事
2/7(火)	神戸新聞	草刈りの負担を先端技術で軽減
2/8(水)	産経新聞	放置竹林 おいしく解決
2/15(水)	朝日新聞	にぎわい公園 地域住民が管理
2/15(水)	農業共済新聞	自著を語る まちを変える都市型農園
2/25(土)	神戸新聞	植物の癒やし効果学ぶ
3/18(土)	神戸新聞	植物見つめてストレス軽減

2 情報発信

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いたことにより人の往来が制限され、一般公開していた、園芸療法課程や研究科の学生による課題発表や実践発表は教職員と関係者のみで行った。

受験生を対象としたオープンキャンパスは、対人距離の確保、人数制限等の対策をとり、継続実施した。学校の魅力・情報発信については、ぼうさいこくたい2022など各種イベントへの出展参加、また、オンラインによる国際セミナーの実施など様々な機会をとらえて取り組んだ。

◇オープンキャンパス



◇地下鉄県庁前駅 広報ショーウィンドー「ひょうご情報ステーション」出展



◇環境学習



◇ぼうさいこくたい2022 出展



3 淡路景観園芸学校の来訪者概要

本校は、1999年4月の開校以来、全国初の“景観園芸”という新しい分野の教育・研究機関として活動し、校内の庭園は年中オープンしていることから、国内外から多くの来訪者がある。

そうした中、生涯学習コースの修了生が組織したNPO法人アルファグリーンネット（AGN）の会員が中心となり、本校を訪れる方々を案内するボランティアガイド（アルファメイト）を結成し、案内活動を行っている。

しかし、2022年度は新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響を受け、見学者は回復には至らなかった。

【主な視察団体】

ふたば写真同好会、(一社)全国農協観光協会、神戸新聞文化センター、新しい園芸を考える会、兵庫県立淡路高等学校、兵庫県立農業高校造園科、パソナユースフェデレーション、断捨離マインドセット 大人の遠足、神戸新聞カルチャーセンター、六甲山自然案内人の会、兵庫県いなみ野学園 絵画クラブ、北区民生委員児童委員協議会、鳥取県立智頭農林高等学校、かがわ長寿大学OB 遊楽会、あさひが丘ふれあいグループ、明石市民生委員児童委員連絡協議会会長会、兵庫県ハウストマト研究会、ふれあいサロン 浜千鳥、本山東婦人会、えんぴつの家デイケアセンター、神戸市立盲学校、兵庫丹波の森協会、J A兵庫南旅行センター、社会福祉法人 えんぴつの家 等

【2022年度の来訪者数（月別）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1,435	1,920	1,412	1,068	730	1,262	1,400
11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2,287	860	463	705	1,167	14,709名	

兵庫県立淡路景観園芸学校
学校報 ALPHA 2022

編集 学校報編集委員会
竹田 直樹（委員長）
劔持 卓也・澤田 佳宏
新保奈穂美・尾田 顕子
小野 琢哉

発行人 柴田 昌三

発行所 兵庫県立淡路景観園芸学校
兵庫県淡路市野島常盤 954 - 2
TEL.0799 - 82 - 3131

印刷所 株式会社奥井印刷

